

第10節 出土遺物観察表

表15 土器・土製品観察表(1)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	CⅩ SS3 埋土中	58・85・94・101・185	第38図 PL.31	弥生土器 甕	器高:11.4△	外面:口縁部5条平行沈線。頸部ヨコナデ。肩部斜行刺突文。以下ハケ目。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	SS5出土土器と接合。V-2様式。
2	CⅩ SS3 埋土中	56	第38図 PL.31	弥生土器 甕	口径:16.8※ 器高:4.2△	外面:口縁部平行沈線後一部ナデ消し。肩部貝殻腹縁による押し引き波状文。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:橙色 内面:にぶい黄褐色	V-3様式。
3	CⅩ SS3 埋土中	55	第38図 PL.31	弥生土器 小型甕	口径:9.6※ 器高:3.5△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による斜行刺突文。 内面:口縁部ヨコナデ。肩部以下ケズリ。	密	良好	内外面:浅黄色	V-2様式。
4	CⅩ SS3 埋土中	121	第38図 PL.31	弥生土器 甕底部	器高:3.1△ 底径:4.9※	外面:タテハケ。 内面:風化のため調整不明。	密	良好	外面:にぶい橙~黄灰色 内面:黄灰色	外面黒斑。
5	CⅩ SS3 埋土中	55	第38図 PL.31	弥生土器 甕底部	器高:4.2△ 底径:5.6※	外面:風化のため調整不明。ナデか。 内面:上方向ケズリ。	密	良好	外面:明黄褐色 内面:灰黄色	
6	CⅩ SS17 底面	1512	第39図 PL.31	弥生土器 小型壺	口径:7.9 器高:14.8 底径:5.8	外面:口縁部~頸部ヨコナデ。頸部~肩部タテハケ。体部下半ミガキ。底部不定方向ナデ。 内面:口縁部~頸部ヨコナデ。肩部以下ハケ目。	密	良好	外面:浅黄橙~灰黄褐色 内面:にぶい黄橙~黒色	内外面黒斑。Ⅲ-1様式。
7	CⅩ SS17 底面	1513	第39図 PL.31	弥生土器 小型壺	口径:8.2※ 器高:15.4 最大径:12.7 底径:6.4	外面:口縁部1条凹線。頸部ナデ。肩部~体部中位タテハケ。体部下半ミガキ。 内面:口縁部~頸部ナデ。肩部指押さえ。体部ハケ目。	密	良好	外面:浅黄色。 内面:浅黄~暗灰黄色	外面底部黒斑。体部下半焼成後打ち欠き。Ⅲ-1様式。
8	AⅩ SS1 褐色土(流土)	820	第43図 PL.33	須恵器 坏蓋	口径:13.4※ 器高:2.8	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ後ナデ。輪状つまみ貼り付け。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	八峠編年奈良初期。
9	AⅩ SS1 褐色土(流土)	459	第43図 PL.32	須恵器 坏蓋	口径:14.2※ 器高:2.7	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ後輪状つまみ貼り付け。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰~暗灰黄色	八峠編年奈良初期。
10	AⅩ SS1 灰褐色土(流土)	437・441	第43図 PL.32	須恵器 坏蓋	口径:14.5※ 器高:2.9△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	天井部重ね焼き痕。八峠編年奈良初期。
11	AⅩ SS2F6グリッド 斜面被覆土(黄褐色粘質土~灰褐色土)	909・1318・1319・1320・1323	第46図 PL.32	土師器 甕	口径:30.7※ 器高:23.8△ 最大径:29.0※	外面:風化のため調整不明。ナデか。 内面:口縁部ヨコナデか。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:浅黄橙~橙色	
12	AⅩ SS2 土器溜り	838	第46図 PL.32	土師器 甕	口径:29.8※ 器高:12.3△	外面:ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄橙~灰黄褐色 内面:浅黄~橙色	
13	AⅩ SS2F6グリッド 斜面被覆土(黄褐色粘質土)	1642	第46図 PL.32	土師器 甕	口径:21.6※ 器高:6.1△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:浅黄橙~灰褐色 内面:にぶい黄褐色	外面スス附着。
14	AⅩ SS2F6グリッド 斜面被覆土	909	第46図 PL.32	土師器 小型甕	器高:7.0△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙~灰黄褐色	外面二次被熱による赤変、スス附着。
15	AⅩ SS2F6グリッド 斜面被覆土(黄褐色砂質土)	1211	第46図 PL.32	土師器 移動式甕	器高:10.1△	外面:ナデ。指押さえ痕有。 内面:上方向ケズリ。	密	良好	内外面:浅黄褐色	
16	AⅩ SS2土器溜り	673・678・682	第46図 PL.32	土師器 移動式甕	器高:7.8△ 底径:43.4※	外面:粗いナデ。 内面:ケズリ後ナデ。	密(1mm程度の砂粒含む)	良好	外面:灰白~灰黄色 内面:浅黄褐色	
17	AⅩ SS2G6グリッド 盛土中	1186	第46図 PL.32	須恵器 坏蓋	口径:15.8※ 器高:1.8△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	八峠編年奈良中期。
18	AⅩ SS2F5グリッド 礫混灰褐色土	685	第46図 PL.32	須恵器 坏	口径:12.4※ 器高:3.4 底径:9.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内面:体部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	胎土分析試料31。八峠編年奈良中期。
19	AⅩ SS2土器溜り	677	第46図 PL.33	須恵器 高台坏	口径:17.9※ 器高:5.8△	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け。 内面:回転ナデ	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料33。八峠編年奈良中期。
20	AⅩ SS2F6グリッド 灰褐色土	950	第46図 PL.32	須恵器 高台坏	口径:10.8※ 器高:4.0 底径:8.1※	外面:体部回転ナデ。底部回転ケズリ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰~暗灰黄色 内面:にぶい黄橙~灰黄褐色	八峠編年奈良前期。
21	AⅩ SS2 盛土中	1186	第46図 PL.32	須恵器 高坏	器高:5.0△ 底径:10.2※	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
22	AⅩ SS2F5グリッド 灰褐色土	205	第46図 PL.32	須恵器 壺	器高:5.4△	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰褐色 内面:灰色	
23	AⅩ SS4 3層	91・114・123・135・137・139・142	第49図 PL.32	土師器 壺	口径:17.0※ 器高:7.0※	内外面:ミガキ。	密	良好	内外面:赤褐色	内外面赤色塗彩。
24	AⅩ SS4	114・123・135・137・139	第49図 PL.32	土師器 皿	器高	外面:ミガキ。 内面:風化のため調整不明。	密	良好	内外面:赤褐色	内外面赤色塗彩。
25	AⅩ SS4 2層	147	第49図	須恵器 長頸壺	器高:6.2△ 底径:9.2※	外面:回転ナデ。2条沈線。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	

第3章 調査成果

表16 土器・土製品観察表(2)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
26	CIX SS5 埋土下層	179	第51図 PL.34	須恵器 甕	器高:9.2△	外面:頸部2条1対の沈線間に2段以上の波状文。下半回転ナデ。 内面:回転ナデ後一部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
27	CIX SS5 底面	177	第51図 PL.33	須恵器 短頸壺	口径:6.6 器高:8.2	内外面:回転ナデ。	密	やや不良	内外面:淡黄色	
28	CIX SS6 埋土中	297	第53図 PL.34	土師器 甕	口径:25.8※ 器高:7.4△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下右方向ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄色	外面スス付着。
29	CIX SS6 埋土中	284	第53図 PL.34	土師器 甕	器高:6.7△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下右方向ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	外面スス付着。
30	CIX SS6 埋土中	273	第53図 PL.34	須恵器 蓋	口径:8.8※ 器高:0.9△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:緑黒色	
31	CIX SS8 埋土上層	558	第61図 PL.34	弥生土器 甕	口径:23.5※ 器高:6.2△	外面:口縁部8条平行沈線。肩部ヨコナデ。 内面:口縁部横方向ミガキ。頸部以下左方向ケズリ。	密	良好	外面:明黄褐色 内面:明黄褐~橙色	V-3様式。
32	CIX SS8 埋土下層中	730・737・750・754・ 758・760・789	第61図 PL.34	土師器 甕	口径:22.6※ 器高:4.5△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	外面スス付着。
33	CIX SS8 埋土下層中	739	第61図 PL.34	土師器 甕	器高:13.8△	外面:体部ヨコハケ。 内面:体部右方向ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:明黄褐色	外面スス付着。
34	CIX SS8 埋土上層	744	第61図 PL.33	土師器 皿	口径:20.8※ 器高:3.8	外面:口縁部ミガキ。底部ヨコナデ。一部ミガキ。 内面:ミガキ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:橙色	内外面全面赤色塗彩。口縁端部一部黒斑。
35	CIX SS8 埋土上層	702	第61図 PL.34	土師器 甕	器高:10.0△	外面:口縁部ヨコナデ。体部上半タテハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部上半ケズリ後一部ミガキ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
36	CIX SS8 埋土下層	733・737・745	第61図 PL.34	土師器 碗	口径:11.4※ 器高:3.8	外面:風化のため調整不明 内面:ミガキ。	密	良好	内外面:明黄褐色	内外面一部黒斑。
37	CIX SS8 埋土中	702	第61図 PL.33	須恵器 高台環	口径:13.4※ 器高:5.7 底径:7.7	外面:体部回転ナデ。底部ヘラ切り後高台貼り付け。 内面:回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰~灰オリーブ色 内面:灰黄色	TK46・48。
38	CIX SS8 埋土中	777・814	第61図 PL.34	須恵器 高台環	器高:2.4△ 底径:7.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。 内面:回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料32。TK46・48。
39	CIX SS8 埋土中	725	第61図 PL.34	須恵器 坏蓋	口径:13.5※ 器高:2.4△	内外面:回転ナデ。	密	やや不良	内外面:灰白色	TK46・48。
40	CIX SS8 埋土中	764	第61図 PL.34	須恵器 高台環	口径:15.5※ 器高:3.8△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰~暗灰色 内面:灰色	
41	CIX SS8 埋土中	728	第61図 PL.34	須恵器 高台環	器高:4.4△	外面:回転ナデ。 内面:坏部回転ナデ。坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	外面:暗灰色 内面:灰色	脚部切れ目状透かし。坏内面重ね焼き痕。
42	CIX SS8 埋土中	740	第61図 PL.33	須恵器 壺	器高:7.7△ 底径:7.3	外面:体部上半回転ナデ。下半~底部回転ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰オリーブ色	TK46・48。
43	CIX SS8 埋土上層	702	第61図 PL.34	須恵器 壺底部	器高:7.2△	外面:体部上半回転ナデ。下半回転ケズリ。底部ヘラ記号。 内面:回転ナデ	密	良好	内外面:灰色	底部ヘラ記号。
44	CIX SS9 埋土中	1002・1027	第65図 PL.35	土師器 甕	口径:23.8※ 器高:10.7△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:明黄褐色	外面スス付着。
45	CIX SS9 埋土中	851	第65図 PL.35	土師器 甕	口径:34.4※ 器高:8.4△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄褐~にぶい橙色 内面:にぶい黄褐~褐灰色	外面一部スス付着。
46	CIX SS9 埋土中	1002	第65図 PL.35	土師器 甕	口径:27.0※ 器高:4.3△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	外面一部黒斑。
47	CIX SS9 埋土中	1027	第65図 PL.35	土師器 甕	口径:24.6※ 器高:3.6△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	口縁部外面一部黒斑。
48	CIX SS9 埋土中	854・858	第65図 PL.35	須恵器 坏身	口径:8.8※ 器高:3.6△	外面:口縁部回転ナデ。底部一部回転ケズリ後ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
49	CIX SS9 埋土中	506・815	第65図 PL.35	須恵器 高台環	口径:11.4※ 器高:3.8 底径:7.2※	外面:口縁部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰~灰白色 内面:灰白色	胎土分析試料35。TK46・48。
50	CIX SS9 褐色土	815・830	第65図 PL.33	須恵器 坏蓋	口径:9.0 器高:2.9	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ後ナデ。宝珠状つまみ貼り付け。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	内面赤色塗彩痕。TK46・48。
51	CIX SS9 埋土中	506・830	第65図 PL.33	須恵器 坏蓋	口径:9.0 器高:2.7	外面:回転ナデか。灰かぶり。天井部宝珠状つまみ貼り付け。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	外面:明黄褐色 内面:灰色	TK46・48。
52	CIX SS9 埋土中	847	第65図 PL.35	須恵器 甕	器高:11.8△	外面:体部平行叩き後カキ目。底部カキ目。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:灰色 内面:灰~灰褐色	胎土分析試料36。TK46・48?
53	CIX SS10 埋土中	1146	第67図 PL.36	土師器 甕	口径:15.6※ 器高:5.5△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。一部ヨコハケ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:橙色	

表17 土器・土製品観察表(3)

遺物番号	遺構区 地層位名	取り上げ番号	挿図 PL	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
54	CⅩ SS12 埋土中	1148・1217・1236・ 1238・1352・1359・ 1429	第68図 PL.37	土師器 甕	口径:31.6※ 器高:16.5△	外面:口縁部ヨコナデ。体部粗いヨ コハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	外面スス付着。
55	CⅩ SS12 埋土中	1171	第68図 PL.36	土師器 甕	口径:24.0※ 器高:10.5△	外面:口縁部～頸部ヨコナデ。肩部 ハケ目。 内面:口縁部～頸部ヨコナデ。肩部 ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	外面スス付着。
56	CⅩ SS12 埋土中	1220	第68図 PL.36	土師器 甕	口径:27.0※ 器高:6.3△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:黄橙色	外面スス付着。 口縁部内面黒 斑。
57	CⅩ SS12 埋土中	1217・1352	第68図 PL.36	土師器 甕	口径:14.9※ 器高:15.8△	外面:口縁部ヨコナデ。体部粗いハ ケ目。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。	密	良好	外面:浅黄橙～橙色 内面:浅黄橙色	
58	CⅩ SS12 埋土下層	1356	第68図 PL.36	土師器 甕胴部	器高:16.2△ 最大径:22.2※	外面:粗いハケ目。底部ナデ。 内面:ケズリ。	密	良好	外面:橙～にぶい橙色 内面:にぶい黄橙色	外面スス付着。
59	CⅩ SS12 埋土中	1176	第68図 PL.36	土師器 甕底部	器高:6.0△	外面:ナデ。 内面:ケズリ。	密	良好	外面:明赤褐色 内面:黒褐色	
60	CⅩ SS12 埋土下層	1414	第68図 PL.36	土師器 甕	口径:14.6※ 器高:5.5△	外面:口縁部ヨコナデ。体部ハケ目。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	外面スス付着。
61	CⅩ SS12 埋土中	1217	第68図 PL.36	土師器 甕	器高:5.0△	外面:口縁部ヨコナデ。体部ハケ目。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙～褐 灰色	内外面スス付 着。
62	CⅩ SS12 埋土中	975	第68図 PL.36	土師器 甕	口径:12.4※ 器高:4.8△	外面:口縁部～頸部ヨコナデ。肩部 タテハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:明褐色	
63	CⅩ SS12 埋土中	1346	第68図 PL.36	土師器 碗	口径:14.2※ 器高:4.0△	外面:風化のため調整不明 内面:暗文。	密	良好	内外面:橙色	
64	CⅩ SS12 埋土中	1511	第68図 PL.36	土師器 盤	器高:3.2△ 底径:11.0※	外面:体部ミガキ。底部ケズリ後ミ ガキ。 内面:ミガキ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗 彩。
65	CⅩ SS12 埋土上層	1192	第68図 PL.36	土師器 高台杯	器高:3.1△ 底径:8.4※	外面:回転ナデ。 内面:ナデ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗 彩。
66	CⅩ SS12 埋土中	1219	第68図 PL.36	土師器 杯	器高:1.8△ 底径:8.4※	外面:回転ナデ。 内面:杯底部ナデ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗 彩。
67	CⅩ SS12 埋土中	1359	第68図 PL.36	手捏ね土器	口径:6.2※ 器高:4.5△	内外面:手捏ね成形。	密	良好	内外面:明黄褐色	外面黒斑。
68	CⅩ SS12 埋土中	1152	第68図 PL.37	手捏ね土器	口径:8.2 器高:3.5	外面:手捏ね後指押さえ。 内面:ヨコナデ。	密	良好	外面:灰黄褐～にぶい黄 橙色 内面:にぶい黄橙色	
69	CⅩ SS12 埋土中	1151・1217	第68図 PL.37	須恵器 坏蓋	口径:11.0※ 器高:3.5	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ後ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	内面天井部ヘ ラ記号。 TK217。
70	CⅩ SS12 埋土中	1217	第68図 PL.40	須恵器 坏蓋	口径:9.4※ 器高:3.1△	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ 切り後ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	天井部内面ヘ ラ記号。 TK217。
71	CⅩ SS12 埋土中	1346	第68図 PL.37	須恵器 坏蓋	口径:10.5※ 器高:3.8	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ 切り後ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:にぶい灰色	天井部外面ヘ ラ記号。 TK217。
72	CⅩ SS12 埋土中	1234	第68図 PL.40	須恵器 坏蓋	口径:9.4※ 器高:5.0	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ 切り後ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
73	CⅩ SS12 埋土中	1217・1239	第68図 PL.37	須恵器 坏蓋	口径:10.4 器高:3.6	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ後ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	SS14出土須恵 器と接合。 TK217。
74	CⅩ SS12 埋土下層	1362	第68図 PL.40	須恵器 坏蓋	口径:11.8※ 器高:3.7△	外面:回転ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
75	CⅩ SS12 埋土中	1219	第68図 PL.40	須恵器 坏蓋	口径:9.6※ 器高:3.1△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰～灰オリーブ色 内面:灰色	TK217。
76	CⅩ SS12 埋土中	1193・1219	第68図 PL.37	須恵器 坏蓋	口径:7.6 器高:2.9	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ 切り後板目。ヘラ記号。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217～46。
77	CⅩ SS12 埋土中	1150	第68図 PL.37	須恵器 坏蓋	口径:8.0 器高:2.5	外面:回転ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ナデ後ナデ。	密	やや 不良	内外面:灰白色	TK46・48。
78	CⅩ SS12 埋土中	1193・1218	第68図 PL.37	須恵器 坏蓋	口径:8.3※ 器高:3.0	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ後ナデ。宝珠状つまみ 貼り付け。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:青灰色	TK46・48。
79	CⅩ SS12 埋土中	945・1192・1422	第68図 PL.40	須恵器 坏蓋	口径:14.2※ 器高:2.9△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ後ナデ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
80	CⅩ SS12 埋土中	975・1165	第68図 PL.38	須恵器 坏身	口径:10.0 器高:3.9	外面:口縁部回転ナデ。底部ヘラ切 り後ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。底部不定方 向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
81	CⅩ SS12 埋土中	975・1346	第68図 PL.38	須恵器 坏身	口径:11.0 器高:2.7	外面:口縁部回転ナデ。底部ヘラ切 り後ナデ。板目。 内面:口縁部回転ナデ。底部不定方 向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。

第3章 調査成果

表18 土器・土製品観察表(4)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
82	C区SS12埋土中	1168	第68図PL.40	須恵器坏身	口径:9.0※器高:4.8	外面:口縁部回転ナデ。底部へら切り後ケズリ後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:黄灰色	TK217。
83	C区SS12埋土中	1352	第68図PL.40	須恵器坏身	口径:9.0※器高:3.2	外面:口縁部回転ナデ。底部へら切り後ナデ、板目有。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
84	C区SS12埋土中	1166	第68図PL.40	須恵器坏身	口径:9.8※器高:2.6△	外面:口縁部回転ナデ。底部へら切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
85	C区SS12埋土中	975	第68図PL.38	須恵器坏身	口径:9.1※器高:3.2 底径:5.1※	外面:体部回転ナデ。底部回転ケズリ。へら切り後ナデ。内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	内面黒色物質付着。墨か。TK46・48。
86	C区SS12埋土中	1217	第68図PL.38	須恵器坏身	口径:9.4※器高:3.5	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰~青灰色	TK46・48。
87	C区SS12埋土中	970・1164・1193・1217・1218・1346・1363・1429・1474・1714・1717	第68図PL.38	須恵器平瓶	口径:6.8※器高:15.5 底径:6.6	外面:口縁部回転ナデ。体部肩部粗いカキ目。底部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰黄~褐灰色 内面:褐灰色	外面自然袖。SS14・SK7出土須恵器と接合。胎土分析試料46。TK46・48。
88	C区SS12埋土下層	975	第68図PL.40	須恵器提瓶又は平瓶頸部	口径:7.7※器高:6.8△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
89	C区SS12埋土中	1346・1352・1717	第69図PL.38	須恵器高坏	口径:16.5※器高:10.0 底径:9.7※	外面:回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ、底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ	密	良好	内外面:灰色	TK217。
90	C区SS12埋土中	1236	第69図PL.38	須恵器高坏	口径:15.4器高:10.0 底径:9.0	外面:坏部回転ナデ。脚部回転ナデ。内面:坏部口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	やや不良	内外面:灰白色	脚部2方に三角形、切れ目透かし。坏部内面重ね焼き痕。胎土分析試料34。TK46・48。
91	C区SS12埋土中	1151	第69図PL.38	須恵器高坏	口径:14.8※器高:8.9 底径:8.8※	外面:坏口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ後ナデ。脚部回転ナデ。内面:坏部口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
92	C区SS12埋土中	1715・1716・1748	第69図PL.39	須恵器高坏	口径:14.6※器高:9.4 底径:8.5	外面:回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ、底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ	密	良好	内外面:灰黄色	TK217。
93	C区SS12埋土中	1178・1217	第69図PL.39	須恵器高坏	口径:15.9※器高:9.9△	外面:回転ナデ。内面:坏部口縁部回転ナデ。坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	脚部2方に切れ目状透かし。坏内面重ね焼き痕。TK217~46。
94	C区SS12埋土中	1151・1177	第69図PL.39	須恵器高坏	口径:13.5※器高:9.2△	外面:回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ、底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。TK217。
95	C区SS12埋土中	1163	第69図PL.40	須恵器高坏	口径:13.8※器高:6.8△	外面:坏口縁部回転ナデ、底部回転ケズリ後ナデ。脚部回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ、底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	外面:灰~オリーブ黒色 内面:灰色	脚部2方に切れ目状透かし。TK217。
96	C区SS12埋土中	808・1220	第69図PL.40	須恵器高坏坏部	口径:14.7※器高:4.9△	外面:回転ナデ。坏底部工具痕。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
97	C区SS12埋土中	1236	第69図PL.39	須恵器高坏	器高:7.6△ 底径:10.4※	外面:脚部回転ナデ。内面:坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
98	C区SS12埋土中	1220・1239	第69図PL.39	須恵器小型高坏	器高:3.3△ 底径:5.6※	外面:回転ナデ。内面:坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	脚部3方に切れ目状透かし。SS14出土須恵器と接合。胎土分析試料51。TK46・48。
99	C区SS12埋土中	982・1193	第69図PL.40	須恵器甕	口径:38.0※器高:7.0△	外面:口縁部回転ナデ。頸部2条1対の沈線間に3段以上の波状文。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
100	C区SS12埋土中	1218	第69図PL.40	須恵器甕	器高:16.7△	外面:平行叩き後カキ目。内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:青灰色	
101	C区SS12埋土下層	960・1139・1478・1507・1514・2448	第69図PL.39	須恵器甕	器高:14.6※	外面:平行叩き後一部カキ目。内面:同心円当具痕。底部付近指ナデ。	密	良好	内外面:青灰色	胎土分析試料48。TK46・48?
102	C区SS12埋土上層	1192	第69図PL.69	瓦丸瓦	最大長:5.3 最大幅:6.7 最大厚:1.1	外面:ケズリ後ナデ。内面:布目。	密	良好	内外面:灰白色	
103	C区SS12埋土中	1514	第70図PL.41	土師器土錘	最大長:4.3 最大幅:4.3 最大厚:3.6 重さ:60.38g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙~橙色	一部黒斑。
104	C区SS12埋土下層	1563	第70図PL.41	土師器土錘	最大長:4.1 最大幅:3.9 最大厚:3.4 重さ:49.13g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄橙~橙色	一部黒斑。
105	C区SS12埋土中	1155	第70図PL.41	土師器土錘	最大長:3.8 最大幅:3.8 最大厚:3.0 重さ:34.59g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙~灰黄褐色	
106	C区SS12床面	1226	第70図PL.41	土師器土錘	最大長:3.7 最大幅:3.6 最大厚:3.3 重さ:38.02g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	明赤褐~灰黄褐色	一部黒斑。

表19 土器・土製品観察表(5)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
107	C区SS12埋土中	1238	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.8 最大幅:3.5 最大厚:3.5 重さ:37.58g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄橙～褐灰色	一部黒斑。
108	C区SS12埋土中	1352	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:4.1 最大幅:3.9 最大厚:3.0 重さ:39.96g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄褐～褐灰色	一部黒斑。
109	C区SS12埋土中	1170	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:4.2 最大幅:4.0 最大厚:3.0 重さ:58.44g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙～橙色	
110	C区SS12埋土中	1234	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.6 最大幅:3.5 最大厚:3.4 重さ:35.48g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	
111	C区SS12埋土中	1238	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.8 最大幅:3.4 最大厚:3.8 重さ:50.29g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄橙～褐灰色	一部黒斑。
112	C区SS12埋土中	1218	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.7 最大幅:3.7 最大厚:3.6 重さ:38.70g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	橙～褐灰色	一部黒斑。
113	C区SS12埋土中	1238	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.7 最大幅:3.4 最大厚:3.4 重さ:28.22g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい橙～褐灰色	一部黒斑。
114	C区SS12埋土中	1218	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.7 最大幅:3.6 最大厚:3.7 重さ:40.00g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄橙～黒褐色	一部黒斑。
115	C区SS12埋土中	1169	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.8 最大幅:3.7 最大厚:3.3 重さ:38.14g△	手捏ね成形後ナデ。	密(5mm大の礫含む)	良好	橙～黒褐色	一部黒斑。
116	C区SS12埋土中	1218	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.5 最大幅:3.4 最大厚:3.5 重さ:32.95g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄橙～黒褐色	一部黒斑。
117	C区SS12埋土中	1190	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.5 最大幅:3.4 最大厚:3.5 重さ:26.98g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい橙～灰褐色	一部黒斑。
118	C区SS12埋土中	1352	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.8 最大幅:3.4 最大厚:3.3 重さ:40.29g	手捏ね成形後ナデ。	密(7mm大の礫含む)	良好	橙色	一部黒斑。
119	C区SS12埋土中	1238	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.5 最大幅:3.4 最大厚:3.5 重さ:29.99g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	灰黄褐色	
120	C区SS12埋土中	1218	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.5 最大幅:3.5 最大厚:3.3 重さ:27.72g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	橙～褐灰色	一部黒斑。
121	C区SS12埋土中	1238	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.9 最大幅:3.1 最大厚:3.9 重さ:31.94g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	灰黄褐～褐灰色	一部黒斑。
122	C区SS12埋土中	1179	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.5 最大幅:3.5 最大厚:3.4 重さ:33.81g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄橙～褐灰色	一部黒斑。
123	C区SS12埋土中	1352	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.6 最大幅:3.6 最大厚:3.7 重さ:59.80g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい橙～褐灰色	一部黒斑。
124	C区SS12埋土中	1346	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.7 最大幅:3.6 最大厚:3.7 重さ:36.75g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい褐～灰褐色	一部黒斑。
125	C区SS12埋土中	1346	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.6 最大幅:2.6△ 最大厚:3.4 重さ:23.47g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい橙～黒褐色	一部黒斑。
126	C区SS12埋土中	1175	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.7 最大幅:2.7△ 最大厚:3.2 重さ:21.69g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙～黒褐色	一部黒斑。
127	C区SS12埋土中	1352	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.3 最大幅:1.8△ 最大厚:2.4△ 重さ:11.51g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	橙～褐灰色	一部黒斑。
128	C区SS12埋土中	1346	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.2 最大幅:3.2 最大厚:3.0 重さ:21.19g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	
129	C区SS12埋土中	1182	第70図PL.41	土師器土鉢	最大長:3.3 最大幅:3.0 最大厚:3.3 重さ:34.81g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	橙～黒褐色	一部黒斑。
130	C区SS12埋土中	1219	第70図	土師器土馬脚	最大長:5.5△ 最大幅:2.5 最大厚:2.5	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙～褐灰色	外面黒斑。
131	C区SS11	1615	第73図PL.42	弥生土器甕底部	器高:2.3△ 底径:6.4※	外面:ナデ。 内面:ケズリ。	密	良好	外面:浅黄色 内面:淡黄色	外面黒斑。底部焼成後穿孔。弥生時代中期。

第3章 調査成果

表20 土器・土製品観察表(6)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
132	C区SS11埋土下層	1023	第73図PL.42	土師器高台杯	器高:2.8△	外面:回転ナデ。内面:坏部ミガキ。底部ナデ。	密	良好	内外面:黄橙色	内外面赤色塗彩。
133	C区SS11埋土下層	1023	第73図PL.42	須恵器坏蓋	口径:9.8※器高:1.8△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	やや不良	内外面:灰色	TK46・48。
134	C区SS13暗褐色土	853	第75図PL.42	土師器甕	口径:26.0※器高:7.5△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	
135	C区SS13貼床中	1564	第75図PL.42	土師器甕	口径:23.1※器高:4.7△	外面:ヨコナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:灰黄褐色	口縁部スス付着。
136	C区SS13暗褐色土	855	第75図PL.42	土師器壺	器高:3.1△	外面:口縁部丁寧なヨコナデ。底部ミガキ。内面:暗文。	密	良好	内外面:橙色	
137	C区SS13貼床中	1564	第75図PL.42	手捏ね土器小鉢	口径:6.8※器高:4.1	内外面:手捏ね成形後ナデ。	密	良好	内外面:橙色	
138	C区SS13埋土上層	1426	第75図PL.43	土師器高杯	器高:9.9△底径:8.0※	外面:坏部手捏ね成形。筒部指押さえ。内面:坏底部不定方向ハケ目。脚部ナデ。	密	良好	内外面:浅黄色	外面黒斑。
139	C区SS13暗褐色土	853	第75図PL.43	土師器高杯	器高:7.7△底径:8.0※	外面:坏部~脚部手捏ね成形。指押さえ。内面:坏底部ヨコナデ。脚部ナデ。	密	良好	内外面:明黄褐色	坏部内面黒斑。
140	C区SS13暗褐色土中	856	第75図PL.43	須恵器坏身	口径:10.5器高:3.5	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ後ナデ。板目。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
141	C区SS13暗褐色土	864・829	第75図PL.42	須恵器坏身	口径:8.6※器高:3.2	外面:口縁部~底部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料37。TK217。
142	C区SS13埋土中	852	第75図PL.42	須恵器坏身	口径:9.1※器高:3.2△	外面:口縁部~底部回転ナデ。底部回転ケズリ後ナデ。内面:回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
143	C区SS13貼床中	855・1564・1652・1655	第75図PL.43	須恵器坏身	口径:9.6※器高:3.3底径:7.3	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:赤褐~灰オリーブ色 内面:灰色	内面底部ヘラ記号。TK46・48。
144	C区SS13暗褐色土	852・853	第75図PL.43	須恵器坏蓋	口径:10.8器高:3.7	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ切り後ナデ。別の須恵器片付着。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。ヘラ記号。	密	良好	外面:青灰色 内面:灰色	内面天井部ヘラ記号。TK217。
145	C区SS13埋土下層中	778・844・855	第75図PL.43	須恵器坏蓋	口径:10.4器高:3.9	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
146	C区SS13暗褐色土中	864	第75図PL.42	須恵器坏蓋	口径:11.0※器高:3.9△	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
147	C区SS13貼床中	1564・1655	第75図PL.42	須恵器坏蓋	口径:10.4※器高:2.7△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
148	C区SS13埋土中	1650	第75図PL.43	須恵器坏蓋	口径:8.0※器高:2.0	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ。宝珠つまみ貼り付け。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	胎土分析試料47。TK46・48。
149	C区SS13貼床中	1564	第75図PL.42	須恵器坏蓋	口径:11.4※器高:1.7△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:オリーブ灰色	TK46・48。
150	C区SS13暗褐色土	855	第75図PL.43	須恵器高杯	口径:16.2※器高:10.2底径:9.2	外面:回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	外面:暗灰色 内面:青灰色	脚部2方に切れ目状透かし。TK217。
151	C区SS13埋土上層	855	第75図PL.42	土師器土錘	最大長:4.4最大幅:4.4最大厚:3.3重さ:55.46g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	橙色	一部黒斑。
152	C区SS13暗褐色土	853	第75図PL.42	土製品土錘	最大長:3.3最大幅:4.2最大厚:2.3△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	
153	C区SS13埋土上層	1142	第75図PL.42	土師器土錘	最大長:3.9最大幅:3.9最大厚:2.7重さ:33.62g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄橙~褐灰色	一部黒斑。
154	C区SS14埋土中	1241	第77図PL.42	土師器甕	口径:24.6※器高:5.2△	外面:ヨコナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:黒褐色	内外面スス付着。
155	C区SS14埋土下層	1242	第77図PL.42	土師器小型壺	口径:9.2※器高:4.5△	外面:口縁部~体部上半ヨコナデ。体部下半手持ちによるケズリ。内面:ヨコナデ。	密	良好	外面:にぶい橙~褐灰色 内面:にぶい橙色	外面黒斑。
156	C区SS14埋土中	1360	第77図PL.44	土師器小型壺	口径:8.2※器高:7.9	外面:口縁部~体部上半ヨコナデ。体部下半不定方向ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。底部指押さえ。	密	良好	内外面:橙色	
157	C区SS14底面	1240	第77図PL.44	土師器壺	口径:14.4※器高:6.8	外面:ナデ。一部指押さえ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面:明黄褐色	
158	C区SS14埋土中	1576	第77図PL.42	須恵器高杯	口径:14.2※器高:5.9△	外面:回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	脚部2方に透かし。坏部内面重ね焼き痕。胎土分析試料43。TK217。-

表21 土器・土製品観察表(7)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
159	CⅩ SS14 埋土下層	1242	第77図 PL.42	須恵器高坏	器高:6.6△	外面:回転ナデ。 内面:坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰黄色	脚部2方に三角形透かし。TK217。
160	CⅩ SS14 埋土中	1360	第77図 PL.42	須恵器小型高坏坏部	口径:8.8※ 器高:3.0△	内外面:回転ナデか。	密	不良	内外面:黒褐色	
161	CⅩ SS14 埋土下層	976・1242	第77図 PL.42	須恵器碗	口径:11.4※ 器高:4.8△	外面:回転ナデ。体部中央2条沈線。底部回転ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料38。TK46・48。
162	CⅩ SS14 埋土中	1231	第77図 PL.42	須恵器甕胴部	器高:6.8△	外面:平行叩き。坏片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:灰白~褐灰色 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
163	CⅩ SS16 埋土下層	1409	第80図 PL.42	土師器甕	口径:24.4※ 器高:4.6△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:橙色 内面:明黄褐色	外面スス付着。
164	CⅩ SS16	1418	第80図 PL.42	土師器坏	器高:2.9△	内外面:ミガキ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗彩。
165	CⅩ SS16 検出中	1410	第80図 PL.42	須恵器甕	器高:14.5△	外面:平行叩き。別の甕片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰白色	須恵器窯関連遺物。
166	AⅩ SK1 埋土中	1705	第81図 PL.41	土師器甕	器高:3.8△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	外面スス付着。
167	AⅩ SK1 埋土中	1465	第81図 PL.41	土師器小型甕	口径:11.8※ 器高:4.7△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:明褐色	
168	AⅩ SK1 黒褐色土	699	第81図 PL.41	土師器小型甕	口径:9.0※ 器高:3.4△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:明黄褐色 内面:橙色	
169	AⅩ SK1 埋土中	1525・1722	第81図 PL.41	土師器坏	口径:14.6※ 器高:4.1△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:赤褐色	内外面赤色塗彩。
170	AⅩ SK1 埋土中	1722	第81図 PL.44	土師器製塩土器	口径:11.0※ 器高:3.2△	外面:手捏ね成形後ナデ。 内面:ナデ。	密	良好	外面:浅黄色 内面:明黄褐色	
171	AⅩ SK1 埋土中	1317・1525	第81図 PL.44	須恵器高台坏	口径:12.8※ 器高:4.2	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。 内面:回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。胎土分析試料52。八峠編年奈良前期か。
172	AⅩ SK1 埋土中	699・1705	第81図 PL.41	須恵器坏	口径:11.8※ 器高:3.3 底径:5.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転ケズリ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:オリブ灰色	八峠編年奈良前期。
173	AⅩ SK2 床面	1698	第84図 PL.41	土師器甕	器高:5.6△	外面:風化著しい。ナデか。 内面:風化著しい。口縁部ナデか。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:黄褐色	
174	AⅩ SK11 埋土中	1470	第86図 PL.41	須恵器坏蓋	器高:2.1△	外面:天井部回転ケズリ後ナデ。宝珠状つまみ貼り付け。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	奈良時代。
175	AⅩ SK11 埋土中	1643	第86図 PL.41	須恵器高台坏	器高:4.4△ 底径:11.0※	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:明褐色	奈良時代。
176	SA1 P2内	1740	第90図 PL.44	須恵器坏蓋	口径:10.0 器高:3.0	外面:回転ナデ。天井部宝珠状つまみ貼り付け。 内面:回転ナデ。	密	やや不良	内外面:灰白色	TK46・48。
177	CⅩ SX2 埋土中	448	第91図 PL.41	土師器高坏	器高:2.7△	外面:脚部面取り。 内面:坏底部ミガキ。脚部絞り目。	密	良好	内外面:橙色	
178	AⅩ NR1 H8グリッド 黄褐色砂礫	550	第95図 PL.45	縄文土器浅鉢	器高:3.3△	外面:4条凹線。 内面:ナデ。	密	良好	内外面:淡黄~黄灰色	宮滝式前期。
179	AⅩ NR1 H8グリッド 砂礫混灰色土	251	第95図 PL.45	弥生土器高坏	器高:4.1△	外面:ヨコナデ。口縁部刺突文。 内面:ヨコナデ。	密	良好	外面:淡黄色 内面:灰白色	Ⅲ-2様式。
180	AⅩ NR1 I8グリッド 暗褐色砂礫	288	第95図 PL.45	弥生土器甕	器高:5.2△	外面:口縁部多条化した平行沈線。 内面:ヨコナデ。	密	良好	内外面:灰黄色	外面スス付着。V-3様式。
181	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	973	第95図 PL.45	土師器甕	器高:11.5△	外面:ハケ目。 内面:ケズリ。	密	良好	外面:明黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
182	AⅩ NR1 E5グリッド 黒灰褐色砂質土	548	第95図 PL.45	土師器小型甕	器高:5.9△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:にぶい橙~褐灰色 内面:明黄褐~褐灰色	外面スス付着。内面黒斑。
183	AⅩ NR1 I8グリッド 黄褐色砂礫	488	第95図 PL.45	須恵器坏身	口径:9.1※ 器高:2.9△	外面:口縁部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰~暗オリブ色 内面:灰色	TK217。
184	AⅩ NR1 I8グリッド 黒灰色シルト~砂礫	1090	第95図 PL.45	須恵器高台坏	器高:3.0△ 底径:7.8	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。 内面:回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
185	AⅩ NR1 D5グリッド 黒灰色砂質土	672	第95図 PL.45	須恵器高台坏	器高:2.3△ 底径:8.8※	外面:回転ナデ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	やや不良	外面:灰黄~黄灰色 内面:灰黄色	八峠編年奈良前期。
186	AⅩ NR1 E5グリッド 黒灰褐色砂質土	545	第95図 PL.45	須恵器坏	器高:3.9△ 底径:8.4※	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	奈良時代。

第3章 調査成果

表22 土器・土製品観察表(8)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
187	AⅩ NR1 E5グリッド 黒灰色砂質土	670	第95図 PL.45	須恵器高台杯	器高:3.1△ 底径:7.6※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面:体部回転ナデ。底面不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	奈良時代。
188	AⅩ NR1 E5グリッド 灰色砂礫	794	第95図 PL.45	須恵器杯	口径:12.6※ 器高:4.0 底径:7.8※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
189	AⅩ NR1 E5グリッド 灰色砂礫	794	第95図 PL.44	須恵器杯	口径:12.2※ 器高:4.2 底径:6.4	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	外面重ね焼き痕。奈良時代。
190	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	1012	第95図 PL.45	須恵器高台付皿	口径:12.6※ 器高:1.9 底径:8.0※	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	八峠編年奈良前期。
191	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	424	第95図 PL.45	須恵器高台付皿	口径:14.0※ 器高:2.4 底径:10.3※	外面:回転ナデ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
192	AⅩ NR1 I9グリッド 灰褐色礫混土	254	第95図 PL.45	須恵器皿	口径:10.2※ 器高:1.6 底径:6.4※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	八峠編年平安中～後期。
193	AⅩ NR1 H8グリッド 黄褐色砂礫	1014	第95図 PL.45	須恵器高杯	器高:7.0△	外面:回転ナデ。 内面:坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	脚部2方に切れ目状透かし1・三角形透かし1。
194	AⅩ NR1 E6グリッド 礫混暗灰色シルト	1111	第95図 PL.45	須恵器高杯脚部	器高:9.1△ 底径:13.8※	外面:回転ナデ。中位沈線有。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰白色 内面:灰色	脚部3方に長方形透かし。TK209。
195	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	500	第95図 PL.45	須恵器甕	器高:3.9△	外面:口縁端部回転ナデ。頸部波状文。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
196	AⅩ NR1 H8グリッド 灰褐色礫混土	268	第95図 PL.45	須恵器壺	口径:16.4※ 器高:5.9△	外面:回転ナデ。 内面:口縁部～頸部回転ナデ。肩部以下同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰～オリーブ灰色	外面灰かぶり。
197	AⅩ NR1 E5グリッド 灰色砂礫	794	第95図 PL.45	須恵器壺頸部	器高:6.3△	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰～暗オリーブ色 内面:灰白～灰色	
198	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	973	第95図 PL.45	須恵器壺頸部	口径:7.5※ 器高:4.9△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:黄灰色	
199	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	957	第95図 PL.45	須恵器壺底部	器高:5.7△ 底径:13.6※	外面:体部上半回転ケズリ。下半回転ナデ。底部回転ヘラ切り。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	全体的に風化。
200	AⅩ NR1 E5グリッド 灰褐色土～灰色砂質土	765	第95図 PL.45	須恵器台付壺	器高:5.0△ 底径:7.0※	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
201	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	598	第95図 PL.45	須恵器壺底部	器高:4.7△ 底径:14.0※	外面:体部ケズリ後ナデ。底部ナデ。 内面:回転ナデ後ナデ。	密	良好	内外面:黄灰色	
202	AⅩ NR1 I8グリッド 灰色シルト～黄褐色砂礫	1063・1109	第95図 PL.45	須恵器平瓶又は提瓶頸部	口径:7.2 器高:8.1△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
203	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	1044	第95図 PL.45	須恵器高台杯	器高:1.6△ 底径:10.6※	内外面:回転ナデ。内面窯滓付着。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
204	AⅩ NR1 I9グリッド 黄褐色砂礫	360	第95図 PL.45	須恵器片		別々の須恵器片が付着	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連遺物。
205	AⅩ NR1 E5グリッド 灰褐色砂	1334	第95図 PL.45	須恵器杯?	器高:1.6△	内外面:回転ナデか。外面別の須恵器片付着。	密	良好	内外面:灰～灰オリーブ色	須恵器窯関連遺物。胎土分析試料22。時期不明。
206	AⅩ NR1 D4グリッド 黒灰色砂質土	534	第95図 PL.45	土師質土器杯	器高:1.6△ 底径:6.8※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐～明黄褐色 内面:淡黄色	八峠中世Ⅲ期。
207	AⅩ NR1 H8-I9グリッド 黒褐色痕礫土	549	第95図 PL.45	勝間田焼甕	器高:6.9△	外面:格子目叩き。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:黄灰色 内面:灰色	
208	AⅩ NR1 E5グリッド 黒灰色砂質土	774	第95図 PL.45	瀬戸美濃焼碗	器高:1.9△ 底径:4.8※	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り。 内面:回転ナデ。	密	やや不良	内外面:にぶい黄橙～褐色 灰色	平安後期か。
209	AⅩ NR1 E5グリッド 灰褐色土～灰色砂質土	765	第95図 PL.45	青磁碗	器高:2.4△ 底径:4.6※	外面:施釉。底部露胎。 内面:施釉。底部文様有。	密	良好	胎土:灰色 釉:灰オリーブ色	
210	AⅩ NR1 E5グリッド 礫混灰色砂礫	473	第95図 PL.45	青磁碗	器高:1.7△	内外面:施釉。	密	良好	胎土:灰色 釉:灰オリーブ色	

表23 土器・土製品観察表(9)

遺物番号	遺構 区 層位名	取り上げ番号	挿図 PL	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
211	B区 NR1-3 E7・8周 辺 灰色粘質土	882	第107図 PL.46	土師器 甕	口径:21.0※ 器高:10.0△	外面:ナデ。 内面:口縁部ナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
212	B区遺構外 NR1-3 D7グリ ッド 黒褐色粘質シル ト	1561	第107図 PL.46	土師器 甕	口径:13.6※ 器高:9.5△	外面:口縁部ナデ。体部肩部ハケ目。 以下ナデ。 内面:口縁部ナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:明黄褐～橙色	外面二次被熱。
213	B区 NR1-3 D7グリ ッド 黒褐色粘質シル ト	1561	第107図 PL.46	土師器 甕把手	器高:6.5△	手捏ね成形後ナデ。基部ハケ目。	密(1mm程度の 長石多く含 む)	良好	灰黄褐色	
214	B区 NR1-3D7グリ ッド 黒褐色粘質シル ト	1453	第107図 PL.46	土師器 把手	最大長:8.5△ 最大幅:3.3△ 最大厚:2.2	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	灰白色	
215	B区 NR1-3 F9グリ ッド 暗褐色土	1738	第107図 PL.44	須恵器 坏身	器高:3.4△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部 回転ケズリ。 内面:口縁部～底部回転ナデ。底部 不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。 須恵器窯関連 遺物。胎土分 析試料8。 TK209。
216	B区 NR1-3 E7・8周 辺 灰色粘質土	882	第107図 PL.46	須恵器 短頸壺	口径:14.9※ 器高:4.6△	内外面:回転ナデ。外面肌荒れ著し い。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
217	B区 NR1-3 D7グリ ッド周辺 灰褐色礫混じり 土～灰色粘質土	882	第107図 PL.46	須恵器 高坏脚部	器高:2.5△	外面:回転ナデ。 内面:回転ナデか。窯壁附着。	密	良好	外面:暗灰～灰色 内面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
218	B区 NR1-3 F9グリ ッド 暗褐色土	1738	第107図 PL.46	須恵器 提瓶	器高:5.8△	外面:カキ目。別の須恵器片附着。 内面:ナデ。	密	良好	外面:黄灰色 内面:灰白色	須恵器窯関連 遺物。
219	B区 NR1-3 D7グリ ッド周辺 灰褐色礫混じり 土～灰色粘質土	882	第107図 PL.46	須恵器 甕	器高:10.2△	外面:平行叩き後一部ナデ。別の須 恵器片附着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:灰色 内面:灰オリーブ色	須恵器窯関連 遺物。
220	B区 NR1-3 C6グリ ッド 灰褐色礫混じり 土～灰色粘質土	882・890	第107図 PL.46	須恵器 高坏脚部	器高:8.0△	外面:回転ナデ後カキ目。2条沈線。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:オリーブ黒色 内面:灰色	TK209。
221	B区 NR1-3 E7・8周 辺 灰色粘質土	882	第107図 PL.46	須恵器 塊	器高:6.1△	外面:体部中位2条沈線。ほかカキ 目。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:オリーブ灰～オ リーブ黒色	
222	B区 NR1-3 E7・8周 辺 灰色粘質土	882	第107図 PL.46	瓦質土器 羽釜	器高:3.4△	内外面:ナデ	密	良好	内外面:灰色	
223	B区 NR1-3D7グリ ッド 黒褐色粘質シル ト	1453	第107図 PL.46	土製品 土錘	最大長:3.3 最大幅:3.3 最大厚:3.3	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄橙～褐灰色	一部黒斑。
224	A区 SK7 埋土中	1395	第119図	須恵器 高坏脚部	器高:4.4△ 底径:9.0※	外面:回転ナデ。裾部1条沈線。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	脚部長方形透 かし。
225	A区遺構外 F1グリ ッド 暗褐色土	697・711	第132図 PL.48	土師器 塊	口径:8.6※ 器高:3.3△	外面:口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。 内面:ヨコナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	古墳時代中期 か。
226	A区遺構外 F3グリ ッド 灰褐色土	436・801・910・993・ 1000	第132図 PL.46	土師器 甕	口径:29.4※ 器高:9.8△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:橙色	
227	A区遺構外 F6グリ ッド 灰色痕礫粘質土	1556	第132図 PL.48	手捏ね土器 小鉢	口径:8.8※ 器高:4.4△	内外面:手捏ね成形後ナデ。	密(1mm大の砂 粒含む)	良好	外面:橙色 内面:にぶい褐色	
228	A区遺構外 H4グリ ッド 灰褐色土	16	第132図 PL.48	手捏ね土器 小鉢	口径:6.6※ 器高:3.3△	内外面:手捏ね成形後ナデ。	密	良好	内外面:明黄褐色	
229	A区遺構外 E1グリ ッド 暗灰褐色土	690	第132図 PL.46	手捏ね土器 高坏	口径:8.1 器高:6.0 底径:6.4	外面:坏部～脚部手捏ね成形。底部 ハケ目。 内面:坏底部ヨコナデ。脚部ナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
230	A区遺構外 H8・I9グリ ッド 表土	198	第132図 PL.48	土師器 甕把手	器高:5.7△	外面:手捏ね成形。 内面:ケズリ	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
231	A区遺構外 E5グリ ッド 黒灰色土	507	第132図 PL.48	須恵器 坏蓋	口径:12.4※ 器高:3.2△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:黄灰色	
232	A区遺構外 E5グリ ッド 黒灰色砂質土	670	第132図 PL.48	須恵器 坏蓋	口径:8.8※ 器高:3.0△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
233	A区遺構外 I7グリ ッド 暗褐色痕礫土	527	第132図 PL.46	須恵器 坏蓋	口径:11.2※ 器高:2.9	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ後ナデか。ボタン状つ まみ貼り付け。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	外面:灰オリーブ色 内面:灰色	外面自然袖付 着。TK46・48。
234	A区遺構外 F6グリ ッド 灰褐色土	1314	第132図 PL.47	須恵器 坏蓋	口径:14.3 器高:2.1	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ後ナデ。宝珠状つま み貼り付け。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	外面重ね焼き 痕。八時編年 奈良中期。

第3章 調査成果

表24 土器・土製品観察表(10)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
235	A区遺構外F6グリッド黄褐色土	930	第132図PL.48	須恵器坏蓋	口径:14.0※器高:1.5△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	内面天井部ヘラ記号。焼成時変形。奈良時代。
236	A区遺構外D4グリッド灰褐色土	955	第132図PL.48	須恵器坏蓋	器高:2.5△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	奈良時代。
237	A区遺構外I6グリッド表土	15	第132図PL.48	須恵器坏蓋	器高:1.5△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	内面赤色塗彩痕。奈良時代。
238	A区遺構外E3グリッド褐色土	1683	第132図PL.48	須恵器坏身	器高:3.4△	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ。 内面:口縁部回転ナデ。底部同心円当具痕後ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	TK209。
239	A区遺構外I5グリッド表土	24・28	第132図PL.47	須恵器高台坏	口径:13.8※器高:4.7底径:9.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。ヘラ記号有。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	外面底部ヘラ記号。八峠編年奈良前期。
240	A区遺構外F6グリッド灰褐色粘質土	1544	第132図PL.48	須恵器高台坏	口径:13.4※器高:4.4底径:6.8	外面:体部回転ナデ。底部回転ケズリ。ヘラ切り後ナデ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	八峠編年奈良初期。
241	A区遺構外F6グリッド灰褐色土	1329	第132図PL.47	須恵器高台坏	口径:13.5※器高:4.9底径:7.8※	外面:体部回転ナデ。底部回転ケズリ後ナデ。 内面:体部口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
242	A区遺構外D4グリッド表土	915	第132図PL.48	須恵器高台坏	器高:3.8△底径:9.9※	外面:体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデか。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	奈良時代。
243	A区遺構外I8・9グリッド褐色土	161	第132図PL.48	須恵器高台坏	器高:3.3△底径:8.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	やや不良	内外面:灰白色	奈良時代。
244	A区遺構外E4グリッド黒灰色砂質土	532	第132図PL.48	須恵器坏	器高:1.3△底径:8.0※	外面:回転ナデ。底部回転糸切り。 内面:回転ナデか。風化著しい	密	やや不良	外面:灰黄~灰色 内面:灰黄色	
245	A区遺構外D4グリッド灰褐色土	484	第132図PL.48	須恵器高台坏	器高:1.6△底径:8.6※	外面:底部回転ケズリ後ナデ。 内面:底部回転ナデ。	密	良好	外面:黄灰色 内面:灰白色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。奈良時代。
246	A区遺構外F6グリッド灰褐色混礫粘質土	1467	第132図PL.48	須恵器高台坏	器高:2.1△底径:7.4※	外面:回転ナデ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
247	A区遺構外I7グリッド表土	89	第132図PL.48	須恵器瓶底部	器高:2.2△底径:7.6※	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
248	A区遺構外J9グリッド灰褐色土	1039	第132図PL.48	須恵器高台付皿	口径:14.2※器高:2.4底径:9.8※	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	
249	A区遺構外H7グリッド灰褐色混シルト~砂礫	113	第132図PL.48	須恵器高台付皿	口径:14.2※器高:1.7△	内外面:回転ナデ。高台部剥離。	密	良好	内外面:灰色	
250	A区遺構外H7グリッド灰褐色混シルト	113	第132図PL.48	須恵器壺頸部	口径:12.0※器高:5.0△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:暗緑灰色	
251	A区遺構外E5グリッド黒褐色土	507	第132図PL.48	須恵器壺か	口径:14.2※器高:1.8△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
252	A区遺構外D2グリッド表土	823	第132図PL.48	須恵器小型甕	器高:5.6△	外面:口縁部~頸部回転ナデ。肩部平行叩き後カキ目。 内面:口縁部~頸部回転ナデ。肩部以下同心円当具痕。	密	良好	内外面:にぶい黄~灰黄色	外面灰かぶり。
253	A区遺構外E6・G6グリッド黄褐色土~黒灰色土	897・909	第132図PL.47	須恵器壺	器高:10.2△底径:8.8※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り後回転ナデ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:赤灰~青灰色	
254	A区遺構外C6・G7・H7グリッド	113・256・896	第132図PL.48	須恵器壺底部	器高:9.8△底径:16.6※	外面:ケズリ後ナデ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
255	A区遺構外I9グリッド黄褐色土	973	第132図PL.48	須恵器壺底部	器高:4.2△底径:10.8※	外面:体部下半回転ケズリ。底部ナデ。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰褐色	焼成時変形・発泡。須恵器窯関連遺物。
256	A区遺構外I6グリッド表土	27	第132図PL.48	須恵器平瓶か提瓶頸部	口径:10.2※器高:5.9△	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰白色 内面:灰色	
257	A区遺構外E4グリッド灰褐色土~黒灰色シルト	1420	第132図PL.48	須恵器高坏	器高:7.4△底径:8.6※	外面:回転ナデ。 内面:坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	脚部2方に切れ目状透かし。
258	A区遺構外E5グリッド黒灰色土	507	第132図PL.48	須恵器甕	器高:6.0△	外面:平行叩き。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕後ナデ。	密	良好	外面:オリーブ灰色 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
259	A区遺構外G5グリッド表土	158	第132図PL.48	瓦質土器鉢	器高:4.8△	内外面:粗いナデ。	密(1mm程度の砂粒含む)	良好	内外面:灰白~灰色	
260	A区遺構外	4	第132図PL.48	備前焼播鉢	器高:3.4△	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:明赤褐色 内面:灰褐色	備前IVb期。
261	A区遺構外G5グリッド表土	201	第132図PL.48	瀬戸美濃焼丸皿	口径:10.0※器高:2.0底径:5.2※	外面:回転ナデ。 内面:回転ナデ。見込み軸欠き取り。	密	良好	胎土:淡黄色 釉:浅黄色	大窯3期か。
262	A区遺構外F6グリッド灰褐色土	554	第132図PL.48	瀬戸美濃焼卸皿	口径:17.6※器高:2.8△	外面:回転ナデ。口縁部施釉。底部付近露胎。 内面:回転ナデ。口縁部施釉。中位から底部にかけて卸目。	密	良好	胎土:淡黄色 釉:オリーブ黄色	古瀬戸か。

表25 土器・土製品観察表(11)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
263	A区遺構外E4グリッド 灰褐色土	770	第132図 PL.48	土師質土器 坏	器高:1.4△ 底径:5.4※	外面:体部ナデ。底部回転糸切り後 板目。 内面:ナデ。	密	良好	内外面:浅黄橙色	
264	A区遺構外F4グリッド 灰褐色土	710	第132図 PL.48	青磁 碗	器高:3.0△	内外面:施釉。	密	良好	胎土:灰白色 釉:オリーブ灰色	
265	A区遺構外I9グリッド 表土	206	第132図 PL.48	青磁 碗	口径:14.3※ 器高:4.3△	外面:体部線描き菊蓮弁。施釉。 内面:施釉。	密	良好	胎土:灰色 釉:オリーブ灰色	
266	A区遺構外G6グリッド 表土	152	第132図 PL.48	青磁 碗	器高:3.9△	内外面:施釉。外面底部ハケ目。	密	良好	胎土:灰色 釉:灰オリーブ色	
267	A区遺構外G5グリッド 表土	895	第132図 PL.48	青磁 碗	器高:2.3△ 底径:5.7※	内外面:施釉。底部外面臍胎。	密	良好	胎土:灰色 釉:灰オリーブ色	
268	A区遺構外H5グリッド 灰褐色土	30	第132図 巻頭図 版2	土師器 土馬	最大長:11.0△ 最大幅:5.6△ 最大厚:3.5	手捏ね成形。頭部・脚欠く。	密	良好	橙色	
269	B区遺構外A・B4グリッド 黒褐色粘質シルト	1617	第135図 PL.47	土師器 小型丸底鉢	口径:10.9※ 器高:6.3△	外面:口縁部ヨコナデ。体部ミガキ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。	密	良好	内外面:灰白色	体部外面黒斑。 天神川Ⅱ期。
270	B区遺構外A・Bグリッド 黒褐色粘質シルト	1617	第135図 PL.47	土師器 低脚坏	器高:2.2△	内外面:ナデ。	密	良好	内外面:浅黄～橙色	天神川Ⅱ期か。
271	B区遺構外D7グリッド 造成土	899	第135図 PL.47	土師器 甕	口径:14.8※ 器高:4.8△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頭部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:橙色	内面スス付着。 古墳時代中期か。
272	B区遺構外D7グリッド 造成土	944	第135図 PL.47	土師器 甕	器高:7.3△	外面:ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙～ にぶい橙色	古代。
273	B区遺構外D6グリッド 攪乱土	940	第135図 PL.47	土師器 坏	口径:12.8※ 器高:2.7△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗 彩。奈良時代。
274	B区遺構外D7グリッド 造成土	944	第135図 PL.47	土師器 甕	口径:16.9※ 器高:2.1△	内外面:ミガキ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗 彩。奈良時代。
275	B区遺構外C5グリッド 造成土	1244	第135図 PL.51	須恵器 坏蓋	口径:16.2※ 器高:3.4△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK43。
276	B区遺構外D7グリッド 造成土	1680	第135図 PL.49	須恵器 坏蓋	口径:13.0※ 器高:4.1	外面:回転ナデ。天井部ヘラ記号有。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰白～灰色 内面:灰白色	胎土分析試料 44。 TK209。
277	B区遺構外B・C5グリッド 砂礫層	1341	第135図 PL.51	須恵器 坏蓋	口径:13.8※ 器高:4.3△	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ 切り未調整。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
278	B区遺構外B5グリッド 砂礫層	1349	第135図 PL.51	須恵器 坏蓋	口径:14.8※ 器高:3.4△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK209。
279	B区遺構外C5グリッド 砂礫層	1447	第135図 PL.51	須恵器 坏蓋	口径:14.3※ 器高:3.2△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
280	B区遺構外Bグリッド 砂礫層	1349	第135図 PL.51	須恵器 坏蓋	口径:13.0※ 器高:3.9	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	
281	B区遺構外D7グリッド 造成土	1680	第135図 PL.49	須恵器 坏蓋	口径:11.6 器高:4.0	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。 内面:口縁部回転ナデ。天井部不定 方向ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	TK209。
282	B区遺構外B5グリッド 造成土	1125	第135図 PL.51	須恵器 坏蓋	口径:8.4※ 器高:2.2	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
283	B区遺構外B5グリッド 造成土	1125	第135図 PL.51	須恵器 坏蓋	口径:8.6※ 器高:2.4△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。つまみ貼り付け。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰～青灰色	TK46・48。
284	B区遺構外D7グリッド 黒褐色粘質シルト	1702	第135図 PL.51	須恵器 蓋	口径:10.7※ 器高:1.3△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
285	B区遺構外C6グリッド 黒褐色粘質シルト	1448	第135図 PL.49	須恵器 坏蓋	口径:14.2※ 器高:2.4	外面:回転ナデ。輪状つまみ貼り付 け。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料 28。 八峠奈良初期。
286	B区遺構外D3グリッド 黒褐色粘質シルト	1687	第135図 PL.51	須恵器 蓋	器高:2.5△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転 ケズリ後輪状つまみ貼り付け。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	八峠編年奈良 初頭。
287	B区遺構外C5グリッド 砂礫層	1447	第135図 PL.51	須恵器 坏身	口径:10.3※ 器高:3.7△	外面:口縁部～体部下半回転ナデ。 底部回転ケズリ。ヘラ記号。 内面:回転ナデ。	密	やや 不良	外面:にぶい黄褐～褐灰 色 内面:灰黄褐色	TK209。
288	B区遺構外C・D5グリッド 砂礫層	1419	第135図 PL.49	須恵器 坏身	口径:11.5※ 器高:3.9	外面:口縁部～体部回転ナデ後ナデ。 底部ヘラ起し後ナデ。 内面:回転ナデ。底部不定方向ナデ。 重ね焼き痕。	密	良好	外面:灰白～灰色 内面:灰色	胎土分析試料 30。 TK209。
289	B区遺構外D7グリッド 造成土	1682	第135図 PL.51	須恵器 坏身	口径:12.6※ 器高:4.1	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部 回転ケズリ。 内面:回転ナデ。底部不定ナデ。	密	不良	内外面:灰白色	
290	B区遺構外B5グリッド 造成土	1341・1397	第135図 PL.49	須恵器 坏身	口径:12.0※ 器高:3.3	外面:口縁部～体部回転ナデ。底部 回転ケズリ。ヘラ切り後ナデ。 内面:回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料 56。 TK209。
291	B区遺構外D7グリッド 黒褐色粘質シルト	1662	第135図 PL.51	須恵器 坏身	口径:12.2※ 器高:3.2	外面:口縁部～体部回転ナデ。底部 回転ケズリ。 内面:口縁部～体部回転ナデ。底部 不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	TK209。

第3章 調査成果

表26 土器・土製品観察表(12)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
292	B区遺構外B5グリッド造成土	1267	第135図PL.51	須恵器坏身	口径:13.4※器高:3.6△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK209。
293	B区遺構外C6グリッド造成土	942	第135図PL.51	須恵器坏身	口径:14.2※器高:3.5△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:にぶい褐色	
294	B区遺構外B5グリッド黒褐色粘質シルト	1660	第135図PL.51	須恵器高台坏	口径:11.8※器高:3.8底径:7.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
295	B区遺構外C5グリッド黒褐色粘質シルト	1671	第135図PL.51	須恵器高台坏	器高:3.5△底径:7.6※	外面:回転ナデ。内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
296	B区遺構外E7グリッド表土	1441	第135図PL.51	須恵器高台坏	器高:3.3△底径:9.0※	外面:回転ナデ。内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
297	B区遺構外C6グリッド黒褐色粘質シルト	1612	第135図PL.51	須恵器高台坏	器高:3.2△底径:7.8※	外面:体部回転ナデ。底部ケズリ後ナデ。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
298	B区遺構外C・D5グリッド黒褐色粘質シルト	1436	第135図PL.51	須恵器高台坏	器高:2.4△底径:6.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け。内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK46・48。
299	B区遺構外C5グリッド黒褐色粘質シルト	1614	第135図PL.51	須恵器坏	器高:2.5△底径:7.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	八峠編年奈良前期。
300	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1256	第135図PL.51	須恵器高坏脚部	器高:11.1△	外面:回転ナデ。内面:上半絞り目。下半回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	長脚二段透かし、3方。
301	B区遺構外C・D5グリッド黒褐色粘質シルト	1454・1455	第135図PL.51	須恵器高坏脚部	器高:5.6△	外面:坏部回転ナデ。脚部カキ目。内面:坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:にぶい橙～灰色	長脚二段透かし、3方。胎土分析試料55。TK209。
302	B区遺構外B5グリッド造成土	892	第135図PL.51	須恵器高坏脚部	器高:7.4△底径:11.0※	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:褐灰色 内面:黄褐～灰色	長方形1段透かし3方。TK209。
303	B区遺構外D7グリッドにぶい黄褐色土	899	第135図PL.49	須恵器有蓋高坏	口径:10.6※器高:8.6底径:10.0	外面:坏部回転ナデ。底部ケズリ後ナデ。脚部回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK209。
304	B区遺構外D7グリッド黒褐色粘質シルト	1445	第135図PL.49	須恵器有蓋高坏	口径:10.5器高:9.7△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。脚部回転ナデ。内面:口縁部～底部回転ナデ。底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK209。
305	B区遺構外E7グリッド砂礫～黒褐色土	1442	第135図PL.49	須恵器高坏	器高:7.4△	外面:回転ナデ。内面:坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	やや不良	内外面:灰黄色	形骸化した切れ目透かし。TK217。
306	B区遺構外B・C4グリッド黒褐色粘質シルト	1452	第135図PL.51	須恵器高坏脚部	器高:5.9△	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰白～オリーブ黒色 内面:灰色	脚部円形透かし。
307	B区遺構外C5・6グリッド砂礫層	1257	第135図PL.51	須恵器高坏脚部	器高:6.4△底径:14.8※	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰～明オリーブ色	TK209。
308	B区遺構外D7グリッド造成土	899	第135図PL.50	須恵器高坏	器高:5.1△底径:8.6※	外面:回転ナデ。内面:坏部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	1段三角形透かし。TK46。
309	B区遺構外B4、C5、D7グリッド黒褐色粘質シルト	1625・1702	第135図PL.51	須恵器小型高坏	器高:1.5△底径:9.4※	内外面:回転ナデ。	密	不良	内外面:にぶい赤褐色	方形透かし。TK217。
310	B区遺構外灰褐色粘質土	881	第135図PL.51	須恵器脚部	器高:1.6△底径:13.0※	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	
311	B区遺構外D7・8グリッド砂礫層	899・942・1247・1445・1623・1682・1710	第135図PL.50	須恵器高坏	口径:16.2※器高:10.7△	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ。脚部回転ナデ後浅い3条沈線。内面:口縁部回転ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	外面:黄灰色 内面:灰黄～黄灰色	脚部3方に長方形透かし。坏底部に透かし位置を示す線刻3箇所。TK217。
312	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1447	第135図PL.50	須恵器有蓋高坏蓋	口径:13.4※器高:5.0	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ。ボタン状つまみ。内面:回転ナデ。	密	不良	内外面:にぶい黄褐色	TK209。
313	B区遺構外B5グリッド砂礫層	1349	第135図PL.51	須恵器有蓋高坏蓋	器高:3.2△	外面:天井部回転ケズリ。ボタン状つまみ貼り付け。内面:不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	
314	B区遺構外B5グリッド砂礫層	1349	第135図PL.51	須恵器有蓋高坏蓋	器高:3.2△	外面:天井部回転ケズリ。ボタン状つまみ貼り付け。ヘラ記号。内面:不定方向ナデ。	密	やや不良	外面:灰色 内面:灰白色	外面天井部ヘラ記号。
315	B区遺構外C5グリッド造成土	1351	第136図PL.52	須恵器壺	口径:15.1※器高:7.9△	外面:口縁部～頸部回転ナデ。肩部平行叩き。内面:口縁部～頸部回転ナデ。肩部同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰～灰オリーブ色	内外面自然釉。
316	B区遺構外B・C5グリッド砂礫層	1124・1256	第136図PL.52	須恵器壺	口径:19.4※器高:6.2△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰～褐灰色	
317	B区遺構外C6グリッド黒褐色粘質シルト	1612	第136図PL.52	須恵器壺	口径:12.8※器高:6.0△	内外面:回転ナデ。風化。	密	良好	内外面:灰色	
318	B区遺構外A4・5グリッド造成土	889	第136図PL.52	須恵器瓶	口径:12.0※器高:4.6△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白～灰色	

表27 土器・土製品観察表(13)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
319	B区遺構外C5グリッド造成土	1269	第136図 PL.52	須恵器短頸壺	口径:14.4※器高:11.2△	外面:頸部回転ナデ。肩部平行叩き後カキ目。内面:頸部回転ナデ。肩部同心円当具痕。	密	やや不良	内外面:橙~灰褐色	
320	B区遺構外B6グリッド造成土	920	第136図 PL.52	須恵器短頸壺	口径:7.0※器高:4.2△	外面:口縁部~頸部回転ナデ。肩部カキ目。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
321	B区遺構外C6グリッド造成土	900	第136図 PL.52	須恵器短径壺	口径:7.6※器高:2.8△	内外面:回転ナデ。外面重ね焼き痕。	密	良好	内外面:灰色	
322	B区遺構外D7グリッド造成土	879・946	第136図 PL.50	須恵器台付壺	器高:3.8△底径:11.6※	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰白色 内面:灰白色	胎土分析試料29。飛鳥~奈良。
323	B区遺構外C6グリッド黒褐色粘質シルト	1612	第136図 PL.52	須恵器瓶	器高:4.7△底径:11.2※	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	外面自然釉。
324	B区遺構外B4グリッド造成土	1450	第136図 PL.52	須恵器瓶	器高:10.6△底径:12.6※	外面:体部回転ナデ。一部指押さえ。底部ケズリ。内面:不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	
325	B区遺構外B5グリッド造成土	1397	第136図 PL.52	須恵器甕	器高:6.9△	外面:頸部2条沈線を挟んで2段以上波状文帯。頸部下半回転ナデ。内面:頸部回転ナデ。体部同心円当具痕。	密	良好	内外面:暗灰色	内外面自然釉。
326	B区遺構外J10グリッド	845	第136図 PL.52	須恵器甕	器高:10.0△	外面:頸部回転ナデ後2条沈線。内面:頸部回転ナデ。肩部同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰色	
327	B区遺構外A・B4グリッド黒褐色粘質シルト	1536	第136図 PL.52	須恵器甕	器高:5.2△	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰オリーブ色 内面:オリーブ黒色	
328	B区遺構外C5グリッド造成土	1244	第136図 PL.52	須恵器甕	器高:4.4△	外面:口縁部回転ナデ後波状文。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:暗緑灰色 内面:灰色	
329	B区遺構外A・B4、C6グリッド黒褐色粘質シルト	1448・1536・1538	第136図 PL.52	須恵器甕	器高:6.3△	外面:3条沈線を挟んで2段に波状文。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:黒褐色 内面:灰色	
330	B区遺構外D7グリッド造成土	899	第136図 PL.52	須恵器小型甕	口径:21.6※器高:5.2△	外面:口縁部~頸部回転ナデ。肩部カキ目。内面:口縁部~頸部回転ナデ。肩部同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰色	
331	B区遺構外C9グリッド造成土	942	第136図 PL.52	須恵器小型甕	口径:14.2※器高:5.6△	外面:口縁部回転ナデ。肩部ハケ目後カキ目。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰白色 内面:灰白~灰色	
332	B区遺構外D7グリッド造成土	1680・1702	第136図 PL.50	須恵器甕	器高:13.8△	外面:平行叩き。内面:同心円当具痕。	密	不良	内外面:浅黄橙色	
333	B区遺構外J10グリッド	845	第137図 PL.68	須恵器甕	器高:12.3△	外面:平行叩き後カキ目。内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:青灰色	
334	B区遺構外B5グリッド砂礫層	1349	第137図 PL.52	須恵器甕	器高:7.7△	外面:平行叩き。内面:車輪文当具痕。	密	不良	内外面:にぶい赤褐~灰オリーブ色	
335	B区遺構外I10グリッド暗褐色土	1661	第137図 PL.50	須恵器甕	器高:11.4△	外面:平行叩き後カキ目。内面:同心円当具痕。	密	やや不良	内外面:灰白色	
336	B区遺構外B5・6グリッド造成土	1253	第137図 PL.52	須恵器ハンソウ	口径:12.6※器高:2.6△	外面:口縁部波状文。一部ナデ消し。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:青黒色 内面:灰白色	
337	B区遺構外C5グリッド黒褐色粘質シルト	946・1611	第137図 PL.52	須恵器ハンソウ	器高:3.4△	外面:沈線間に斜行刺突文。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
338	B区遺構外D7グリッド造成土	899	第137図 PL.52	須恵器ハンソウ	器高:5.2△	外面:体部2条沈線間に貝殻後縁による斜行刺突文。底部ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
339	B区遺構外B4・5グリッド砂礫層	1401	第137図 PL.52	須恵器横瓶?	口径:9.6※器高:5.5△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
340	B区遺構外C・D5グリッド砂礫層	1419	第137図 PL.52	須恵器壺	口径:9.6※器高:4.7△	外面:口縁部~体部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:褐色	
341	B区遺構外D7グリッド造成土	1440	第137図 PL.52	須恵器碗	器高:4.5△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
342	B区遺構外A4・5、B5グリッド造成土中	889	第137図 PL.52	須恵器角坏?	器高:7.5△	内外面:ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
343	B区遺構外B・C5グリッド砂礫層	1341	第138図 PL.53	須恵器坏蓋	口径:14.6※器高:3.3	外面:口縁部~天井部回転ナデ。天井部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	不良	内外面:青灰色	二次焼成受ける。焼白か。須恵器塞関連遺物。胎土分析試料3。TK209。
344	B区遺構外C・D5グリッド砂礫層	1419・1446	第138図 PL.53	須恵器坏蓋	口径:15.0※器高:3.2	外面:口縁部~天井部回転ナデ。天井部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:暗赤褐色 内面:にぶい赤褐色	焼成時変形。須恵器塞関連遺物。胎土分析試料7。TK209。
345	B区遺構外B5グリッド砂礫層	1349	第138図 PL.53	須恵器坏蓋	口径:16.0※器高:1.6△	外面:口縁部~天井部回転ナデ。天井部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白~暗灰色	焼成時変形。須恵器塞関連遺物。胎土分析試料17。TK209?

第3章 調査成果

表28 土器・土製品観察表(14)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
346	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1447	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	口径:12.4※ 器高:2.3△	外面:口縁部～天井部回転ナデ。天井部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰白色 内面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
347	B区遺構外B5・6グリッド造成土	1253	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋?	器高:1.2△	外面:回転ナデか。窯壁付着。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
348	B区遺構外C6グリッド黒褐色粘質シルト	1612	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	最大長:7.4△ 最大幅:7.1△ 最大厚:3.7△	外面:窯壁片付着。内面:回転ナデ。	密	良好	内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
349	B区遺構外B5グリッド造成土	1397	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:1.3△	外面:回転ナデ。窯壁片付着。内面:不定ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	須恵器窯関連遺物。
350	B区遺構外B6グリッド造成土	901	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:1.1△	外面:天井部回転ケズリ。口縁部にかけて回転ナデ。天井部窯壁片付着。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:青灰色 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
351	B区遺構外D7グリッド黒褐色粘質シルト	1702	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:1.2△	外面:回転ナデか。窯壁付着。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連遺物。
352	B区遺構外C6グリッド造成土	922	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:1.75△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
353	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1447	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:3.7△	外面:回転ナデ。天井部須恵器片付着。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連遺物。
354	B区遺構外B5グリッド砂礫層	1349	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:1.8△	外面:天井部回転ケズリ後ナデ。内面:回転ナデか。須恵器付着。内面付着須恵器は断面発泡。	密	良好	内外面:灰～灰白色	須恵器窯関連遺物。
355	B区遺構外A・B4グリッド砂礫層	1402	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋?	器高:2.1△	内外面:回転ナデ。外面天井部別の須恵器片付着。	密	良好	外面:オリーブ灰色 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
356	B区遺構外C9グリッド造成土	942	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:0.9△	外面:回転ケズリ。窯壁片付着。内面:不定ナデ。	密	良好	内外面:灰～青灰色	須恵器窯関連遺物。
357	B区遺構外C6グリッド造成土	890	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:2.4△	内外面:回転ナデか。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。胎土分析試料24。TK209?
358	B区遺構外C5グリッド造成土	1351	第138図 PL.53	須恵器 坏蓋	器高:1.7△	外面:天井部回転ケズリ。口縁部にかけて回転ナデ。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰～灰オリーブ色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
359	B区遺構外B・C5グリッド砂礫層	1341	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:11.8※ 器高:3.6	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。底部へラ記号。内面:口縁部～底部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白～灰色	重ね焼きか。須恵器窯関連遺物。胎土分析試料10。TK209。
360	B区遺構外A・B4グリッド砂礫層	1433	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:14.0※ 器高:4.0△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:口縁部～底部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。胎土分析試料6。TK209。
361	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1404	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:12.4※ 器高:2.5	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:口縁部～底部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
362	B区遺構外C5グリッド造成土	1351	第138図 PL.53	須恵器 坏身	器高:3.55△	外面:体部上半回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰オリーブ色 内面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
363	B区遺構外C6グリッド黒褐色粘質シルト	1612	第138図 PL.53	須恵器 坏身	器高:2.3△	外面:体部上半回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:体部回転ナデ。底部不定ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
364	B区遺構外C5・6グリッド砂礫層	1257	第138図 PL.53	須恵器 坏身	器高:2.1△	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
365	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1256	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:11.0※ 器高:4.2△	外面:回転ナデ。窯壁片付着。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白～オリーブ黒色	須恵器窯関連遺物。胎土分析試料20。TK209。
366	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1447	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:9.8※ 器高:2.2△	内外面:回転ナデ。外面窯滓付着。	密	良好	内外面:灰～灰オリーブ色	須恵器窯関連遺物。胎土分析試料18。TK209。
367	B区遺構外B5・6グリッド造成土	1253	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:11.2※ 器高:2.9△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。TK209。
368	B区遺構外C5グリッド黒褐色粘質シルト	1454	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:15.0※ 器高:3.9△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形・断面発泡。須恵器窯関連遺物。胎土分析試料5。TK209。
369	B区遺構外C5グリッド造成土	1351	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:15.0※ 器高:2.7△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:回転ナデ。底部不定ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
370	B区遺構外A5グリッド造成土	1259	第138図 PL.53	須恵器 坏身	口径:12.0※ 器高:4.5	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。体部別の須恵器片付着。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連遺物。TK209。
371	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1445	第138図 PL.53	須恵器 坏身	器高:2.1△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。底部別の須恵器片付着。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白～灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。胎土分析試料19。TK209。

表29 土器・土製品観察表(15)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
372	B区遺構外A・B4グリッド 黒褐色粘質シルト	1617	第138図 PL.53	須恵器 坏身	器高:2.0△	外面:回転ナデか。窯壁付着。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。 須恵器窯関連 遺物。
373	B区遺構外 C5グリッド 造成土	1244	第138図 PL.53	須恵器 坏身?	器高:2.3△	外面:体部回転ナデか。底部回転ケ ズリ。 内面:回転ナデか。窯壁片付着。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
374	B区遺構外 B5・6グリッド 造成土	813・1253	第138図 PL.53	須恵器 坏身	器高:1.8△	外面:底部回転ケズリ。別の須恵器 片付着。 内面:回転ナデ。別の坏身片付着。	密	良好	外面:暗灰色 内面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
375	B区遺構外 C5・6グリッド 造成土	893	第138図 PL.53	須恵器 坏身	器高:2.9△	外面:回転ナデ。窯壁片付着。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	坏蓋を重ねて 焼いたものか。 須恵器窯関連 遺物。
376	B区遺構外 B5・6グリッド 造成土	892・1254	第138図 PL.53	須恵器 坏	口径:10.8※ 器高:4.2△	外面:口縁部回転ナデ。底部回転糸 切り後ナデ。ヘラ記号。 内面:口縁部回転ナデ。底部不定方 向ナデ。	密	良好	外面:オリーブ黒色 内面:灰色	焼成時変形。 須恵器窯関連 遺物。
377	B区遺構外 A4・5グリッド 黒褐色粘質シルト	1444	第138図 PL.54	須恵器 坏	器高:3.7△	内外面:回転ナデ。内面に別の坏片 付着。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
378	B区遺構外 B・C5グリッド 砂礫層	1446	第138図 PL.54	須恵器 高台付皿	口径:19.6※ 器高:2.6 底径:15.4※	外面:回転ナデ。 内面:回転ナデ。窯壁片付着。	密	良好	外面:灰白~灰オリーブ 色 内面:灰色	須恵器窯関連 遺物。胎土分 析試料12。 TK46・48。
379	B区遺構外 A・B・D4グリッド 造成土~黒褐色 粘質シルト	1350・1538	第138図 PL.54	須恵器 皿	口径:14.6※ 器高:1.6	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切 り。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。 須恵器窯関連 遺物。胎土分 析試料14。平安 時代。
380	B区遺構外 D7グリッド 造成土	1440	第138図 PL.54	須恵器 有蓋高坏	口径:13.4※ 器高:2.4△	外面:回転ナデ。蓋片付着。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰~暗灰色 内面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
381	B区遺構外 C6グリッド 黒褐色粘質シルト	1612	第138図 PL.54	須恵器 有蓋高坏	器高:2.1△	外面:回転ナデ。須恵器蓋片付着。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:青灰色 内面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
382	B区遺構外 B5・6グリッド 造成土	1254	第138図 PL.54	須恵器 高坏脚部	器高:3.6△ 底径:10.6※	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:青灰色 内面:灰色	焼成時変形。 須恵器窯関連 遺物。
383	B区遺構外 B4グリッド 造成土	1350	第138図 PL.54	須恵器 高坏脚部	器高:3.3△	外面:回転ナデ。 内面:回転ナデ。別の須恵器片付着。 自然袖付着。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	須恵器窯関連 遺物。
384	B区遺構外 B・C5グリッド 砂礫層	1341	第138図 PL.54	須恵器 高坏脚部	器高:7.7△	外面:回転ナデ。中位1条沈線。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰オリーブ色 内面:灰色	焼成時変形。 須恵器窯関連 遺物。一方透 かし。
385	B区遺構外 A・B5グリッド 砂礫層	1433	第138図 PL.54	須恵器 高坏脚部	器高:不明	外面:窯壁付着。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	須恵器窯関連 遺物。
386	B区遺構外 C6グリッド 造成土	1245	第138図 PL.54	須恵器 高坏脚部	器高:2.7△	外面:回転ナデ。 内面:回転ナデ。窯壁片付着。	密	良好	外面:灰白色 内面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
387	B区遺構外 B5グリッド 砂礫層	1349	第138図 PL.54	須恵器 脚部	器高:2.8△	外面:カキ目。 内面:回転ナデ。窯壁片付着。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
388	B区遺構外 C・D5グリッド 黒褐色粘質シルト	1436	第138図 PL.54	須恵器 高坏脚部	器高:3.8△	外面:回転ナデ。 内面:回転ナデか。窯壁付着。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連 遺物。
389	B区遺構外 B5グリッド 砂礫層	1349	第138図 PL.54	須恵器 有蓋高坏脚 部・提瓶	器高:3.9△	有蓋高坏脚部の内側に提瓶片付着。 外面:脚部回転ナデ。提瓶カキ目。 内面:脚部回転ナデ。提瓶回転ナデ。	密	良好	内外面:灰~オリーブ灰 色	須恵器窯関連 遺物。胎土分 析試料21(提瓶 部分)。TK209。
390	B区遺構外 C・D5グリッド 砂礫層	1417	第139図 PL.54	須恵器 有蓋高坏	口径:13.2※ 器高:10.9 底径:12.6※	外面:坏部回転ナデ。脚部回転ナデ。 裾部境に1条沈線。坏部蓋? 付着。脚部別の須恵器片・窯 壁片付着。 内面:坏部~脚部回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	須恵器窯関連 遺物。胎土分 析試料23。 TK209。
391	B区遺構外 A・B4グリッド 黒褐色粘質シルト	1617	第139図 PL.54	須恵器 短頸壺	口径:15.0※ 器高:6.5△	内外面:回転ナデ。外面窯滓付着。	密	良好	外面:オリーブ灰色 内面:灰~オリーブ灰色	須恵器窯関連 遺物。胎土分 析試料15。 TK209?
392	B区遺構外 B5・6グリッド 砂礫層	1341	第139図 PL.54	須恵器 壺?	器高:3.5△	外面:体部上半回転ナデ。下半~底 部回転ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	二次焼成受け る。焼台か。 須恵器窯関連 遺物。
393	B区遺構外 C・D5グリッド 砂礫層	1419	第139図 PL.54	須恵器 壺底部	器高:2.9△	外面:底部回転ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:青灰色	焼台として使 用。断面二次 被熱による変 色。須恵器窯 関連遺物。
394	B区遺構外 B5・6グリッド 造成土	1253	第139図 PL.54	須恵器 長頸壺	器高:5.8△	外面:回転ナデ。内外面窯壁片付着。 内面:頸部回転ナデ。体部指押さえ。	密	良好	内外面:灰白~灰オリーブ 色	須恵器窯関連 遺物。
395	B区遺構外 C5グリッド 造成土	1351	第139図 PL.55	須恵器 甕	器高:5.2△	外面:調整不明。別の須恵器片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:灰オリーブ色 内面:灰色	焼成時変形。 須恵器窯関連 遺物。
396	B区遺構外 B5グリッド 砂礫層	1349	第139図 PL.55	須恵器 甕	器高:11.5△	外面:平行叩きか。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	焼成時変形。 須恵器窯関連 遺物。
397	B区遺構外 B・C5グリッド 造成土	1341	第139図 PL.55	須恵器 甕胴部	器高:10.6△	外面:平行叩き。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰白色	須恵器窯関連 遺物。
398	B区遺構外 C5・D5グリッド 造成土	1419	第139図 PL.55	須恵器 甕胴部	器高:7.0△	外面:平行叩き。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連 遺物。

第3章 調査成果

表30 土器・土製品観察表(16)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
399	B区遺構外B・C5グリッド砂礫層	1341	第139図 PL.55	須恵器甕	器高:8.0△	外面:ナデか。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:灰～黒色 内面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
400	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1447	第139図 PL.55	須恵器甕	器高:8.0△	外面:平行叩き後カキ目。別の須恵器の接着痕あり。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:暗灰色 内面:黄灰色	焼台として使用。断面二次被熱によるハジケ。
401	B区遺構外D7グリッド造成土	946	第139図 PL.55	須恵器甕胴部	器高:5.5△	外面:平行叩き。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰白色	須恵器窯関連遺物。
402	B区遺構外C5グリッド造成土(砂礫層)	1256	第139図 PL.55	須恵器甕胴部	器高:9.1△	外面:平行叩き後カキ目。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕。ナデ。	密	良好	外面:灰黄～灰色 内面:黄灰色	須恵器窯関連遺物。
403	B区遺構外D7グリッド造成土	1680	第139図 PL.55	須恵器甕胴部	器高:10.8△	外面:平行叩き後カキ目。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕。ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	須恵器窯関連遺物。
404	B区遺構外A・B4グリッド砂礫層	1433	第139図 PL.55	須恵器甕胴部	器高:5.7△	外面:平行叩き。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:灰オリーブ色 内面:灰白色	内外面自然釉。焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
405	B区遺構外D7グリッド造成土	1254	第139図 PL.55	須恵器甕	器高:3.3△	外面:カキ目。窯壁片付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰白色	須恵器窯関連遺物。
406	B区遺構外B5・6グリッド造成土	1253	第139図 PL.55	須恵器提瓶	器高:4.1△	外面:カキ目。 内面:回転ナデ。窯壁片付着。	密	良好	外面:灰白～灰色 内面:暗オリーブ灰色	須恵器窯関連遺物。
407	B区遺構外C5グリッド砂礫層	1256	第139図 PL.55	須恵器提瓶か横瓶	器高:9.1△	外面:カキ目。重ね焼き痕か。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰白～灰オリーブ色 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
408	B区遺構外A・B5グリッド黒褐色粘質シルト	1403	第139図 PL.55	須恵器提瓶	器高:10.0△	外面:カキ目。別の須恵器片付着。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:褐灰色 内面:灰白色	須恵器窯関連遺物。胎土分析試料11。TK209?
409	B区遺構外遺構外B・C5グリッド砂礫層	1341	第139図 PL.55	須恵器甕	器高:3.5△	外面:カキ目。別の須恵器片付着。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰～黒色 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
410	B区遺構外B・C5グリッド砂礫層	1341	第139図 PL.54	須恵器把手付甕?	口径:10.4※ 器高:8.1△	外面:回転ナデ後2条沈線。下向きの把手付く。窯壁片付着。 内面:回転ナデ。窯壁片付着。	密	良好	外面:灰白～灰色 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
411	B区遺構外B4・5グリッド砂礫層	1401	第140図 PL.56	須恵器窯壁	最大長:36.6△ 最大幅:19.3△ 最大厚:15.0△	やや湾曲する須恵器窯壁片。提瓶又は横瓶片、甕片等が付着。	非常に粗い(5cm大の礫含む)			須恵器窯関連遺物。
412	B区遺構外A・B4グリッド黒褐色粘質シルト	1575	第140図 PL.56	須恵器窯壁	最大長:19.9 最大幅:13.4 最大厚:8.2	砂礫を多量に含む。スサ含む。			オリーブ黒色	須恵器窯関連遺物。胎土分析試料2。TK209?
413	B区遺構外A4・5グリッド黒褐色粘質シルト	1444	第140図 PL.56	須恵器窯壁	最大長:10.6△ 最大幅:8.3△ 最大厚:7.3△	2種類の須恵器付着。				須恵器窯関連遺物。
414	B区遺構外B・C5グリッド砂礫層	1341	第140図 PL.56	須恵器窯壁	最大長:10.7 最大幅:5.0 最大厚:8.0	砂礫を多量に含む。スサ含む。			オリーブ黒色	須恵器窯関連遺物。胎土分析試料1。TK209?
415	B区遺構外D7グリッド造成土中	1246	第140図 PL.47	土師器土鉢	最大長:3.3 最大幅:3.2 最大厚:3.3 重さ:28.37g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙～褐灰色	
416	B区遺構外D7グリッド造成土中	899	第140図 PL.47	土師器土鉢	最大長:3.3 最大幅:3.2 最大厚:2.5 重さ:24.47g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	
417	B区遺構外D7グリッド造成土	1440	第140図 PL.47	土師器土鉢	最大長:3.8 最大幅:3.5 最大厚:3.5 重さ:44.39g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	褐灰～黒褐色	一部黒斑。
418	B区遺構外B4・5グリッド黒褐色粘質シルト	1443	第140図 PL.47	須恵器紡錘車	最大長:5.3 最大幅:5.2 最大厚:2.4	ロクロ成形か。表面風化。	密	良好	灰白色	
419	B区遺構外C5・6グリッド造成土中	893	第140図 PL.47	土師器土鉢	最大長:3.4△ 最大幅:1.3 最大厚:1.4 重さ:4.95g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	褐灰色	
420	B区遺構外B4・5グリッド黒褐色粘質シルト	1565	第140図 PL.47	瓦質土器鍋	器高:2.9△	内外面:ナデ。	密	良好	外面:黒色 内面:灰オリーブ色	
421	B区遺構外A5グリッド造成土	1259	第140図 PL.47	備前焼壺	器高:6.6△	外面:肩部波状文。 内面:ロクロナデ。	密	良好	内外面:赤褐色	外面灰かぶり。
422	B区遺構外C5グリッド造成土	1351	第140図 PL.47	唐津焼碗	器高:2.7△ 底径:5.6	内外面:施釉。	密	良好	胎土にぶい橙色 釉:灰白色	
423	B区遺構外C・D6グリッド造成土	1434	第140図	須佐焼掃鉢	器高:4.2△	外面:ナデ。 内面:ナデ後卸目。	密	良好	内外面:にぶい橙色	
424	B区遺構外C5グリッド黒褐色粘質シルト	1611	第140図 PL.69	瓦丸瓦	最大長:9.3△ 最大幅:10.3△ 最大厚:1.4	凸面:布目後筋状のナデ。 凹面:布目。一部ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
425	B区遺構外B5グリッド砂礫層	1250	第140図 PL.69	瓦質土製品瓦塔基部?	最大長:10.6△ 最大幅:8.2△ 最大厚:5.8△	瓦塔基部を表現したものか。傾斜した側面隅に2本の横方向沈線の表現あり。底面は、方形のほぞ状の突起がつくものと思われる。	密	良好	灰白色	裏面黒斑。

表31 土器・土製品観察表(17)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
426	C区遺構外 I18グリッド 暗褐色土	1636	第143図 PL.60	縄文土器 深鉢	器高4.1△	外面:粗い条痕。 内面:粗い条痕。	密(1mm程度 の砂粒含む)	良好	内外面:浅黄褐色	晩期。
427	C区遺構外 F10グリッド 黒褐色土	706	第143図 PL.60	弥生土器 壺	口径:15.8※ 器高3.9△	外面:口縁部2条凹線。頸部タテハケ。 内面:口縁部〜頸部ヨコナデ。	密	良好	内外面:浅黄色	Ⅲ-3様式。
428	C区遺構外 E10・I1グリッド 造成土	703	第143図 PL.60	弥生土器 壺	口径:13.4※ 器高3.5△	外面:口縁部3条凹線。頸部ナデ。 内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい橙色 内面:橙色	
429	C区遺構外 E8・D9グリッド 暗褐色土〜黒褐色土	1515・1539・1634・ 1656・1673	第143図 PL.56	弥生土器 小型壺	口径:11.2※ 器高20.7 胴部最大径: 18.3 底径:6.4	外面:口縁部3条凹線後斜行刺突文。 頸部タテハケ、2条貼り付け 突帯。肩部タテハケ後櫛状工 具による2段の刺突文。体部 中位斜方向ミガキ。下半縦方 向ミガキ。底部ナデ。 内面:口縁部〜頸部ヨコナデ。頸部 指押さえ。肩部ヨコハケ。体 部中位以下タテハケ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色。 内面:にぶい黄橙〜黒褐 色	底部焼成後穿 孔。内外面黒 斑。 Ⅲ-1様式。
430	C区遺構外 E12グリッド 黒褐色土	259	第143図 PL.60	弥生土器 甕	口径:20.6※ 器高5.1△	外面:口縁部5条平行沈線。肩部ナ デ。 内面:ナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
431	C区遺構外 E13グリッド 表土中	42	第143図 PL.60	弥生土器 甕	口径:14.8※ 器高4.7△	外面:口縁部6条平行沈線。頸部ナ デ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部 以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
432	C区遺構外 H16グリッド 流土中	119	第143図 PL.60	弥生土器 甕	口径:18.4※ 器高4.9△	外面:口縁部6〜8条平行沈線後一部 ナデ消し。頸部ナデ。 内面:口縁部ミガキ。頸部屈曲部以 下左方向ケズリ。	密	良好	内外面:浅黄褐色	
433	C区遺構外 D10グリッド 黒褐色土	874	第143図 PL.60	弥生土器 甕	口径:16.2※ 器高3.4△	外面:口縁部10条平行沈線。 内面:口縁部ミガキ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	V-3様式。
434	C区遺構外 I16グリッド 表土中	79	第143図 PL.60	弥生土器 甕	器高3.4△	外面:口縁部7条平行沈線。頸部〜 肩部刺突文。 内面:口縁部ミガキ。頸部屈曲部以 下ケズリ。	密(2mm程度 の砂粒含む)	良好	内外面:橙色	V-3様式。
435	C区遺構外 D8グリッド 暗褐色土	1549	第143図 PL.60	弥生土器 脚付甕	器高4.2△ 底径8.5※	外面:脚部ヨコナデ。脚端部9条平 行沈線。 内面:胴底部ナデ。脚部ケズリ後ナ デ。	密	良好	内外面:黄褐色	V-3様式。
436	C区遺構外 I16グリッド 表土中	79-88	第143図 PL.56	弥生土器 鼓形器台	口径:20.0※ 器高11.4△	外面:口縁部9〜11条の平行沈線。 筒部上半ミガキ後沈線。 内面:口縁部ミガキ。筒部シボリ目。	密(2〜4mmの 砂粒含む)	良好	内外面明:黄褐色	内外面赤色塗 彩。 V-3様式。
437	C区遺構外 E12グリッド 暗褐色土	240	第143図 PL.60	弥生土器 鼓形器台	器高3.6△	外面:脚端部7条以上平行沈線。 内面:ケズリ。	密	良好	外面:橙色 内面:にぶい橙色	
438	C区遺構外 C8グリッド 黒褐色土	1204	第143図 PL.60	土師器 高坏	器高4.5△	外面:脚部ハケ目。 内面:坏底部ナデ。脚部ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄橙〜黄褐 色 内面:にぶい黄褐色	天神川Ⅱ期。
439	C区遺構外 D8グリッド 暗褐色土	1578	第143図 PL.60	土師器 高坏	器高4.9△ 底径8.6※	外面:風化のため調整不明。 内面:体底部ナデ。脚部ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	古墳時代か。
440	C区遺構外 H12グリッド 表土	825	第143図 PL.60	土師器 高坏	口径:16.0※ 器高5.8△	内外面:ナデ。	密	良好	内外面:橙色	天神川Ⅳ期。
441	C区遺構外 E10グリッド 暗褐色土	840	第143図 PL.60	土師器 甕	器高3.2△	内外面:ナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	外面スス附着。 天神川Ⅲ期。
442	C区遺構外 D8グリッド	1509	第143図 PL.60	土師器 直口壺	口径:13.0※ 器高5.2△	外面:ヨコナデ。 内面:頸部ヨコナデ。肩部以下ケズ リ。	密	良好	内外面:にぶい橙色	古墳時代か。
443	C区遺構外 D・E10グリッド 褐色土	701	第143図 PL.60	土師器 壺	口径:13.2※ 器高4.0△	内外面:ナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	天神川Ⅲ期。
444	C区遺構外 D8グリッド 暗褐色土〜黒褐 色土悪	1215・1550	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:35.0※ 器高8.0△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
445	C区遺構外 D・E10グリッド 黒褐色土	808	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:31.4※ 器高7.0△	外面:口縁部ヨコナデ。頸部以下粗 いハケ目。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
446	C区遺構外 D10グリッド 攪乱土	1009	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:32.6※ 器高8.5△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハ ケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	口縁部外面ス ス附着。
447	C区遺構外 C8グリッド	1232	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:33.8※ 器高5.4△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部タテハ ケ。一部ヨコハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ後ナデ。	密	良好	内外面:橙色	口縁部外面一 部スス附着。
448	C区遺構外 D9グリッド	1195	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:27.5※ 器高6.0△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	外面スス附着。
449	C区遺構外 D・E10グリッド	722	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:30.4※ 器高5.2△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:にぶい橙色	外面スス附着。
450	C区遺構外 E9グリッド 暗褐色土	1543	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:27.4※ 器高10.0△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ヨコ後 タテハケ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:黄褐色	
451	C区遺構外 D8グリッド	1348	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:25.4※ 器高6.8△	外面:ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:橙色	
452	C区遺構外 D8グリッド 暗褐色土	1590	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:22.8※ 器高5.8△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目 内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケ ズリ。	密	良好	内外面:灰黄色	

第3章 調査成果

表32 土器・土製品観察表(18)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
453	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1590	第143図 PL.57	土師器 甕	口径:20.9 器高:10.0△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面:口縁部ヨコハケ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄橙色 内面:浅黄橙~黒色	外面スス付着。
454	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1570	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:19.0※ 器高:8.0△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙~橙色	
455	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1593	第143図 PL.61	土師器 甕	口径:22.0※ 器高:5.8△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。内面:口縁部ヨコハケ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	
456	C区遺構外E9グリッド黒褐色土	778	第143図 PL.61	土師器 甕	器高:5.2△	外面:口縁部ナデ。内面:口縁部ナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	内面口縁部黒斑あり。
457	C区遺構外D8グリッド表土~砂礫	1271	第144図 PL.61	土師器 甕	口径:29.5※ 器高:10.3△	外面:ヨコナデ。体部下半粗いハケ目。内面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ後ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄橙~橙色 内面:にぶい黄橙色	
458	C区遺構外E9グリッド暗褐色土	1589	第144図 PL.63	土師器 甕	口径:28.2※ 器高:6.4△	外面:ヨコナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	
459	C区遺構外D8-9グリッド暗褐色土	1474	第144図 PL.63	土師器 甕	口径:24.6※ 器高:9.3△	外面:ヨコナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:橙色	
460	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1578	第144図 PL.63	土師器 甕	口径:26.0※ 器高:7.1△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部粗いヨコハケ後一部タテハケ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	
461	C区遺構外E9グリッド暗褐色土	1543	第144図 PL.63	土師器 甕	口径:20.0※ 器高:6.7△	外面:口縁部ヨコナデ。体部ハケ目。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:にぶい橙~橙色 内面:にぶい橙色	
462	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1162	第144図 PL.63	土師器 甕	口径:30.4※ 器高:6.2△	外面:ヨコナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:黄褐色 内面:黄褐~褐色	
463	C区遺構外C8グリッド暗褐色土	979	第144図 PL.63	土師器 甕	口径:26.9※ 器高:5.6△	外面:口縁部~肩部ヨコナデ。肩部との境に1条沈線。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	内面黒斑。
464	C区遺構外D9グリッド黒褐色土	799	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:21.6※ 器高:8.3△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:明黄褐色 内面:にぶい黄橙色	外面スス付着。
465	C区遺構外D-E9グリッド黒褐色土	958-961・1139・1160	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:32.9※ 器高:12.2△	外面:ヨコナデ。口縁部ハケ状工具痕。内面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。	密(1mm程度の砂粒含む)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄橙色	外面スス付着。
466	C区遺構外C10グリッド表土~褐色土	962	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:21.5※ 器高:9.7△	外面:口縁部ヨコナデ。体部ハケ目。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:浅黄橙~褐色 内面:浅黄褐色	
467	C区遺構外E9グリッド暗褐色土	1592	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:23.6※ 器高:6.4△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目。内面:口縁部ヨコハケ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	
468	C区遺構外D8-E9グリッド暗褐色土	1507・1543	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:22.4※ 器高:8.0△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部粗いタテハケ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ハケ目。	密	良好	内外面:にぶい黄橙色	
469	C区遺構外F12グリッド褐色土	281・445・495	第144図 PL.57	土師器 甕	口径:21.4※ 器高:9.6△	外面:口縁部ナデ。肩部以下粗いハケ目。内面:口縁部ハケ目。肩部以下ケズリ。	密	良好	内外面:明黄褐色	外面スス付着。
470	C区遺構外C10グリッド表土~褐色土	962	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:22.5※ 器高:5.7△	外面:口縁部ヨコナデ後1条沈線。頸部以下ヨコナデ後ハケ目。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:明黄褐色	
471	C区遺構外E9グリッド暗褐色土	1592-1736	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:27.0※ 器高:5.7△	外面:口縁部ナデ。体部粗いハケ目。内面:口縁部ナデ。頸部以下粗いハケ目。	密	やや不良	内外面:明黄褐色	外面スス付着。
472	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1549	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:16.0※ 器高:9.0△	外面:口縁部ナデ。肩部以下粗いハケ目。内面:口縁部ナデか。肩部以下ケズリ。	密	良好	外面:浅黄褐色 内面:にぶい黄橙色	
473	C区遺構外D10-E9グリッド黒褐色土	1479-1704-1736	第144図 PL.62	土師器 甕	口径:13.9※ 器高:15.5※	外面:口縁部ヨコナデ。頸部以下粗いハケ目。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。底部ケズリ後ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄橙~明赤褐色 内面:にぶい黄橙色	外面赤色塗彩。
474	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1509	第144図 PL.62	土師器 小型甕	口径:10.8※ 器高:6.8△	外面:口縁部ヨコナデ。体部上半タテハケ。下半ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。体部上半ケズリ。	密	良好	外面:にぶい橙色 内面:灰褐色	
475	C区遺構外D8グリッド	1136	第144図 PL.62	土師器 小型甕	口径:15.4※ 器高:3.9△	外面:口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。内面:口縁部ヨコハケ。一部ハケ状工具痕。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:橙色	口縁部内面スス付着。
476	C区遺構外E10グリッド黒褐色土	705	第144図 PL.62	土師器 小型甕	口径:12.0※ 器高:3.5△	外面:ヨコナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄橙~褐色	
477	C区遺構外E9グリッド暗褐色土	1543	第144図 PL.62	土師器 小型甕	口径:9.6※ 器高:5.1△	外面:口縁部ヨコハケ。肩部粗いタテハケ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部以下ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
478	C区遺構外E10グリッド黄褐色土	835	第145図 PL.60	土師器 坏	口径:11.0※ 器高:3.0△	外面:ナデ。内面:ヨコナデ後縦方向ミガキ。	密	良好	内外面:橙色	
479	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1162	第145図 PL.60	土師器 坏	口径:12.3※ 器高:2.7△	内外面:ミガキ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗彩。
480	C区遺構外E10グリッド黒褐色土	706	第145図 PL.60	土師器 坏	口径:10.3※ 器高:2.5△	外面:ヨコナデ。内面:ヨコナデ後暗文。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗彩。

表33 土器・土製品観察表(19)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
481	C区遺構外C9グリッド黒褐色土	976	第145図 PL.60	土師器 杯	器高:2.9△	外面:ミガキ。内面:ミガキ後斜方向暗文。	密	良好	内外面:赤褐色	内外面赤色塗彩。
482	C区遺構外C9グリッド黒褐色土	959	第145図 PL.60	土師器 杯	口径:11.0※ 器高:3.0△	外面:回転ナデ。底部底部押圧か。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:明赤褐色	伯耆国第3段階。
483	C区遺構外D9グリッド流土中	519	第145図 PL.60	土師器 高台杯	器高:2.1△ 底径:8.2※	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗彩。
484	C区遺構外D8・H11グリッド灰色粘質土	879・1137	第145図 PL.60	土師器 碗	口径:14.8※ 器高:5.1	外面:口縁部ヨコナデ。体部下半ケズリ。内面:ミガキ。	密	良好	外面:にぶい橙色 内面:にぶい黄橙～浅黄褐色	
485	C区遺構外G14グリッド暗褐色土	181	第145図 PL.60	土師器 碗	口径:10.2※ 器高:3.6△	内外面:丁寧なミガキ。	密	良好	内外面:明赤褐色	内外面赤色塗彩。
486	C区遺構外D8・E9グリッド暗褐色土	1136・1628	第145図 PL.60	土師器 碗	器高:4.4△	内外面:ヨコナデ。	密	良好	内外面:橙色	内外面赤色塗彩。
487	C区遺構外D9グリッド黒褐色土	1160	第145図 PL.60	土師質土器 皿	器高:1.5△ 底径:8.0※	内外面:風化著しい。底部外面回転糸切り。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
488	C区遺構外E10グリッド黒褐色土	826	第145図 PL.60	土師質土器 杯	器高:1.8△ 底径:7.8※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
489	C区遺構外D9グリッドにぶい黄褐色土	1659	第145図 PL.60	手捏ね土器 小鉢	口径:8.6 器高:4.5 底径:5.55	内外面:手捏ね成形後ナデ。体部指押しさえあり。	密	良好	内外面:橙色	
490	C区遺構外D8・9グリッド	1209・1273	第145図 PL.64	土師器 甌	器高:4.2△	外面:粗いたテハケ後細かいたテハケ。内面:口縁部ヨコナデ。以下ケズリ後ヨコハケ。	密	良好	内外面:にぶい橙色	
491	C区遺構外D9グリッドにぶい黄褐色土	1649	第145図 PL.64	土師器 甌	器高:22.4△ 底径:13.0※	外面:体部粗いたテハケ。角状把手貼り付け。内面:ケズリ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	底部付近円孔。
492	C区遺構外E9グリッド暗褐色土	1474・1507・1508・1534・1540・1543・1546・1593	第145図 PL.64	土師器 甌	器高:15.8△ 底径:14.0※	外面:体部細かなハケ目。把手付近粗いハケ目。内面:ハケ目。狭端部ケズリ後ナデ。	密	良好	外面:にぶい橙色 内面:褐灰色	狭端部円孔あり。古墳時代のものか。
493	C区遺構外E9グリッド黒褐色土	797	第145図 PL.64	土師器 甌	器高:5.7△ 底径:17.0※	外面:ナデ。内面:ケズリ。	密	良好	内外面:明黄褐色	狭口側穿孔あり。
494	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1508・1546	第145図 PL.64	土師器 甌	器高:5.3△ 底径:13.4※	外面:斜方向ハケ目。内面:端部ナデ。以上ケズリ後ミガキ。	密	良好	外面:橙色 内面:浅黄色	
495	C区遺構外D・E9グリッド暗褐色礫多混土	1515	第145図 PL.64	土師器 甌把手	器高:7.3△	外面:手捏ね成形。基部ハケ目。内面:上方向ケズリ。	密	良好	外面:にぶい橙～褐灰色 内面:にぶい黄褐色	外面黒斑。
496	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1516	第145図 PL.64	土師器 甌把手	器高:8.3△	外面:手捏ね成形。基部ハケ目。内面:上方向ケズリ。	密	良好	内外面:黄褐色	
497	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1546	第145図 PL.64	土師器 甌把手	器高:5.8△	外面:ハケ目。内面:ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面:にぶい橙色	
498	C区遺構外C8グリッド暗褐色土	1521	第145図 PL.64	土師器 土製支脚	器高:6.0△ 底径:8.0※	外面:手捏ね成形。内面:ナデ。	密	良好	内外面:浅黄褐色	外面黒斑。
499	C区遺構外D14グリッド表土～流土	45	第145図 PL.64	弥生土器 甌把手	器高:13.9△	外面:手捏ね成形。ケズリ後ナデ。内面:上方向ケズリ。	密(1mm程度の砂粒含む)	良好	外面:浅黄色 内面:にぶい黄褐色	外面一部黒斑。
500	C区遺構外D8・9・E9グリッド暗褐色土～黒褐色土	1494・1516・1518・1704	第145図 PL.65	土師器 移動式甌	口径:30.5-34.5 器高:33.0 底径:32.5	外面:口縁部・肩部・底部ナデ。体部タテハケ。内面:ケズリ。	密	良好	外面:浅黄褐色 内面:浅黄～褐色	内外面スス付着。
501	C区遺構外	1221・1271	第146図 PL.65	土師器 移動式甌 底部	最大長:27.7△ 最大幅:12.6△ 最大厚:2.3	内外面:粗いナデ。	密	良好	内外面:明黄褐色	底部の一部二次焼成による赤・黒変。
502	C区遺構外	1262・1264・1271・1273・1348・1451	第146図 PL.65	土師器 移動式甌	器高:13.7△	外面:ハケ目。内面:ケズリ。	密(1mm程度の砂粒含む)	良好	内外面:浅黄橙～褐色	外面黒斑。内面一部スス付着。
503	C区遺構外	1566・1572	第146図 PL.65	土師器 移動式甌 体部	器高:21.2△	外面:板状工具によるナデ。内面:ケズリ。	密(1mm程度の砂粒含む)	良好	外面:にぶい橙色 内面:にぶい黄褐色	
504	C区遺構外D9グリッド暗褐色土	1264・1451	第146図 PL.65	土師器 移動式甌	器高:18.2△	外面:強い指ナデ・タテハケ。内面:上方向ケズリ。	密	良好	外面:にぶい黄橙～褐灰色 内面:にぶい黄褐色	
505	C区遺構外E9グリッド	1688	第146図 PL.57	須恵器 坏蓋	口径:10.3※ 器高:3.9	外面:口縁部回転ナデ後工具痕。天井部回転ケズリ後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	天井部外面緋襷。胎土分析試料42。TK217。
506	C区遺構外E9グリッド	1688	第146図 PL.57	須恵器 坏蓋	口径:10.4 器高:3.3	外面:口縁部回転ナデ。天井部ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
507	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1509	第146図 PL.66	須恵器 坏蓋	口径:10.4※ 器高:3.6△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
508	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1551	第146図 PL.66	須恵器 坏蓋	口径:10.4※ 器高:3.4△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料26。TK217。
509	C区遺構外D9グリッド	1195	第146図 PL.66	須恵器 坏蓋	口径:12.4※ 器高:2.2	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ後輪状つまみ貼り付け。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	外面:黄褐色 内面:暗灰黄色	

第3章 調査成果

表34 土器・土製品観察表(20)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
510	C区遺構外D8・E9グリッド暗褐色土	1162・1425	第146図PL.66	須恵器坏蓋	口径:13.2※器高:2.6	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ後輪状つまみ貼り付け。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料45。TK46・48。
511	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	981	第146図PL.66	須恵器坏蓋	器高:1.9△つまみ径:5.2	外面:回転ナデ後輪状つまみ貼り付け。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
512	C区遺構外H14グリッド表土	44	第146図PL.66	須恵器坏蓋	器高:1.8△つまみ径:4.6	外面:天井部回転ケズリ。輪状つまみ貼り付け。内面:回転ナデ後不定方向ナデ。	密	良好	内外面:明青灰色	つまみ内×字ヘラ記号。
513	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1264・1272	第146図PL.58	須恵器坏蓋	口径:15.4※器高:3.0つまみ径:5.5	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ後ナデ。輪状つまみ貼り付け。内面:口縁部回転ナデ。天井部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料39。TK46・48。
514	C区遺構外E9グリッド黒褐色土	723	第146図PL.66	須恵器坏身	口径:10.3※器高:3.2△	外面:口縁部～底部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰黄色 内面:灰色	TK209。
515	C区遺構外E9グリッド黒褐色土	723	第146図PL.66	須恵器坏身	口径:12.4※器高:1.7△	内外面:回転ナデ	密	良好	内外面:灰色	TK209。
516	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1572	第146図PL.66	須恵器坏身	口径:10.1※器高:3.5	外面:口縁部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:青灰色	TK46・48。
517	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1509・1572・1594	第146図PL.58	須恵器坏身	口径:9.2※器高:3.9	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料54。TK217。
518	C区遺構外E9グリッド暗褐色土	1609・1616	第146図PL.58	須恵器坏身	口径:10.2※器高:3.5	外面:口縁部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:青灰色	TK46・48。
519	C区遺構外E9グリッドにぶい黄褐色土	978	第146図PL.58	須恵器坏身	口径:9.6※器高:3.5	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ、ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	TK217。
520	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1507	第146図PL.58	須恵器坏身	口径:10.4※器高:3.9	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料53。TK46・48。
521	C区遺構外D9グリッド	1194・1357	第146図PL.58	須恵器坏身	口径:9.4※器高:3.4△	外面:口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ後ナデ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	TK46・48。
522	C区遺構外D9グリッド灰褐色土	1451	第146図PL.66	須恵器坏	口径:10.2※器高:3.0△	外面:体部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:暗青灰色	TK46・48。
523	C区遺構外E9グリッド暗褐色土	1628	第146図PL.66	須恵器坏	器高:2.6△底径:6.8※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	八峠編年奈良前期。
524	C区遺構外E9グリッド	1137	第146図PL.66	須恵器坏	口径:13.8※器高:3.5底径:13.4※	外面:口縁部回転ナデ。底部回転糸切り。内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	外面重ね焼き痕。八峠奈良初期。
525	C区遺構外D・E9グリッド	958	第146図PL.66	須恵器坏	器高:1.4△底径:7.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面:回転ナデ後底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料25。八峠奈良前期。
526	C区遺構外E12グリッド褐色土	494	第146図PL.66	須恵器高台坏	器高:2.2△底径:8.8※	外面:体部回転ナデ。底部回転ケズリ。内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	胎土分析試料27。TK46・48。
527	C区遺構外E9グリッドにぶい黄褐色土	978	第146図PL.66	須恵器高台坏	器高:2.0△底径:8.0※	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	TK46・48。
528	C区遺構外D8グリッド	1136	第146図PL.66	須恵器高台坏	器高:4.2△底径:8.6※	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:暗灰色 内面:灰黄色	TK46・48。
529	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1594	第146図PL.66	須恵器坏	口径:10.8※器高:3.8△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	外面重ね焼き痕。八峠編年奈良初期。
530	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1550	第146図PL.58	須恵器有蓋高坏	口径:13.2※器高:9.3底径:10.7※	外面:坏口縁部回転ナデ。底部カキ目。脚部回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	やや不良	内外面:灰白色	TK209。
531	C区遺構外D8グリッド暗褐色土	1572	第146図PL.58	須恵器高坏	口径:16.5※器高:10.2底径:9.0※	外面:回転ナデ。内面:坏口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
532	C区遺構外D8グリッド	1137	第146図PL.66	須恵器高坏坏部	口径:14.0※器高:3.5△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
533	C区遺構外D・E10グリッド黒褐色土	808		須恵器高坏坏部	口径:14.2※器高:3.1△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
534	C区遺構外D9グリッド暗褐色土	1655・1716・1719	第146図PL.58	須恵器高坏	器高:8.0△底径:9.6※	外面:坏底部回転ケズリ。脚部回転ナデ。内面:坏底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	外面:灰～オリーブ黒色 内面:灰色	脚部2方に三角形透かし。TK217。
535	C区遺構外H11グリッド灰色粘質土	879	第146図PL.58	須恵器高坏	器高:8.4△底径:9.0	外面:坏部～脚部回転ナデ。内面:坏部回転ナデ後底部不定方向ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	三角形透かし1、切れ目透かし1。TK217。
536	C区遺構外D9グリッド暗褐色土	1520	第146図PL.66	須恵器小型高坏	口径:9.4※器高:3.3△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:暗オリーブ灰色	TK46・48。

表35 土器・土製品観察表(21)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
537	C区遺構外D8グリッド 暗褐色土	1551	第146図 PL.66	須恵器 小型高坏	口径:8.4※ 器高:5.9 底径:7.0※	外面:坏口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ。脚部回転ナデ後2条沈線。 内面:坏口縁部回転ナデ。底部ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面:灰褐～オリーブ灰色	TK217。
538	C区遺構外D8グリッド	1136	第147図 PL.68	須恵器 甕	口径:45.0※ 器高:8.0△	外面:口縁部回転ナデ。頸部3条以上沈線間に波状文。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:暗オリーブ灰色	
539	C区遺構外E9グリッド 暗褐色土	1591・1663	第147図 PL.68	須恵器 甕	器高:6.0△	外面:口縁部回転ナデ。頸部沈線間に波状文。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
540	C区遺構外D9グリッド	1195	第147図 PL.68	須恵器 甕	口径:21.0※ 器高:6.7△	外面:口縁部回転ナデ。肩部平行叩き。 内面:口縁部回転ナデ。肩部同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰色	
541	C区遺構外C8グリッド 暗褐色土	979	第147図 PL.68	須恵器 甕	器高:19.4△	外面:平行叩き後カキ目。 内面:同心円当具痕。	密	良好	外面:灰～青灰色 内面:灰色	胎土分析試料41。TK209?
542	C区遺構外D8グリッド	1271	第147図	須恵器 甕	器高:21.3△	外面:平行叩き後カキ目。 内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰色	
543	C区遺構外D8グリッド 暗褐色土	1594	第148図 PL.68	須恵器 甕	器高:10.5△	外面:頸部回転ナデ。体部平行叩き後カキ目。 内面:頸部回転ナデ。体部同心円当具痕。	密	良好	内外面:緑灰色	
544	C区遺構外D8グリッド 表土～砂礫	1271	第148図 PL.67	須恵器 壺体部	器高:7.8△ 底径:10.0※	内外面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰黄色 内面:灰白色	
545	C区遺構外E12グリッド 暗褐色土	465	第148図 PL.59	須恵器 小型長頸壺	口径:5.0 器高:10.7 底径:2.4	外面:頸部～体部上半回転ナデ。体部下半～底部持ち手によるケズリ。 内面:頸部回転ナデ。体部回転ナデか。	密	良好	内外面:灰～灰白色	内面付着物分析。
546	C区遺構外E9グリッド	1138	第148図 PL.67	須恵器 小型長頸壺	口径:4.9※ 器高:3.0△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
547	C区遺構外D・E9グリッド にぶい黄褐～暗褐色礫多混土	1477・1548	第148図 PL.67	須恵器 直口壺	口径:8.0※ 器高:7.0△	外面:口縁部～肩部回転ナデ。以下回転ケズリ。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	TK217。
548	C区遺構外D10グリッド 黄褐色土	1652	第148図 PL.67	須恵器 壺	器高:6.5△	外面:体部上半回転ナデ。下半回転ケズリ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	外面:暗緑灰色 内面:オリーブ灰色	
549	C区遺構外D8グリッド 暗褐色土	1570	第148図 PL.67	須恵器 壺体部	器高:7.5△	外面:体部上半回転ナデ。下半回転ケズリ。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	
550	C区遺構外D8グリッド	1136	第148図 PL.67	須恵器 短頸壺	口径:10.8※ 器高:7.3△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:黄灰色	TK209。
551	C区遺構外D9グリッド	1195	第148図 PL.67	須恵器 高台付壺底部	器高:2.9△ 底径:7.8	外面:体部回転ナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。 内面:体部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
552	C区遺構外D8グリッド 暗褐色土	1555	第148図 PL.67	須恵器 甕	器高:8.0△ 底径:13.6※	外面:基部回転ケズリ。上半回転ナデ。 内面:回転ナデ後指押さえ。	密	良好	外面:灰色 内面:灰白色	
553	C区遺構外D8グリッド 暗褐色土	1137・1353	第148図 PL.59	須恵器 平瓶	口径:10.9 器高:12.4△	外面:頸部回転ナデ。体部肩部平行叩き後カキ目。以下回転ナデ。 内面:頸部以下回転ナデ。	密	良好	外面:灰褐～にぶい褐色 内面:黄灰色	胎土分析試料40。TK217。
554	C区遺構外D8・9グリッド 暗褐色土	1137・1353・1451・ 1474・1508・1520・ 1551・1577・1736	第148図 PL.59	須恵器 平瓶	器高:17.3△	外面:頸部回転ナデ。肩部～体部下半カキ目。底部平行叩き後ナデ。肩部形骸化した把手貼り付け。 内面:頸部～体部下半回転ナデ。底部指押さえ。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料50。TK217か。
555	C区遺構外E9グリッド 暗褐色土	1161・1195・1264・ 1478・1480・1535・ 1591・1669・1688	第148図 PL.59	須恵器 平瓶	器高:14.4△	外面:肩部カキ目後形骸化した把手付着。体部下半平行叩き。 内面:肩部回転ナデ。体部下半同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰色	胎土分析試料49。飛鳥～奈良。
556	C区遺構外D8・9グリッド 暗褐色土	1451・1478・1537	第148図 PL.67	須恵器 提瓶	器高:10.2△	外面:カキ目。 内面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰白色	
557	C区遺構外D9グリッド	1194	第148図 PL.67	須恵器 提瓶	器高:6.7△	外面:カキ目。 内面:回転ナデか。	密	良好	外面:浅黄～暗オリーブ色 内面:暗オリーブ色	
558	C区遺構外D6グリッド 暗褐色土	1546	第148図 PL.67	須恵器 坏蓋	口径:12.3※ 器高:4.0△	外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ケズリ。自然釉多量に付着。 内面:回転ナデ。	密	良好	外面:灰～黒色 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。胎土分析試料9。TK209。
559	C区遺構外D・E10グリッド 褐色土	701	第148図 PL.67	須恵器 坏身	器高:1.5△	内外面:回転ナデ。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。TK209。
560	C区遺構外D9グリッド にぶい黄褐色土	1658	第148図 PL.67	須恵器 坏身	口径:9.8※ 器高:4.0	外面:口縁部～体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。受部別の須恵器片付着。 内面:口縁部回転ナデ。底部不定方向ナデ。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連遺物。胎土分析試料4。TK46・48。
561	C区遺構外E9グリッド 暗褐色土	1669・1688	第148図 PL.59	須恵器 小型高坏	器高:2.9△	外面:坏部回転ナデ。ヘラ記号。脚部回転ナデか。 内面:坏部回転ナデ。脚部回転ナデか。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。胎土分析試料14。TK46・48。
562	C区遺構外D8・9グリッド 暗褐色土	1478	第148図 PL.67	須恵器 甕	器高:10.1△	外面:平行叩き後カキ目。須恵器付着痕跡あり。 内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。
563	C区遺構外E9グリッド 暗褐色土	1591	第148図 PL.67	須恵器 甕	器高:9.2	須恵器甕外面同士が付着。	密	良好	外面:灰オリーブ 内面:灰色	須恵器窯関連遺物。
564	C区遺構外D8・9グリッド	1478	第148図 PL.67	須恵器 甕	器高:7.9△	外面:平行叩き。 内面:同心円当具痕。窯壁片付着。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連遺物。

第3章 調査成果

表36 土器・土製品観察表(22)

遺物番号	遺構区層位名	取り上げ番号	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
565	C区遺構外 E9グリッド 黒褐色土	723	第148図 PL.67	須恵器 埴	口径:10.6※ 器高:5.8	外面:口縁部カキ目。底部回転ケズリ。 内面:回転ナデか。窯壁溶着。	密	良好	外面:黄灰~灰黄色 内面:黄灰色	焼成時変形。須恵器窯関連遺物。胎土分析試料16。TK209?
566	C区遺構外 D8グリッド 暗褐色土	1577	第148図 PL.67	須恵器 甗	器高:7.5△	外面:平行叩き後角状把手貼り付け。窯滓付着。 内面:同心円当具痕。	密	良好	内外面:灰色	須恵器窯関連遺物。
567	C区遺構外	981・1205	第149図 巻頭図 版2	土師器 土馬	最大長:10.5△ 最大幅:7.0△ 最大高:12.1△	胸部~尾部欠損。手捏ね成形後ナデ。一部ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	一部黒斑。
568	C区遺構外	1174	第149図 巻頭図 版2	土師器 土馬	最大長:9.0△ 最大幅:7.2△ 最大高:7.8△	頭部・尾部を欠く。鞍の表現あり。飾り馬。	密	やや不良	浅黄色	飾り馬。一部黒斑。
569	C区遺構外	1194	第149図 巻頭図 版2	土師器 土馬脚	最大長:7.4△ 最大幅:2.7△ 最大厚:2.5	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙色	一部黒斑。
570	C区遺構外	1162	第149図	土師器 土馬脚	最大長:4.0△ 最大幅:2.0 最大厚:1.5	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙~褐色	一部黒斑。
571	C区遺構外	1357	第149図 巻頭図 版2	土師器 土馬脚	最大長:9.1△ 最大幅:2.9 最大厚:3.3	手捏ね成形後ナデ。一部ハケ目。	密	良好	にぶい黄橙色	一部黒斑。
572	C区遺構外 D10グリッド	841	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:4.0 最大幅:4.0 最大厚:3.0 重さ:32.99g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	黒褐色	黒斑。
573	C区遺構外 D10グリッド	1715	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:4.0 最大幅:3.8 最大厚:3.5 重さ:41.61g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙~黒褐色	一部黒斑。
574	C区遺構外 D8グリッド	1572	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.9 最大幅:3.8 最大厚:3.2 重さ:34.34g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい橙~橙色	
575	C区遺構外	1577	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.9 最大幅:3.9 最大厚:2.6 重さ:29.04g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	明褐色~にぶい橙色	
576	C区遺構外 D10グリッド	1652	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.9 最大幅:3.8 最大厚:3.7 重さ:45.16g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい橙色	
577	C区遺構外 D・E10グリッド	808	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.5 最大幅:3.5 最大厚:3.2 重さ:31.42g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄色	
578	C区遺構外 D8グリッド	1357	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.6 最大幅:3.4 最大厚:2.8 重さ:30.60g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい橙色	
579	C区遺構外 D9-10グリッド	1656	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.7 最大幅:3.4 最大厚:4.5 重さ:49.67g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙~橙色	一部黒斑。
580	C区遺構外 D8グリッド	1562	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.6 最大幅:3.3 最大厚:3.9 重さ:43.73g△	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい橙~褐色	一部黒斑。
581	C区遺構外 D10グリッド	1716	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.7 最大幅:3.3 最大厚:3.6 重さ:40.52g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	灰白~橙色	一部黒斑。
582	C区遺構外 E9グリッド	1548	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.5 最大幅:3.4 最大厚:3.2 重さ:37.16g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄~橙色	化粧土塗布か。
583	C区遺構外 D8グリッド	1550	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.1 最大幅:3.0 最大厚:2.9 重さ:29.79g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	浅黄~橙色	一部黒斑。
584	C区遺構外	1264	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.5 最大幅:3.2 最大厚:3.4 重さ:27.56g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	にぶい黄橙~灰黄褐色	
585	C区遺構外	1549	第149図 PL.63	土師器 土錘	最大長:3.5 最大幅:3.4 最大厚:3.2 重さ:34.95g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好	淡黄~黄灰色	一部黒斑。
586	C区遺構外 E9グリッド	978	第149図 PL.69	瓦 丸瓦	最大長:4.1△ 最大幅:8.1△ 最大厚:1.3	凸面:布目。 凹面:布目。	密	良好	外面:浅黄色 内面:灰黄色	外面一部スス付着。玉縁部か?須恵質。
587	C区遺構外 E9グリッド 褐色土	961	第149図 PL.69	瓦 丸瓦	最大長:9.8△ 最大幅:5.8△ 最大厚:1.0	凸面:ナデ。狭端部一部ハケ目。 凹面:布目。	密	良好	外面:浅黄色 内面:灰黄色	行基式。須恵質。
588	C区遺構外 E10グリッド 黒褐色土	779	第149図 PL.69	瓦 丸瓦	最大長:7.1△ 最大幅:9.6△ 最大厚:1.5	凸面:ケズリ後ナデ。 凹面:布目。	密	良好	外面:浅黄色 内面:暗灰黄色	須恵質。
589	C区遺構外 E9グリッド	978	第149図 PL.69	瓦 丸瓦	最大長:6.3△ 最大幅:8.4△ 最大厚:1.4	凸面:ケズリ後ナデ。 凹面:布目。	密	良好	内外面:灰黄色	須恵質。

表37 鉄関連遺物観察表(1)

構成番号	挿図PL.	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
1	第47図 PL.79	A区	SS2 造成土(灰褐色土)	鉄製品(鍛造品) (薄板状不明)	3.3	3.3△	0.5	6	3	錆化(△)	左側部が破面になった薄板状の鉄製品破片。表面は密度の高い酸化土砂に覆われており、破面には厚さ2mm程の鉄部が顔を出している。平面形は不整形に近く、僅かに反りが生じている。右下側の側部は平面形が直線状で、短軸側の両側部は緩やかな弧状を示す。鉄部は完全に錆化しており、破面の内部にはザクザクした茶褐色の酸化物が確認され、外周部は薄皮状のオニイタ状となる。鎌等の基部破片様ながら出土位置は造成土中である。	1158
2	第49図	A区	SS4 3層	炉内滓? (マグネタイト系滓付き、含鉄)	5.9	7.7	4.0	199	3	L(●)	表面が半流動状で弱いマグネタイト系の滓部に覆われた炉内滓様破片。方形断面を示す細身の棒状の鉄製品破片が2本連接した形で出土している。径3mm~5mmを測る棒状で、2片とも一方が太く他方が細くなっている。長頸鎌の基部の可能性を持ち、鎌とすれば本来の向きが逆転して固着した状態とみられる。頭部は欠落する。	145
3	第61図 PL.79	C区	SS8-1	鉄製品(鍛造品) (鎌?)	10.0△	0.9	0.5	10	2	錆化(△)	7世紀代の鍛冶工房であるSS8掘立柱建物跡から出土した鉄製品破片。方形断面を示す細身の棒状の鉄製品破片が2本連接した形で出土している。径3mm~5mmを測る棒状で、2片とも一方が太く他方が細くなっている。長頸鎌の基部の可能性を持ち、鎌とすれば本来の向きが逆転して固着した状態とみられる。頭部は欠落する。	746
4	第61図 巻頭図版4、PL.78	C区	SS8-1 北1-2	鉄製品(鍛造品) (手鎌(ヒル鎌)木部付き)	13.1	2.2	0.8	20	3	錆化(△)	前者と同一遺構から出土した完形の小型手鎌。左右の端部が内側に向かって短く折り返されており、上面の上手側には木部の痕跡を僅かに残す。最大幅は8cm程で、長さは1.9cmを測る。背側の厚みは約2mmを測り、左下手側の刃部は生きている。使い減りは少ない。	547
5-1		C区	SS8-2 貼床下	粒状滓 (一括)					1	なし	分析資料No.1。分析資料詳細観察表参照。	
5-2		C区	SS8-1	粒状滓 (一括)					1	なし		
6-1		C区	SS8-2 貼床下	鍛造剥片 (一括)					2	なし	分析資料No.2。分析資料詳細観察表参照。	
6-2		C区	SS8-1	鍛造剥片 (一括)					3	なし		
6-3	第61図	C区	SS8-2 貼床	羽口(鍛冶) (先端部)				10	1	なし	細身の羽口の先端部小破片。通風孔部の一部と丸みを持ってなだらかに溶損した肩部が生きており、残る側部3面が破面になる。羽口の先端方向から見て、左下部分の破片と推定される。通風孔部には約2mmの厚みを測る滓が流入しかけている。羽口胎土は細身のスサ入りで被熱は弱い。肩部外面は発泡して薄皮状のガラス質滓に覆われている。復元される羽口形態はやや太めの管状土錘の先端部様か。	
7	第61図 PL.77	C区	SS8-1	金床石 (被熱、打痕付き)	40.9	36.9	21.2	51500	1	なし	平面形が不整形多角形をした、51.5kgを測る大型の金床石。厚みは23cm前後を測る。分厚い転石を用いたもので、上面と肩部のみが金床として使用されている。素材に用いられたのは側部が立ち上がる不整形な礫板状の自然石である。上面は中央部沿いが広く被熱のために赤化しており、上手側中央部と下手側を中心とした肩部周辺に打撃による広いハネが残されている。それ以外の肩部にも打痕らしき傷が飛々に確認される。加えて黒褐色の鍛造剥片の痕跡も点々と確認される。上面右上手側の肩部に残る鍛造剥片は纏まっている。打痕やハネの痕跡からみると鍛造延ばす作業は上面上手側の20cm×10cm程度の範囲が主で、次いで下手側の肩部になっている。またおそらく、下手側の肩部の打痕は金床石の中央部で平直化した折の反り返りを鍛造直す動作によるものであろう。右側部下端の2ヶ所と下面右上手側の2ヶ所に欠けが生じているが、金床石として河床から持ち運んだ過程での欠け跡と考えられる。下面はやや平坦気味で、外周部に沿って黒褐色の着色部が取り巻いている。これが当時の痕跡とすれば、何らかの敷物の上に金床石が置かれていた証拠かもしれない。側部を中心点々と錆色が固着するが、二次的なものであろう。石質はデイサイト。	842
8	第71図 PL.78・79	C区	SS12 埋土	鉄製品(鍛造品) (鎌)	4.4△	1.8	0.4	5	3	錆化(△)	平面形が両先端部の尖った紡錘形となる薄板状の鉄鎌。無茎の柳葉鎌と推定され、表面は茶褐色の酸化物に覆われている。右側部側は錆影れにより肥厚して、右下側は貝殻状の錆影れの破面が生じている。透過X線像によれば、この錆影れに由来する変形が認められる。なお、形態的には鋳切りで成形された弥生時代の鉄鎌の可能性があろう。	1518
9	第71図 巻頭図版4	C区	SS12 埋土	鉄製品(鍛造品) (鎌)	13.3	0.8	0.3	11	2	錆化(△)	5片に割れているものを接合した細身の長頸鎌。先端部は小さな三角形で、基部から先端に向かい徐々に細くなっている。横断面形は長方形の部分と方角きみの部分が共存しており、やや雑な造りとみられる。基部の先端寄りには短く折れて上下方向に重層する。鎌としては典型的な7世紀代の形態を示す。なお、同一袋中には小さな鍛冶滓片が含まれている。	1220
10	第71図 巻頭図版4	C区	SS12	鉄製品(鍛造品) (刀子)	6.8△	1.7	0.4	5	3	錆化(△)	左側の端部と上面表皮部分の一部が破面になった刀子破片。右半分が細くなって収束する形態を示すため基部とみておくが、逆の可能性もあり。中間部分から左半分は錆影れにより中空化しており、左上半部の欠落もこの錆影れ由来であらう。側部分は不明。透過X線像によれば、錆化のため筋状の鍛造痕はほとんど認められない。	1219
11	第71図 巻頭図版4、PL.78	C区	SS12 下層	鉄製品(鍛造品) (刀子)	(7.6)	1.3	0.4	8	2	錆化(△)	前者と同類の小型の刀子破片。切先部分が欠落し、刃部半ばから基部の先端部寄りが遺存する。背側には関が確認され、基部の長さは5.5cm以上と推定される。基部の先端寄りが錆影れにより変形しており、僅かながら木部が認められる。刃部は研ぎ減りにより捲んでいる。透過X線像によれば、筋状の鍛造痕は比較的明瞭。	975

第3章 調査成果

表38 鉄関連遺物観察表(2)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
12	第71図 巻頭 図版4、 PL.78	C区	SS12	鉄製品(鍛造品) (袋状鉄斧または タビ再加工作品)	8.4	4.1	2.4	117	5	特L(☆)	表面がオニイタ状の酸化物に覆われている、ほぼ完形の袋状鉄斧様鉄製品。先端部が徐々に狭まった特異な形態を持ち、櫛の部分は左右からの折り返しにより成形されている。櫛の横断面は長楕円形で、左右の長さは3.4cm前後、厚みは1.6cm前後を測る。深さは4.6cm前後か。肩の部分を中心に貝殻状の錆膨れが生じ、左上の部分では小さく欠落している。透過X線像によれば、先端部から右肩部にかけては錆化が進み、櫛部先端側のメタル部が最も良く残る。なお、形態的には出土例の多い袋状鉄斧とは対照的な形状が異なり、一見、列島の古墳時代相当時期の韓半島の農具である「タビ」の先端部様の外観を示す。あるいは、タビを基にした廃鉄器の再加工作品であろうか。	1183
13	第75図 巻頭 図版4、 PL.78	C区	SS13	鉄製品(鍛造品) (鎌、木部付き)	19.7	2.8	0.4	64	3	錆化(△)	錆化により割れているが、接合して全形に分かる鉄鎌。基部寄りには斜め方向に木部の痕跡が残る。先端部が小さく折り返されている。この折り返し方向は左鎌の方向になるが、実測図上では持っている多様な情報を生かすために右鎌方向としている。研ぎ減りは小さく、先端部に向かい徐々に細くなる素直な形態を示す鎌である。先端部と基部寄りには錆膨れが発達し、大きな中空部も生じている。木部の最大幅は3cm前後を測る。透過X線像によれば、錆化は激しいものの筋状の鍛造痕が広範囲に確認できる。	1196
14	第90図 巻頭 図版4	C区	SA1	鉄製品(鍛造品) (刀子)	6.9△	1.3	0.45	11	2	錆化(△)	3片に割れている小型の刀子破片。刃部から基部にかけての破片で、端部は両側とも破面になっている。表面は厚い酸化物に覆われており、保存処理時にラフに削り出されているが、表面の酸化物が覆っていた酸化土砂の破片が1片残されている。	1713
15	第150図	C区	C区遺構外	腕形鍛冶滓? (含鉄)	6.4	4.3	2.5	110	5	L(●)	分析資料No.3。分析資料詳細観察表参照。	1206
16	第86図	A区	SK11	流動滓(鍛冶系?)	6.9	2.6	1.0	41	1	なし	A地区から検出された小型の不整形ブランクを持つ炭素出土の流動滓破片。扁平棒状の滓で、左右方向とも上手側の側部が小さく欠けている。上面は平滑な流動状で、下面は乱れた庄痕様を示す。滓質は緻密で一部に肥大した気孔あり。A地区の自然河川跡から多量に出土したスマキ造りの板屋型羽口を伴う板屋型腕形鍛冶滓との関連性を疑わせる。	1470
17	第96図 PL.79	A区	NR1-1 b:礫混灰色シルト	炉壁(製錬)	6.8	6.1	1.8	125	4	なし	くすんだ色調を持つ炉壁破片。内面のみ生きており、側部5面と外面が破面になっている。内面は凹凸の激しい浮化状態で、胎土中の多量のスサ痕に由来するものとみられる。スサ痕が目立つことから、中世以前の製錬系の炉壁破片かもしれない。	466他
18	第96図 PL.81	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	炉壁(鍛冶?)	4.3	4.8	2.7	30	1	なし	内面がガラス質で、側部全周が破面になった炉壁小破片。前者と異なり胎土は砂質である。内面には木炭痕と垂れが認められる。胎土の特色から仮に鍛冶系の炉壁とみておく。	328他
19	第96図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	炉壁(鍛冶?)	5.5	8.6	3.7	109	1	なし	前者と基本的には類似する炉壁破片。側部3面が破面になっており、内面が厚く発泡してガラス質の垂れが下方ほど厚くなる。胎土は砂質で、中段の横方向に粘土単位の繋ぎ目が露出する。スマキ造りの板屋型羽口や板屋型腕形鍛冶滓に伴う鍛冶炉の炉壁と推定される。	328他
20	第96図 PL.81	A区	NR1-1 b:礫混灰色シルト	炉壁(鍛冶) (滓付き)	4.3	5.3	1.8	33	1	なし	内面に厚さ1.5cm弱の滓が残されている炉壁破片。側部は全周が破面で、外面は剝離面と破面が混在する。滓部は結晶が発達して風化部分ではキラキラと輝き、部分的に木炭痕由来の中空部が散在する。	466他
21	第96図 PL.81	A区	NR1-1 e:層位不明	炉壁(鍛冶) (滓付き)	8.1	8.5	2.2	164	1	なし	前者を一回り大きくした形の鍛冶炉と推定される炉壁破片。平面形は弧状で、側部はほぼ全周が破面と推定される。全体の9割以上が滓部で、最大厚みは2cm程度を測る。外面には僅かに炉土の剝離面が残る。立ち上がりは急角度を示す。炉壁土部分の被熱は弱く褐色を呈する。内面に分厚い滓部が張り付いた状態の羽口先周縁が本来の位置か。	1832
22	第96図 PL.81 巻頭 図版5	A区	NR1-1 c:黒灰色砂質シルト	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り)	5.2		4.5	148	2	なし	外面に太いスマキ痕の一部を残す板屋型羽口の先端部破片。羽口正面から見て右側部中段の破片で、先端部は平板気味に溶損して表面には薄皮状のガラス質滓が残る。先端部と外面の肩部が生きており、側部2面と体部側が破面になる。径1.9cm以上を測る通風孔部分が中段に残る。胎土はスサ入りで緻密。	326他
23	第96図 巻頭 図版5	A区	NR1-1 c:黒灰色砂質シルト	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り)	5.5		4.5~ 5.0	242	2	なし	体部外面にスマキ痕を残す板屋型羽口の先端部半欠品。羽口正面から見て左側部から頸部にかけての破片である。通風孔部の痕跡を僅かに残す羽口先で、先端部から肩部を経て体部先までが遺存する。肉厚は現状で4.5cm弱を測る。外面はやや黒色ガラス質浮化して垂れも生じ始めている。スマキ痕は幅4~9mm程度を測る。胎土はスサを疎らに混じえる粘土質で密度は高め。なお、外面のスマキ痕の一部が内側に食い込んでおり、構成No.29の板屋型羽口と同様の傾向を示す。	326他
24	第96図 巻頭 図版5	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り)	8.5		5.0	468	2	なし	外面のスマキ痕がやや不定方向を向いている板屋型羽口の先端部破片。羽口正面から見て側部中段から上頸部にかけての破片で、径の3分の1以上が遺存する。通風孔部の径は3cm以上を測り、先端部肩部の半分近くがヒビ割れから欠け落ちたままで使用され続けている。外面のスマキ痕は細い筋状から幅5mm程度までが混在し、方向の異なる部分も認められる。胎土は長めのスサを疎らに混じえた粘土質。なお、外面や胎土中に褐色の砂鉄粒子様の微細な鉱物が目立つ部分もあり。	326他
25	第96図	A区	NR1-1 b:礫混灰色シルト	板屋型羽口?(鍛冶) (先端部、滓付き、 スマキ造り?)	4.5			86	1	なし	滓部分が半分以上を占める羽口の先端部小破片。羽口正面から見て残存部位は頸部の一部とみられる。小破片のためスマキ痕の有無は不明。滓部分は小さな腕形を示し、羽口頸先から約3.5cm程が突出する。下面は腕形で上面は緩やかに窪み、側部には1cm大を超える木炭痕あり。通風孔部壁面は遺存せず。	466他
26	第96図	A区	NR1-1 c:黒灰色砂質シルト	板屋型羽口(鍛冶) (先端部、滓付き、 スマキ造り)	5.1			192	1	なし	分析資料No.4。分析資料詳細観察表参照。	326他

表39 鉄関連遺物観察表(3)

構成番号	挿図PL.	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重(量)(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
27	第96図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶) (先端部、滓付き、スマキ造り)	6.0		4.0	263	2	なし	構成No.25を一回り大きくした形の板屋型羽口の先端部破片。羽口正面から見て右側部下半から頸部にかけての破片で、先端側に凹凸の激しい滓部が塊状に固着する。羽口外面には明瞭なスマキ痕が残る。滓部の表面に木炭痕と推定される凹凸が生じており、頸部先に垂れ落ちる形で遺存する。	328他
28	第96図	A区	NR1-1 e:層位不明	板屋型羽口?(鍛冶) (先端部、ガラス質滓付き、スマキ造り?)	5.4		4.0	114	2	なし	上面に径3cmを測る通風孔部の壁面が確認される羽口先小破片。本体から脱落した状態でガラス質の滓に覆われており、右側部中段には工具痕とみられる窪みが確認される。羽口側の通風孔部壁面にもヒビ割れが走っており、脱落原因を物語る。小片とガラス質の影響によりスマキ痕の有無は不明。	1832
29	第96図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶) (先端部、工具痕付き、スマキ造り)	7.5		7.0	658	2	なし	スマキ痕が残り、滓部が広範囲に確認される板屋型羽口の先端部破片。羽口部位は右側部下半から頸部にかけての破片で、体部側が大破面になっている。通風孔部の径は2.6cm以上を測る。外面のスマキ痕は幅がまちまちで、一部広めの部分が認められる。最大幅は1.4cmにも達する。スマキ痕の重層部分も確認され、外面から5mm程内側に径3mm程度の細身部分があり。その外周部のスマキ痕が全体に太めとなっている。滓部は頸部側に広範囲で最大厚みは、4.5cmを超える部分もあり。下面は左右方向に向かう幅広い舟底状で、炉床土が点々と固着する。羽口頸部を突き崩す形で深い工具痕が残されており、片側は滓部を変形させている。断面形は深さ2cm以上のV字状を示す。	328他
30	第97図	A区	NR1-1 e:層位不明	板屋型羽口(鍛冶) (先端部、椀形滓付き、スマキ造り)	14.9	9.6	11.0	1248	3	なし	前者と基本的には同類の、滓部の広い板屋型羽口の先端部破片。羽口部位は左側部下半から頸部にかけての破片で、滓部は椀形鍛冶滓の様な外観を示す。通風孔部壁面は欠落し、頸部が完全に滓に埋もれている。微かに羽口外周部と滓の境部分にスマキ痕とみられる窪みが確認される。滓部は頸部から垂れる形で、径12cm程度の広がりを持ち、上面や肩部の一部が欠けている。側部から下面は部分的に面をなす椀形で、左半分が炉床土の剥離面と推定される。残る側面は粉炭に接しているためか、不規則な凹凸に覆われている。羽口胎土は長めのスサを疎らに混入している。また、胎土のヒビ割れも部分的に発達する。	1832
31	第97図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型椀形鍛冶滓 (特大、流出孔滓付き)	13.5	16.5	6.5	1408	2	なし	1.4kg大と小形ながらも板屋型の特色を持った椀形鍛冶滓。平面形は不整形で、左右の側部が炉壁土により堰き止められている。また、下手側の側部上半も同様で灰褐色に被熱した炉壁土の一部が固着する。下手側の下半部は木炭痕が目立つ滓の突出部で流出孔滓になりかけか。滓本体の上面は緩やかな波状で、全体的には平坦気味。表面には中小の気孔や不規則な木炭痕が混在する。側部から下面は緩やかな椀形で、表面全体に薄皮状の炉床土が張り付いている。色調は灰色から灰褐色。滓質は内部に中小の気孔を残しながらも比較的緻密。上面中央部が短軸方向に向かい種状に凹んでいるのは、工具痕を反映する可能性もあり。	328他
32	第97図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型椀形鍛冶滓 (特大、流出孔滓付き)	21.7	23.7	9.7	3704	2	なし	分析資料No.5。分析資料詳細観察表参照。	328他
33	第97図 PL.81	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型椀形鍛冶滓 (特大、工具痕付き)	18.8	24.7	12.6	7000	2	なし	左側の肩部が半周する形で破面になっている7kg大の板屋型椀形鍛冶滓。全体形状は左右方向に長手の椀形で、上面中央部から短軸方向に向かう幅3.5cm以上の工具痕様の窪みが残されている。右半分の上から肩部は生きており、なだらかに外側に傾斜する形の形態を示す。側部から下面はやや異形の椀形で、左寄りの底面が段をなして突出する。一種の重層痕であろう。表面には灰褐色基調の炉床土が面的に固着する。なお、短軸方向の両側部に斜め上方から差し込まれた工具痕由来の流入滓と推定される突出部が確認される。滓質は緻密で、破面の気孔も外周部を除いて少なめとみられる。	328他
34	第97図 PL.81	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	椀形鍛冶滓 (特大、工具痕付き)	16.4	13.6	7.3	1602	4	なし	左上側部の側部が主破面になった1.6kg大の椀形鍛冶滓破片。左下手側や右上側部の肩部に小破面あり。上面は中央部側が2cm程盛り上がった形で肩部寄りには低くなっている。下手側の側部中段には径1.7cm大の丸棒状の工具痕が突き刺したような形で残されている。側部は立ち上がり急角度で、下面は破面が混在するためやや平坦気味となる。滓質にはばらつきを持ちながらも全体的に緻密。	328他
35	第98図 PL.81	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型椀形鍛冶滓 (特大)	32.3	27.0	18.7	13370	1	なし	下手側半分の肩部から下面にかけてが大破面になる、13kg大の特大の板屋型椀形鍛冶滓。平面形は不整形ハート形で、左右上手側の肩部は生きている。上面は凹凸を持ちながらも全体的には平坦気味。外周部は肩部沿いがやや盛り上がり、内側が一段低くなる傾向を示す。上手側半分の側部から底面にかけては傾斜の強い椀形の一部をなす形で、表面には灰褐色基調の炉床土の固着や圧痕の範囲が広がっている。下手側側部の破面からみると下半部の滓質は緻密で、上半部では細かい木炭の噛み込みが目立つ状態を示す。この滓質の違いのために割れが生じている可能性が高い。なお、左右の側部下手側は炉床土が狭まっているためか、滓が立ち上がり気味になる。	328他
36	第98図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	椀形鍛冶滓 (特大?)	13.1	15.3	8.9	2288	1	なし	短軸部の両側部と右側部が直線状の大破面になった、2kg大の椀形鍛冶滓破片。中核部から左側の肩部にかけての破片で、上面下手側は大きく窪んでいる。滓質は緻密で最大厚み8cmを測る。側部から下面は丸みを持って立ち上がる椀形で、下面の中央部寄りには浅い舟底状を示す。表面にはスサ入りの炉床土が面をなして張り付いており、羽口胎土とやや似た炉壁土を用いていることが分かる。	328他
37	第98図	A区	NR1-1 c:黒灰色砂質シルト	椀形鍛冶滓 (特大、重層)	13.8	13.8	6.8	1180	3	なし	右寄りの肩部2ヶ所が破面になった1.1kg大の椀形鍛冶滓。肩部寄りの外周部が段をなす形で窪んでおり、重層気味である。上面はほぼ平坦で、僅かに木炭痕が認められる。側部から下面は1.3cm大の以下の木炭の噛み込みや木炭痕に覆われており、椀形の形状がやや乱れている。底面寄りには皿状で、側部の立ち上がりが急角度となる。破面には重層を反映した滓の境目が露出する。滓質はやや密度が低め。	326他

第3章 調査成果

表40 鉄関連遺物観察表(4)

構成番号	挿図 PL.	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重 量 (g)	磁着度	メタル度	備 考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
38	第98図 PL.81	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型腕形鍛冶滓 (特大、重層)	27.3	27.1	16.4	9940	2	なし	側部中段に明瞭な段を残す、重層した特大の板屋型腕形鍛冶滓。重量は10kg弱を測る。下半の滓は厚さ6cm程度で重量的にも小振りと推定される。側部から下面は浅い腕形で部分的に灰褐色基調の炉床土が残されている。破面は上手側の肩部2方が主体で、下手側の肩部にも小破面が巡る。上面は部分的に木炭痕による凹凸が目立っているが、全体的には平坦気味と推定される。上半の滓は平面形が幅広いハート形の一部をなすような形になる。下手側の側部上半に緻密な滓の突出部に由来する破面が残る以外ほぼ完形近い。この太い棒状の突出部は流出孔滓の基部の可能性を持つ。ハート形の滓上面は木炭痕による凹凸を生じながらも平坦化気味。上面の中央部沿いには1、2cm大の小塊状の滓が点々と乗っており、酸化土砂も部分的に目立っている。この小塊状の部分は磁着も強めて、原料鉄由来の可能性もあり。側部から底面は右半分が残り良く、立ち上がりの急な左右方向に長手の腕形を示す。表面には炉床土の痕跡も点々と残る。左半分は表層が脱落して内側の木炭痕が目立つ密度の低い滓が露出する。このために大きな意味では側部が破面になっているともいえる。下端の腕形鍛冶滓片は前換業時のものか。	328他
39	第98図 PL.81	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	板屋型腕形鍛冶滓 (特大、含鉄)	27.0	32.85	12.0	11538	3	H(○)	平面形が不整ハート形を示す、11kg強を測る特大の板屋型腕形鍛冶滓。ほぼ完形品で、下手側の肩部直下にすれ落ちたような滓片が残されている。左上側の肩部並びに左下手側の肩部に小破面あり。上面は肩部から中央部に向かって全較に窪んでおり、左右2単位または3単位の窪みが連続したような形態を示す。この上手側左右2ヶ所の窪みの表面には2cm大以下の木炭痕や木炭片の噛み込みが生じている。羽口先で生成された滓上面が窪み形の腕形滓が生ずることが知られているが、こうした形が2本羽口によるものか、滓内部のガス抜け由来の形態なのかを迷わせる資料である。側部から下面は深い腕形で、底面の中央部にも別単位の滓の巻き込みが確認される。下面には灰褐色基調の炉床土が広範囲に固着する。含鉄部は上面中央寄りのやや小高くなっている部分か。	328他
40	第98図	A区	NR1-1 e:層位不明	土器 (鍛冶滓付き)	3.4	3.2	1.8	14	1	なし	厚さ8mm程の土器片に滓が固着した資料である。土器片は内面のみにナデ痕が確認され、外面は荒れてしまっている。滓部は厚さ1.5cm程の腕形鍛冶滓の一部をなすような外観を示し、左側部がシャープな破面になる。上手側の肩部も破面の可能性大。鍛冶滓底に転落した土器片に滓が付着した資料であろう。	1832
41	第98図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系)	8.5	4.0	3.5	139	1	なし	左右の側部が破面になった、径3cm大前後のやや扁平棒状をした流出孔滓破片。表皮の脱落した上面には気孔が目立ち、下手側の側部には炉床土の一部と考えられる灰褐色土が僅かに固着する。破面の気孔は少なめながら、流出孔中で滓内部のガスが上部に抜けた状態と考えられる。	328他
42	第98図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系)	11.5	5.3	5.0	303	1	なし	前者と連続したような形の右方向に向かい幅を広げている流出孔滓破片。左側部中央付近が小破面になっており、丸棒状の縦断面形から右側の端部に向かうにつれて別単位の滓片が肩部に乗ったような形態を示す。流出孔の出口付近で工具による操作が行われているためか、滓全体に中小気孔が散っている。	328他
43	第98図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系)	7.3	10.8	6.9	686	2	なし	左側部全体と右側部下半の2ヶ所が破面になった流出孔滓、または流出溝滓破片。主体は上手側半分で、下手側の滓は巻き込まれた別単位の流出孔滓破片と推定される。上面は前後の滓が合体して浅い桶状に流動する。	328他
44	第98図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系)	13.1	6.9	5.0	679	2	なし	径5.5cm大の丸棒状をした流出孔滓の先端部破片。左側部の下半寄りがシャープな破面で、右半分は上面が扁平化しながら流動状態となる。流出孔の出口から顔を出した状態で滓が固化している可能性大。下面は綺麗な舟底状から右側に向かって平底気味に変化している。滓質は緻密で外周部のみやや気孔が目立つ。	328他
45	第98図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系)	15.6	6.9	5.0	566	3	なし	やや扁平化した流出孔滓破片。左側部と下手側の側部左寄りが破面になっており、右側の端部は徐々に窄まった形で収束する。上面左側の2ヶ所が窪んでいるが、内部のガス抜けによる陥没痕であろう。側部から下面はやや乱れた舟底状で、炉床土が面的に固着する。	328他
46	第98図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系、含鉄、工具痕付き)	12.4	6.1	6.2	422	3	H(○)	上手側の側部上半に径1cm大前後の丸棒状の工具痕を残す流出孔滓破片。左側部から短軸側の側部が広い破面になっており、右側部は滓が突き崩されて、斜め下方に折れ曲がった状態を示す。滓質は気孔を残しながら比較的緻密。流出孔中で固化した滓を取り除く過程での変形であろう。	328他
47	第99図	A区	NR1-1 c:黒灰色砂質シルト	流出孔滓(鍛冶系、含鉄)	6.1	4.0	2.3	53	4	H(○)	扁平棒状の形態をした含鉄の流出孔滓小破片。表面全体が酸化土砂に覆われており、やや分りにくい外観を示す。左右の側部が破面と推定され、短軸側の側部から下面は浅い舟底状になる。上手側の側部寄りに含鉄部が推定され黒錆が滲んでいる。	326他
48	第99図	A区	NR1-1 c:黒灰色砂質シルト	流出孔滓(鍛冶系、含鉄)	5.6	4.0	4.0	83	4	H(○)	左側部から下手側の側部がシャープな破面になった含鉄の流出孔滓小破片。やや扁平な丸棒状の縦断面形を持ち、破面には結晶の発達した滓部が露出する。含鉄部は左上側肩部の小範囲で黒錆が吹く。下面は浅い舟底状を示す。	326他
49	第99図 PL.82	A区	NR1-1 b:礫混灰色シルト	流出孔滓(鍛冶系、含鉄)	6.7	5.7	3.5	141	5	H(○)	左右の側部2面と下手側の側部下半に加えて下面全体が広い破面になった流出孔滓、または炉内滓棒破片。やや扁平で、上面から上手側の側部は半流動状の滓部に覆われる。表面や内部に木炭痕の可能性が強い1cm大以下の窪みも確認される。含鉄部は小高くなった上面表皮寄り。やや炉内滓的な要素が強いかもしれない。	466他
50	第99図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓?(鍛冶系、黒鉛化木炭付き、含鉄)	6.1	4.0	1.8	30	3	H(○)	上面に複数の段をなす形で黒鉛化木炭の痕跡を残す流出孔滓、または炉内滓小破片。側部から下面は浅い舟底状で炉床土の痕跡が残っている。下面の形状から流出孔滓としているが、滓質は流動性が低く炉内滓的な要素が強い。含鉄部は黒鉛化木炭の部分。	328他

表41 鉄関連遺物観察表(5)

構成番号	挿図 PL.	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重 量 (g)	磁着度	メタル度	備 考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
51	第99図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系、工具痕付き)	7.3	8.3	5.8	363	1	なし	左側部下半から短軸側の側面が破面になった流出孔滓の先端部破片。全体に扁平化して、右側のなだらかに傾斜した肩部に別単位の半流動状の滓部が乗っている。下手側の肩部2ヶ所に工具痕あり。下面は幅広い舟底状で炉床土が面的に固着する。滓質は緻密。	328他
52	第99図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系、工具痕流入滓付き)	12.4	9.2	4.9	671	2	なし	左側部と下手側の側面が破面になった流出孔滓の先端部寄り破片。上面の中央部が左右方向に伸びる種状に窪み、右側の肩部は斜め下方に向かい収束する。下面は乱れた舟底状で、工具痕様の窪みと工具痕流入滓が共存する。流出孔中で詰まってしまった滓を取り除く折りの痕跡と判断される。滓質は部位により状態が異なる。	328他
53	第99図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔～溝滓(鍛冶系)	15.5	9.9	7.2	1352	2	なし	分析資料No.6。 分析資料詳細観察表参照。	328他
54	第99図 PL.82	A区	NR1-1 c:黒灰色砂質シルト	流出孔～溝滓(鍛冶系、工具痕流入滓付き)	13.1	10.1	7.6	1007	2	なし	左側部が破面になった流出孔から流出溝にかけての滓破片。左側部寄りが径6cm強を測る不整丸棒状になっており、中間部分では上部が斜め短軸方向に大きく広がっている。右半分は上面が扁平な流動状で、流出溝滓側に顔を出している。側部から下面は深い舟底状で、右側の端部が軸先状に迫り上がる。下面の一部が突出し、別単位の滓または工具痕流入滓の一種ともみられる。なお、滓の流動方向と中間部上半の広がり部分の方向が一致せず、炉体に対して流出孔の方向が異なっている可能性もあろう。	326他
55	第99図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔～溝滓(鍛冶系、工具痕流入滓付き)	21.7	13.2	8.9	2326	2	なし	左半分が上下2段に重層した流出孔から流出溝にかけての滓破片。左側部が上下2段とも径4cm程度の棒状を示すのに対して、右半分では2本が一体化して深いU字形の形態になっている。そのため左側が流出孔中で生成され、右側は流出溝側に露出する可能性があるものとみておきたい。なお、下面の中央部は角度の異なる突出状態を示し、流出孔底が工具により掘り上げられている疑いを持つ。左右方向が逆の可能性もややあり。	328他
56	第99図 PL.82	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出溝滓(鍛冶系)	13.9	8.8	6.4	736	2	なし	左側部中段から短軸側の側面が破面になった流出溝滓破片。幅8cm程度の扁平棒状で、下面はやや乱れた舟底状。右側の3分の1の部分には棒状の流出孔滓破片を巻き込んでいる。上面には気孔や木炭痕が目立ち、側部から下面は褐色基調の炉壁粉に覆われる。	328他
57	第99図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	流出孔滓?(鍛冶系?、工具痕付き、含鉄)	9.8	8.8	5.4	419	3	錆化(△)	左側部が複数の小破面になった流出孔滓、または流出溝滓破片。上面には右方向に流動する滓単位が確認され、右側部は収束気味となる。下面の中央部には工具痕が確認され、右側部下半も工具痕様に窪んでいる。下面の中央部寄りに炉壁土由来のガラス質滓が顔を出しており、周辺には小単位の流動滓が折り重なった形で確認される。この部分を重視すれば炉内滓的な要素が強いかもしれない。含鉄部は下面中央部の表皮扱い。	328他
58	第99図	A区	NR1-1 d:黄褐色砂礫	再結合滓	18.4	10.95	4.6	807	1	なし	厚さ4.5cm程の厚板状の外観を持つ再結合滓破片。側部は全局が破面で、上下面とも平坦気味となる。ただし、下面の右側はやや皿状に傾斜する。これは浅い皿状の窪み部分で生成されたためであろう。再結合滓を構成するのは1.5cm以下の滓片や炉壁片に加えて、様々なサイズの木炭や黒鉛化木炭片などである。上面の中央部には部分的に鉛色の光沢を持った木炭が顔を出している。また、その右側に3cm程離れて径7mm大の炭素量の高い球状の鉄塊が顔を出している。再結合滓の平面形が破面に囲まれているものの半円形に近く、生成位置が何らかの丸みを持った窪みであることを反映している可能性もあり。例えば水桶や金床石の周辺部などが想定される。	328他
59	第99図	A区	NR1-1 e:層位不明	再結合滓(含鉄)	24.3	14.4	12.3	1130	4	H(○)	分析資料No.7。 分析資料詳細観察表参照。	1832
60	第100図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(製錬炉?、補修)	6.6	6.8	1.7	75	1	なし	分析資料No.8。 分析資料詳細観察表参照。	295他
61	第100図 PL.79	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(製錬炉?)	4.2	3.6	1.2	20	1	なし	側部から外面全体が破面になっている炉壁破片。胎土中のスサ痕が目立つことから製錬炉の炉壁片かとしているが、羽口先の小破片の可能性も残る。表面は薄皮状に滓化して溶損や垂れが混在する。胎土は褐色気味に被熱しており、紛らわしい資料である。小片のため性格を断定しにくい。炉壁かとしているのは構成されたスマキ痕を持つ他の羽口とは胎土の被熱状態が異なるという理由による。	295他
62	第100図 PL.79	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(製錬炉?)	7.0	7.2	1.4	116	1	なし	側部5面と外面全体が破面になった炉壁破片。内面が強く滓化・溶損して表面から最大2cm程度の厚み部分が硬化している。外面の破面にはスサ痕が目立ち、被熱色は前者と似た褐色基調である。破面の一部が水流のためか擦れているようにも見える。内面の滓化した色調は青光りからくすんだ暗紫紅色で、還元性の雰囲気を持っている。その意味で製錬炉に伴うものとみておきたい。検出された自然河川の上流部に中世以前の製鉄炉が存在したことを疑わせる資料である。但し、出土量は少ない。	295他
63	第100図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(鍛冶?)	7.6	5.7	2.0	100	2	なし	前者と基本的には類似する、内面全体の滓化が進んだ炉壁破片。側部の大半と外面が破面になる。但し、右側部中段にスマキ痕様の細い筋目が少なくとも4条以上確認され、この部分が羽口体部外面のスマキ痕の可能性も残ることから遺物の性格を「鍛冶?」としている。但し、炉壁土中のスサの密集部分が転写された可能性も否定できない。炉壁内面の滓化部分はくすんだ黒褐色で、浅く窪む部分は部分的に紫紅色気味を示す。何れにしても紛らわしい資料である。	295他
64	第100図 PL.79	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(製錬炉?、滓付き)	8.8	7.3	3.2	235	1	なし	内面が分厚い滓に覆われた炉壁破片。側部から外面は連続的な破面になっており、外面左側は灰白色のざらついた炉壁土が顔を出す。内面の滓化が強いことから製錬炉の炉壁かとしているが、鍛冶炉に関わる資料を否定するほどの証拠はない。炉壁土部分の被熱色は灰褐色で、スサ痕は認められないことはいえる。	295他

第3章 調査成果

表42 鉄関連遺物観察表(6)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
65	第100図 PL.79	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(製錬炉?、マグネタイト系滓付き)	3.4	3.4	2.4	28	3	なし	内面に2cm程の厚みを持つ滓部が確認される炉壁小破片。雰囲気は構成No61~62に似ており、右寄りの側面には褐色基調の炉壁土が顔を出す。残る側部から外面は破面。弱いながらも磁着傾向があり、部分的に青光りするマグネタイト気味の滓部ではある。	295他
66	第100図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	椀形鍛冶滓?(含鉄)	11.5	9.6	6.2	599	5	H(○)	表面の半分以上が酸化土砂に覆われた滓資料。上面は平坦気味で右上手側の肩部は一見、収束気味。下半部の酸化土砂の固着していない部分ではシャープな破面が露出する。現状で側部から下面の7割以上が緻密な滓部の破面になっている。気孔が少なめで結晶が発達していることから炉底塊かとしているが、上面観は本遺跡に数多くみられる特大の椀形鍛冶滓にも似ており、判断の難しい資料である。肩部の破面はやや錆色で弱い磁着傾向を持つ。また、上面表皮沿いにも磁着部分あり。	295他
67	第100図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型椀形鍛冶滓?(特大)	34.3	25.6	17.7	14540	1	なし	分析資料No.9。分析資料詳細観察表参照。	295他
68	第100図 PL.80・81	A区	NR1-2 b:礫混灰色シルト	板屋型椀形鍛冶滓?(流出孔滓付き、含鉄)	31.3	36.0	22.9	25000	2	H(○)	1個体が25kg以上を測る大型の滓資料。左下手側の側部が2段になった大破面で、滓全体の平面形は不整形ハート形となる。下手側上半に突出する破面は径15cm近い太い棒状で、製錬系の炉底塊端部から突出する流出孔滓に類似することから炉底塊様ながら、平・断面形的には異形である。特に注目されるのは平面形がハート形になる点と断面形が20cmを超える分厚い椀形になっているという点である。また、側部の下手側は急角度で立ち上がり、表面には明らかに灰黒色のザラザラした炉壁が固着している点も炉底塊としては異形である。全体的な特色は本遺跡で多数を占める巨大な椀形鍛冶滓的な要素も強い。上面は左右の上手側が半円形に張り出して、中央部が径15cm程度の範囲で窪んでいる。また、この窪みの底面は5単位程度の別単位の窪みが連続した形となる。これに加えて上手側の中央部が緩やかに窪む形の平面形で、よりハート形を強調している。一見東日本の古代の製錬炉で生成される炉底塊の小型版に類似する。破面の滓質は古代から中世を経て近世の製錬系の炉底塊の破面にも似て気孔の極めて少ない結晶の発達した滓部からなっている。平・断面形を主体に見れば、特異な椀形鍛冶滓といえ、滓質が下手側に突出する流出孔滓という要素からみれば炉底塊的である。なお、上面中央部の複数の窪みは滓内部のガス抜けによる陥没由来という可能性と、炉底塊や特大の椀形鍛冶滓上面に残される太い丸棒状の工具による圧痕由来の可能性等が推定される。	250他
69	第101図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(鍛冶)	7.5	5.7	2.8	71	1	なし	内面が厚く滓化して捻んだ形の炉壁破片。側面には小破面が巡り、外面全体がざらついた胎土が露出した破面になっている。内面の滓化部分は粘土質で、部分的に黒色ガラス質を示す。中空部も1.5cm大以下の木炭痕も散在する。上下方向で強く弧状を示す断面形を持っている。	295他
70	第101図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(鍛冶)	8.5	9.5	3.7	159	1	なし	前者と基本的には同類の炉壁破片。側部から外面は破面になっており、外面にはやや砂質の胎土が露出する。内面は黒色ガラス化気味で、流動状態は弱い。左上の部分には緻密な滓が瘤状に突出する。上下方向で緩やかに弧状に折れ曲がる。	295他
71	第101図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	炉壁(鍛冶)	5.1	5.3	2.8	68	1	なし	側部4面が破面になった炉壁小破片。内面下半は滓部が厚く2cm以上に達する。滓質は気孔や微細な木炭痕によりやや密度が低い。外面は浅い舟底状の破面で、灰褐色の炉壁土が薄皮状に残る。	295他
72	第101図 巻頭図版5	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	板屋型羽口(鍛冶)(先端部~体部、スマキ造り)	7.5		3.6	71	1	なし	外面にスマキ痕を残す羽口先端部寄り破片。羽口正面から見て、左側側部の破片で先端から体部に至る破片である。通風孔部は僅かに遺存し、肉厚は2.6cm程度を測る。先端から肩部にかけては斜めに溶損して部分的に黒色ガラス化を示す。スマキ痕は幅3~6mm程度のばらつきを持つ。胎土はスサ入りで緻密。	244他
73	第101図 巻頭図版5	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	板屋型羽口(鍛冶)(先端部~体部、スマキ造り)	4.9		3.6	125	1	なし	先端部が平坦気味の特異な外観を示す板屋型羽口破片。羽口正面から見て左側側部中段から頸部にかけての破片で、長さは最大3.8cm程度が遺存する。通風孔部の径は3.7cm以上で肉厚は3.5cm程度を測る。外面にはスマキ痕が連続的に残り、一部の方向が異なっている。先端部が平坦な形状は使用の程度が甘いため、表面の黒色ガラス質滓化も始まった程度と見られる。胎土はスサを疎らに混じえるが緻密で、ヒビ割れも発達する。	244他
74	第101図 巻頭図版5	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶)(先端部~体部、スマキ造り)	8.0		3.0	239	1	なし	先端部に滓部が形成されている板屋型羽口破片。正面から見て頸部側の破片で、上面には径2.7cm以上の通風孔部が残る。肉厚は最大3.1cm程度外面のスマキ痕は重層しており、主体は外周部から5mm程度内側に並ぶ状態を示す。また、羽口先端部寄りのスマキ痕先端は貫通しておらず胎土中で収束するものが多い。本例のようなスマキ痕が外周部沿いで重層する個体が本遺跡では散見される。スマキ痕が最終的な外面成形だけでなく、スマキを施した上で外周部に薄皮状の粘土層を塗り重ねて外側にもスマキを施した製作技法の存在が伺える。胎土はスサ入りで緻密。	295他
75	第101図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶)(先端部~体部、スマキ造り)	5.0		4.3	216	1	なし	先端部から3.5cm程の長さ部分が残る板屋型羽口破片。羽口正面から見て右側側部から頸部にかけての破片で、上方と下方で肉厚が極端に異なっている。頸部寄りでは3.5cm、側部上半では6.7cmという具合に差があり、通風孔部が下頸部寄りへ貫通している可能性があろう。通風孔部の径は約3cmを測る。先端部は粘土質溶解物の垂れや木炭痕らしき窪みが混在して下部が状のように溶損する。肩部は急角度で傾斜して、微かに体部側のスマキ痕の残る部分に移る。側部2面と体部側は大破面。左上の端部が直線状に途切れており、縦断面形が円形でなかった可能性が強い。	295他

表43 鉄関連遺物観察表(7)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
76	第101図	A区	NR1-2 b: 礫混灰色シルト	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り)	6.7		4.8	300	2	なし	先端部から肩部にかけてが黒色ガラス質の粘土質溶解物に覆われた板屋型羽口破片。羽口部位は正面からみて上顎から右側部下半にかけての破片である。内面には径2.9cm以上の通風孔部が残り、体部側は破面になっている。前者と同様、上下で肉厚が異なり、下方では3.5cm前後、斜め上方では4.5cmを超える。傾斜した肩部から体部にかけてもガラス質に覆われ、スマキ痕らしい筋状の窪みが滓表面に浮き出ている。胎土はスサ入りで緻密。	250他
77	第101図 巻頭図 版5	A区	NR1-2 b: 礫混灰色シルト	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り)	7.5		4.5	296	1	なし	肩部が綺麗に溶損して通風孔部沿いの壁面が突出した形で残る板屋型羽口の先端部破片。羽口正面から見て右側部下半から顎部にかけての破片である。通風孔部の径は2.7cm以上を測り、肉厚が上下でかなり異なっている。通風孔部の横方向では3.3cmの肉厚で、顎部では5.3cmと2cmもの差を持っている。顎部には滓が塊状に残り、体部側の破面に微かにスマキ痕が確認される。胎土は疎らにスサを混じえ硬質。	250他
78	第101図	A区	NR1-2 d: 黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り)	6.9		5.0	318	1	なし	分析資料No10。 分析資料詳細観察表参照。	295他
79	第101図 巻頭図 版5、 PL.80	A区	NR1-2 d: 黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り、工具 痕付き)	11.6	外径 11.0 内径 3.1	3.5	976	2	なし	全周が確認される本遺跡では唯一の板屋型羽口の先端部破片。体部側端部は大破面になっている。左右方向が押し潰されたような外形を持ち、上下に長い外観を示す。先端部は強い溶損角度を示し、全体が粘土質由来の黒色ガラス質溶化している。体部外面にはほぼ全周にわたりスマキ痕が確認される。スマキ痕の径は3mm大から9mm大前後とばらつきを持つ。通風孔部の径は現状で上下方向が3.3cmを測り、左右方向は3cmである。肩部から体部にかけての溶化状態が乱れており、複数の回転による装着替えが行われている可能性が高い。肉厚にはばらつきがあり、3.4cm~6.5cmの幅を持つ。但し、体部側の破面では綺麗な正円の通風孔部断面が露出して径は3cmを測る。胎土は疎らにスサを混じえる緻密な粘土質。また、径2cm大の発泡した滓片も含まれている。	295他
80	第101図 巻頭図 版5	A区	NR1-2 a: 灰褐色土・表土	板屋型羽口(鍛冶) (体部、スマキ造り)	6.8		4.6	189	1	なし	破面に囲まれた板屋型羽口の体部破片。外面には太いスマキ痕がやや間隔を置いて残されている。また、羽口先端部寄りの破片のためか、外面の7割方が薄皮状のガラス質滓と黒褐色の被熱色に覆われる。通風孔部の壁面も一部に残り、肉厚は4.8cmを測る。胎土中にはスサと径1.7cm大前後の滓片を含んでいる。体部外面のヒビ割れも目立つ。	244他
81	第101図	A区	NR1-2 d: 黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶) (基部、スマキ造り)	5.95		5.3	155	1	なし	外面にスマキ痕が確認される板屋型羽口の体部破片。肉厚は4.9cm程度を測り、内外面を除き側部全周が破面になる。外面の色調が白っぽく羽口体部でもやや基部寄りの可能性あり。胎土は疎らなスサ入りで、前者と同様、黒色ガラス質の滓片も含まれている。	295他
82	第101図 巻頭図 版5	A区	NR1-2 d: 黄褐色砂礫	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り、滓付 き)	8.5		5.5	407	2	なし	先端部から滓部が壁状に突出した板屋型羽口破片。羽口正面から見て左側部下半から顎部にかけての破片で、突出した滓部は顎部からの垂れの一つと推定される。内面には通風孔部が残り径2.7cm以上を測る。肉厚は5.3cm前後となる。外面にはスマキ痕が連続し、下部では滓層に覆われている。胎土は僅かにスサ入りで微細なヒビ割れが目立つ。	295他
83	第103図	A区	NR1-2 b: 礫混灰色シルト	板屋型羽口(鍛冶) (先端部、スマキ 造り、滓付き)	6.6		5.5	250	1	なし	厚い滓部が形成されたよる板屋型羽口の顎部破片。滓部分が8割方を占めており、羽口の先端部は上面に薄皮状に残されているのみである。また、羽口自体が大きく3片にヒビ割れて滓と接する形になる。滓部は手前側に径2.8cm程度の丸棒状の工具痕が残り、奥側ではやや気孔の発達した破面が露出する。滓表面は半流動状で、下部が何かに接したように斜めの直線状に途切れている。傾斜角が強いいため炉壁部分と接していた可能性大。羽口側は肩部が壁状に残るのみで、ほぼ全面が破面となる。体部側の破面にはスマキ痕が点々と確認される、一ヶ所では羽口がヒビ割れてスマキ痕に流入した細身の流動単位が顔を出している。	250他
84	第103図	A区	NR1-2 a: 灰褐色土・表土	羽口(鍛冶) (先端部、滓付き)	8.3		8.0	763	1	なし	顎部に肥大した滓部が形成された羽口の先端部破片。羽口部分は上面の中央部に残るのみで、全体の9割以上が滓部になっている。但し、碗形鍛冶滓ではなく顎部下の垂れが肥大した状態を示す。破面は羽口体部から滓部上半にかけての部分で、下手側の側部にも伸びている。羽口先が顎部で生長した滓中にほとんど潜った状態で、通風孔部の径は3.3cmを測る。羽口は肩部のためか肉厚が最大でも2cm程度と薄く、羽口先の滓部上面は半流動状で、右下に向かい複雑な桶状に傾斜する。滓部の最大厚みは6.5cmを超え、右下の部分では急激に途切れて、木炭痕や短い垂れが散在する自然面となる。また、下面は碗形の側部をなすような傾斜面で、床土の剝離面とみられる。滓質は緻密ながら部位により気孔状態は差が激しい。	244他
85	第103図	A区	NR1-2 d: 黄褐色砂礫	碗形鍛冶滓 (特大)	18.5	12.8	4.9	1158	2	なし	分析資料No11。 分析資料詳細観察表参照。	250他
86	第103図	A区	NR1-2 d: 黄褐色砂礫	板屋型碗形鍛冶滓 (特大、流出孔滓 付き、工具痕付 き)	14.3	17.0	9.5	2578	2	なし	右上の肩部2面と右側部中段がシャープな破面になった板屋型碗形鍛冶滓。通常の碗形鍛冶滓の側部側破面のような外観を示しながらも上面の7割方と下手側の側部が生きている。上手側の外面は立ち上がり強い碗形で、下手側の側部下端からは径4cm大前後の径を持つ流出孔滓が伸び始めている。上面はやや凹凸が目立つ平坦気味の面で、斜め上方の2方向から工具痕が確認される。また、もう一ヶ所、下手側側部中段の自然面にも工具痕らしき窪みが確認される。滓質は緻密で気孔は表面沿いの一部のみ。本例のような碗形鍛冶滓の側部片のような外観を持ちながらも、下端または一方の側部から流出孔滓が伸びる形態はいわゆる碗形鍛冶滓や炉底塊とも異なった形態を示すため「板屋型碗形鍛冶滓」と仮称しないと理解や説明が難しい資料群である。	250他

第3章 調査成果

表44 鉄関連遺物観察表(8)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
87	第103図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型腕形鍛冶滓 (特大、流出孔滓付き、工具痕付き)	9.4	14.9	12.1	1641	2	なし	前者と同様、小振りの板屋型腕形鍛冶滓。下手側の側部上半は破面で、下端部からは径4.5cm程度の太さの流出孔滓が短く伸びている。流出孔滓の端部も破面。上面は中央部に向かい大きく窪み、やや右寄りでは幅3.5cm以上の太い棒状の工具痕が2単位確認される。上手側の外面は急角度で立ち上がる剥離面で、炉床土に接していた可能性が高い。滓質には粗密があり、滓の陥没や流動のためか変形気味。生きている面で見ると平面形は楕円形で、上下に長い特徴的な滓になっている。	250他
88	第103図 PL.81	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	板屋型腕形鍛冶滓 (特大、流出孔滓付き)	26.2	33.1	14.6	8980	2	なし	9kg近い重量を持つほぼ完形の典型的な板屋型腕形鍛冶滓。平面形は左下手側が乱れた不整ハート形で、断面形は側部で立ち上がる急な深い腕形を示す。表面は黄褐色から茶褐色の酸化土砂に覆われて分がりにくくなっている。上面は平坦気味で中央部寄りが径20cm近い範囲で不整形に窪んでおり、表面には小塊状の突出部や炉床土の破片などが点々と固着する。左右上手側の肩部は耳状に突出し、左側の上面は流動状の滓部に覆われている。右側では表面が脱落しているためか、微細な凹凸や木炭痕が露出する。下手側の側部上半には左右2単位以上の流出孔滓の基部とみられる棒状の突出部が確認される。右側の突出部は径が4.5cm程度の丸棒状で、左側の突出部は酸化土砂に覆われて不明瞭である。下面側からみると滓全体は深い腕形になる。上面中央部の窪みは羽口先の火球範囲を反映したものでなく、滓の流出により生じた陥没痕と推定される。	244他
89	第104図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型腕形鍛冶滓 (特大、工具痕付き?)	18.3	25.2	8.6	4084	2	なし	左右上手側の肩部が新しい破面になった4kg大の板屋型腕形鍛冶滓。平面形は一部が欠けた不整ハート形で、断面形は側部が急角度で立ち上がる深い腕形を示す。上面は乱雑な波状で、全体的には肩部寄りが高く内側が平坦気味となる。左右上手側の両肩部は一段小高くなって流動状の滓部に覆われている。下手側の肩部から側部にかけては2方向からなる工具痕あり。片方は肩部が径3cm大の丸棒状の工具痕により変形している。側部から下面はやや乱れた腕形で、表面には炉床土の剥離痕と木炭痕の部分が共存する。なお、本資料には流出孔滓の部分は認められない。	250他
90	第104図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型腕形鍛冶滓 (特大、流出孔滓付き)	25.6	20.1	7.0	5090	1	なし	下手側の端部が別単位の滓が重層したような形で突出する、異形の板屋型腕形鍛冶滓。下手右側の部分が段をなす破面になっており、側部から見ると太い流出孔滓の基部様にも見える。滓本体は不整形楕円形で、側部から下面は浅い腕形になっている。上面は緩やかな波状の平坦面で、上手側の肩部には3単位からなる工具痕が確認される。なお、上面全体の8割方が黄褐色の酸化土砂に覆われているため不明瞭な点が多い。滓本来の方向が紛らわしい資料で、現在の全体形状は新旧の滓の重層による可能性も排除し切れない。その意味では下手側の突出部が極めて紛らわしい形態である。前者のような流出孔滓を持たない腕形滓の一種と見れば、90度以上の右回転方向が正位となるかもしれない。	250他
91	第104図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型腕形鍛冶滓 (特大、流出孔滓付き、重層)	29.2	25.6	10.3	7600	2	なし	下手側の側部に幅12cm前後を測る大型の流出孔滓または小型の腕形鍛冶滓が突出している板屋型腕形鍛冶滓。破面は上手側の腕形鍛冶滓の左側部と下手側に突出する滓の端部である。それ以外の肩部と底面の中央部にも小破面あり。滓本体は左右方向に長手の不整形楕円形で、上下2段の滓が重なったような状態を示す。上面に乗る滓の形態から判断すると換業単位の異なる重層状態の可能性が高いかもしれない。下面は左右方向に長手の腕形で、単独の腕形鍛冶滓の底面とも似る。流出孔滓はこの主体となる横長の腕形鍛冶滓の下手側の側部から大きく突出しており、一見、流出溝滓様の上面観を示す。上面表皮は平滑で半流動状。別単位の小振りの腕形鍛冶滓が本体の腕形鍛冶滓の側部に重層したものと考えられるが、滓は完全に一体化しており隙間は認められない。	250他
92	第104図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	腕形鍛冶滓 (特大、工具痕流入滓付き)	27.1	19.0	8.3	5360	1	なし	右側の側部が破面になった5kg強を測る薄手の腕形鍛冶滓。上面全体はほぼ平坦気味で、表面には2cm大以下の木炭痕が密に広がっている。また、滓表面の一部は微細な流動状。上半の滓の平面形は径22cm前後の不整形で、側部から下面は腕形になっている。但し、下面には5単位以上を数える太い棒状の工具痕流入滓が確認される。何れも下手側から差し込まれた太い丸棒状の工具痕に滓が流れ込んだもので、内2ヶ所は先端部が窄まった形で収束する。工具本体は太い鉄棒か木の棒であろう。何れも差し込まれた方向に向かって滓が突出する形態となる。腕形滓の側部から下面の炉床土の剥離面主体で、部分的に木炭痕の目立つ部分もあり。	250他
93	第105図	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	板屋型腕形鍛冶滓 (特大、工具痕流入滓付き)	17.6	15.7	5.8	4401	2	なし	分析資料No12。 分析資料詳細観察表参照。	244他
94	第105図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	腕形鍛冶滓 (特大、重層)	20.4	19.4	9.4	3300	2	なし	上面が2段に重層した3kg大の腕形鍛冶滓。上下の滓とも右側部が破面になっており、上手側の肩部にも小破面が巡る。下手側の側部では上下の滓の隙間が認められるため、滓の重層が明らかである。上半部の滓上面がやや乱れており、下半部の滓は上面が窪む皿状となる。平面形は楕円形の一部をなす形で、側部から底面は横方向に長手の腕形となる。左半分では一体化して表面には炉床土の剥離痕が確認される。2ヶ所程小さく突出する部分があり、工具による炉床側の傷を写している可能性もあり。	295他

表45 鉄関連遺物観察表(9)

構成番号	挿図PL.	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
95	第105図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型腕形鍛冶滓(特大、重層、工具痕流入滓付き)	22.5	23.8	14.8	5930	1	なし	明らかに重層と判断される6kg弱を測る板屋型腕形鍛冶滓。滓の主体は上半部分で、下面に重層する滓は厚さ3cm程の扁平な腕形鍛冶滓である。また、明らかに古い破面があり以前の操業段階での滓の取り残し部分が後の操業に伴う滓と重層したものであろう。上半の滓は全体の8割以上を占め、特大の腕形鍛冶滓の中核部から側部にかけての破片と見られる。側部2面と肩部側の2面が破面になっているため分かりにくい外観を示す。上面にも破面は伸びており、6割方の表面が表層の剥落状態と見られる。生きている表面は左上手側が主体で、やや平滑な流動状態を示し、表皮の剥落部は気孔が肥大したガサガサした質感になる。生きている上手側から右側部は急角度で立ち上がり、残る左側と下手側の一部が破面主体となる。この側部の破面には1.5cm以下の木炭が密に顔を出している。また、左上手側の側部には上方から伸びる太い丸棒状の工具痕流入滓が突出する。	295他
96	第105図 PL.81	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	板屋型腕形鍛冶滓(特大、重層)	32.3	32.9	16.7	14200	2	なし	一部が欠けたハート形の平面形を示す典型的な板屋型腕形鍛冶滓。右側部の中央が欠けて下面には別単位の滓が重層しているが、本体側はもとの9割方の形態を保っている。上半部の滓は左右に長手の深い腕形から下手側の中央部方向に向かって別の腕形鍛冶滓が突出した様な平面形を示す。上手側の滓本体の上面は肩部が襷状に立ち上がり気味で、内側は左右2単位のように窪んで流動状の滓に覆われている。2単位の窪みのうち左側の部分は径16cm程の浅いクレーター状に窪む。羽口先の風の当たり範囲であるのか、滓上面の陥没によるものかは不明。但し、下手側の突出部が径14cmの腕形でこの部分の滓が本体の側から抜け出したことにより上手側の陥没痕が生じたという想定が可能かもしれない。この下手側の突出部の上面観は発泡気味の半流動状で、陥没痕の想定部分とは大きく異なっている。側部は二次的に固着した礫混じりの土砂により不明瞭な部分が多いが、灰褐色の炉床土に覆われた部分が各所に顔を出す。下面の滓の下手側に工具痕流入滓らしき突出部あり。資料は現状で14kg強を測り、下面の重層部分を除けば本来は12kg前後の重量となる可能性が高い。	295他
97	第105図	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	腕形鍛冶滓(特大、工具痕付き、含鉄)	10.9	6.0	4.5	430	5	H(○)	上面寄りの磁着傾向が強い腕形鍛冶滓破片。上下面の一部と下手側の側部が部分的に生きているのみで、6面の破面に囲まれており、もとの腕形鍛冶滓の肩部寄り破片であろう。上面には浅い工具痕が一ヶ所残されている。側部から底面は左上手側が立ち上がる傾向を持ち、破面や滓内部に肥大した気孔が目立っている。また、含鉄気味のため破面側の滓部は黒褐色で、発達した結晶部分が露出する。	244他
98	第105図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	腕形鍛冶滓(工具痕付き、含鉄)	13.0	14.0	4.0	659	4	H(○)	側部全周が破面に覆われた厚板状の腕形鍛冶滓破片。上面は平坦気味で中央部には擦れたような工具痕が残されている。下面はごく浅い皿状となる炉床土の剥離面。左側部の破面には段が生じており、重層または原料投入単位に由来するものであろう。滓内部にも粉炭痕が目立ち、気孔が肥大気味の滓である。含鉄部は左上手側の底面寄り。	295他
99	第105図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	腕形鍛冶滓(大、含鉄)	9.5	7.8	4.1	324	5	L(●)	分析資料No13。 分析資料詳細観察表参照。	295他
100	第105図	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	腕形鍛冶滓(特大、流出孔滓付き、含鉄)	14.9	9.7	7.3	1080	3	H(○)	左側部と右側部2面がシャープな破面になった腕形鍛冶滓の中核部破片。上面は小塊状の流動単位が連続する自然面、肩部には半周するような形で破面が残る。流動状の滓の表皮は暗紫紅色を示す。側部から下面は丸みを持った綺麗な腕形で、炉床土の剥離面と推定される。含鉄部は上面上手側の表皮沿いにごく小範囲。	244他
101	第105図	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	腕形鍛冶滓(特大、含鉄)	11.2	8.9	8.0	726	3	H(○)	左上手側を除く側部5面が破面になった腕形鍛冶滓の中核部から肩部にかけての破片。上面下手側の半分も表層が剥落する。破面の気孔は肥大して、滓が流動気味のためか全体的に変形が目立つ。側部から下面は乱れた腕形で炉床土が点々と残る。含鉄部は左上手側の表皮直下。	244他
102	第105図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	工具付着滓	3.0	2.8	2.6	11	1	なし	上面に幅1.5cm以上を測る浅い楕状の工具痕が残る工具付着滓。半流動状のイガイガした滓で表面には破面が認められない。腕形鍛冶滓等の下面等に差し込まれた鉄棒状の工具により欠け落ちた滓の表面破片かもしれない。表面には不規則な土砂または炉床土の圧痕が認められる。	295他
103	第105図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	工具付着滓	3.0	2.9	1.3	20	1	なし	上面に幅1.9cmを測る明瞭な工具痕を残す工具付着滓破片。工具痕の表面は部分的に黒光りしている。側部5面が破面で、最大厚みが1.2cm程の厚手の工具付着滓である。外面は上手側の側部が面をなし、残る側部は自然面と見られる。破面には気孔が散在する。	295他
104	第105図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系)	9.6	7.2	5.6	445	1	なし	左右の側部が破面になった流出孔滓破片。上面は僅かに木炭痕らしき窪みの残る平坦面で、側部から底面は深い舟底状になっている。また、表面にはスサ混じりの炉床土の痕跡を残す。破面の気孔は大小が混在して一部が変形する。	295他
105	第105図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系)	12.2	5.6	7.6	545	1	なし	上下2段に滓が重層する流出孔滓の先端部側破片。左側の側部2面がシャープな破面で、上面の滓の右先端部も小さく欠けている。下半の滓は径3cm大の丸棒状で右側の端部が収束する。上半部の滓は右側に向かい急激に薄くなり、上面はゴツゴツした状態を示す。上下の滓とも側部から下面は丸みを持った棒状ないしは舟底状で、炉床土が薄皮状に固着する。滓質は緻密で中小の気孔がまばらに広がっている。板屋型腕形鍛冶滓に伴う上下に重層する形の流出孔滓であろう。	295他
106	第105図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系、重層)	14.6	7.1	10.6	1241	1	なし	前者を一回り大きくした形の上下2段に重層した流出孔滓破片。左側部が破面になっており、右側部は上下の滓とも収束気味。但し、前方の部分が割り取られた後に表面が流動状態になった可能性が高い。下半の滓は基部側が厚さ6.5cmを測り重層した滓の主体となる。上半の滓の厚さは3cm弱で流動性がやや低く、上面中央部が浅く陥没している。滓全体の側部から下面は幅の狭い深めの舟底状で、表面には下方ほど炉床土の固着が目立つ。	295他

第3章 調査成果

表46 鉄関連遺物観察表(10)

構成番号	挿図PL.	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
107	第106図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔滓(鍛冶系、工具痕流入滓付き)	10.2	10.1	7.3	827	1	なし	やや分かりにくい形態の流出孔滓破片。左側部寄りが5単位以上の破面になっており、右側では急激に収束する。上面は流動状態で平坦気味の部分と小塊状の突出部からなる。下面の中央部には突出した形で径3cm大前後の工具痕流入滓が顔を出しており、右側部下手側の中段部分にも他の破片らしき突出部が残る。	295他
108	第106図	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	流出孔滓(鍛冶系、含鉄)	8.9	7.7	6.2	310	5	H(O)	下面右側が新しい破面になった流出孔滓様の滓破片。上面や側面の何れもが半流動状の自然面で、流出孔底で固化した状態の滓とは異なっている。表面の半分以上が酸化土砂や破面になっており、極めて分かりにくい滓である。表面には部分的に木炭痕らしき窪みが散在する。滓内部には微細な気孔と肥大した気孔が共存して密度は低め。	244他
109	第106図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔～溝滓(鍛冶系)	10.2	7.5	6.3	390	1	なし	左右の側部が破面になった流出孔から流出溝滓破片。上面左半分は扁平な丸棒状で、右側は急激に滓が途切れて流出溝滓側になる。短軸側の側部から下面は丸みを持った舟底状で、上手側の側部上半がやや広がっている。破面の気孔は右側部分が発達して上方に伸びる。	295他
110	第106図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔～溝滓(鍛冶系)	14.9	8.5	5.5	608	2	なし	左右の側部がシャープな破面になった流出孔から流出溝滓破片。上面が中間部分で小高くなっており、底面はやや上手側の中央部が尖った舟底状となる。また、左側の側部から底面には灰黒色の炉床土が固着するのに対して、右側の流出溝滓側は炉壁粉の圧痕や不規則な凹凸に覆われている。	295他
111	第106図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔～溝滓(鍛冶系)	14.6	10.3	10.4	1348	3	なし	上面右側3分の2が幅広い傾斜面になっている流出孔から流出溝滓破片。表面の酸化土砂に妨害されて、左右の側部に推定される破面状態は不明瞭。側部から下面は乱れた舟底状で、遺構面が荒れていることを窺わせる。上面右側は小単位の流動滓が広がる傾斜した自然面である。	295他
112	第106図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔～溝滓(鍛冶系、工具痕付き)	18.7	12.9	8.2	2163	1	なし	前者を一回り大きくしたような外観を示す流出孔から流出溝滓破片。左側の端部が2単位に分かれており、別単位の滓が横方向に並んだ形で重層している。上手側の端部は径3cm大の丸棒状で、下手側端部は幅5cm近い舟の軸先状を示す。また、上面と見られる自然面が下手側の側部にも認められ、滓が短軸方向に回転している可能性が高い。右半分は2本の滓が合体して幅12cm強を測る流出溝滓になっている。上面左側は平坦気味で右側は急激に傾斜する。また、幅広い工具痕により浅く窪んでいる。滓全体の破面は左側に伸びる滓各々の端部と右側部下手の一部に加えて、右下手寄り肩部の3ヶ所である。流出孔の出口付近で滓が合体して明らかに変形している証拠を残す資料である。	295他
113	第106図 PL.82	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	流出孔～溝滓(鍛冶系、工具痕付き)	23.7	15.9	8.5	2967	2	なし	左側部寄りの2面と右側部の3ヶ所がシャープな破面になった、流出孔から流出溝滓または碗形鍛冶滓破片。上面右側は一段低い流動状の面で、左下手側の肩部は広く表層が脱落する。平面形は左右に長手の楕円で、側部から下面にかけての外観は碗形鍛冶滓と極めて近い。左上手側の大破面の表面には工具による傷の疑いを持つ筋状の窪みが確認される。滓質は緻密で気孔が疎ら。やや性格のはっきりしない滓資料である。	244他
114	第106図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔～溝滓(鍛冶系、工具痕付き)	9.2	7.5	6.8	393	1	なし	左右の側部が破面になり、上面には重層気味の滓部が残されている流出孔から流出溝滓破片。左側部下半には細身の丸棒状の工具痕が確認される。下手側の工具痕は径1.4cm大の丸棒状。上面は乱れているが基本的な浅い楕円で、流動しながら中央部が陥没している様子を示す。平面形に加えて側部から下面も右方向が狭まっており、左右方向が逆の可能性もややあり。	295他
115	第106図 PL.82	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出孔～溝滓(鍛冶系、工具痕付き)	14.7	11.6	6.0	1342	2	なし	上面に方向の異なる大型の工具痕が3単位残る流出孔から流出溝滓破片。左右の側部を中心に小破面が数多く、一見、碗形鍛冶滓の一部のような外観を持っている。滓は流動性が低く、工具痕による突き崩しも生じている。側部から下面は幅広い楕円で、2単位以上の滓が横方向に重層して形成された可能性が高い。下面右側には複数の工具付着滓の破片が固着する。やや方向の分かりにくい滓資料でもある。	295他
116	第106図	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	流出溝滓(鍛冶系)	17.3	9.1	4.4	776	1	なし	下面に3単位以上の重層を示す突出部を残す流出溝滓破片。左右の側部が小破面で上面は右方に向うほど乱れている。やや右寄りの短軸側側部が括れており、工具痕に由来するずれの可能性が高い。左側の下面に突出するのは別単位の滓片。側部から下面は浅い舟底状を基本とし、表面には粉炭痕や炉床土様の付着物も認められる。	244他
117	第106図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出溝滓(鍛冶系、羽口先端部付き)	9.8	6.4	5.1	380	1	なし	左側部が主破面になった流出溝滓の先端部寄り破片。上面が平坦な自然面で、下手側の側部は先に欠け落ちた面が薄皮状に浮いている。下手側の側部やや左寄りの肩部には径2cm大の羽口先破片を巻き込んでいる。側部から下面は浅い舟底状。	295他
118	第106図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	流出溝滓(鍛冶系、工具付着滓付き)	6.8	8.05	3.1	200	2	なし	右上手側の側部に薄手の工具付着滓が固着した流出溝滓の先端部破片。やや乱れた楕円で、左側部がシャープな破面になっている。右側部は収束気味で、右下手側が大きく窪んだ状態を示す。下面は極浅い舟底状で、側部の立ち上がりは急角度。工具付着滓破片は厚さ2mm前後を測り、流動性の良好な滓由来と推定される。	295他
119	第106図	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	流出溝滓(鍛冶系、工具痕付き)	8.0	15.5	4.6	1129	1	なし	左右の側部が大破面になった幅広い流出溝滓または碗形鍛冶滓の中核部寄り破片。上面中央部が左右方向に向かい窪み、下手側には方向の異なるやや大型の工具痕が認められる。左下手側の工具痕は径2.4cmを測り鈍状の外観を示す。滓質は緻密で気孔はごく微細。側部から下面は綺麗な楕形で、表面には炉床土様の灰色の被熱部分が広がる。上手側の側部上半も破面の可能性を持っている。生きていた下面のみからいえば碗形鍛冶滓的な要素が強い。	244他

表47 鉄関連遺物観察表(11)

構成番号	挿図PL.	地区	出土遺物層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
120	第106図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	再結合滓(鍛冶系)	25.0	22.0	8.1	3900	2	なし	側部が徐々に薄くなる形の、大型の再結合滓破片。下手側の側部が破面で、残る側部全周に小破面が巡る。最も厚い部分で6.5cmを測り、外周部では2cm前後と薄くなっている。上面が浅く窪んで下面が皿状に突出することから、浅い土坑中で再結合したもののか。3cm大以下の滓片や羽口片に加えて、粉状の木炭や粒状の滓も含まれている。但し、全体的には各粒子の粗大な再結合滓である。下手側やや左手の肩部にはスマキ痕を残す羽口片も確認され、板屋型羽口と板屋型板形鍛冶滓由来の再結合滓であることを物語る。なお、遺跡内で形成された可能性の強い再結合滓が自然河川の流路中で検出されるということは、本来の鍛冶遺物の近さを予想させる。	295他
121	第106図	A区	NR1-2 d:黄褐色砂礫	再結合滓(含鉄)	14.05	9.9	4.5	623	4	H(○)	側部4面が破面になった厚さ4cm程の小振りの再結合滓破片。前者より密度が高く、滓片主体の再結合滓となっている。上面は平坦気味で下面が皿状になっている点と4.5cm程の厚みを持つという点で基本的には前者と似る。上下面が僅かに磁着気味で、内部に微細な含鉄部が予想される。	295他
122	第106図 PL.79	A区	NR1-2 a:灰褐色土・表土	鉄製品(鍛造品)(鎌?)	5.0	2.3	0.2	14	3	H(○)	表面に瘤状の土砂が固着した鉄製品破片。厚みは3mm以下で、右側部には薄板状の製品の先端部が顔を出している。右下手寄りの露出部分から見ると平面形が長手の台形のように見え、上手側が破面の疑いを持つ。鎌基部の先端部は左上手側の端部は鈍影れにより中空となっている。	244他
123	第108図 PL.79	B区	NR1-3 a:9層・砂礫層	炉壁(製錬炉?)	5.5	5.2	1.5	55	2	なし	側部4面が破面になった炉壁表面破片。内面は青黒く滓化して僅かに磁着する。外面にはスサ入りの炉壁土が薄く広がっており、色調は赤褐色を示す。還元性の炉壁様の滓化状態を示すことから製錬炉の炉壁かとしておく。	1258他
124	第108図 PL.79	B区	NR1-3 b:黒褐色粘質シルト	炉壁(製錬炉?)、 補修	5.1	4.5	2.7	65	1	なし	側面5面と外面が破面になった炉壁小破片。右側部の破面には厚さ1.2cm程の黒色ガラス質滓をベースにしたやや気孔の目立つ滓部が乗っている。内面には複数の垂れが盛り上がるように残る。外面には重層したような炉壁土の表面が確認され、補修壁の疑いを持つ。胎土や色調は前者と同様。	1260他
125	第108図	B区	NR1-3 c:砂礫層	流出溝滓(製錬系?)	6.8	6.4	2.8	166	2	なし	左右の側部がシャープな破面になった扁平な流出溝滓破片。流動性は良好で、上面表皮が荒れて気孔が無数に露出する。下面は浅い舟底状で土砂の圧痕が主体になる。滓質は緻密で上面表皮に近い気孔が肥大気味。	1349他
126	第108図 PL.81	B区	NR1-3 a:9層・砂礫層	炉底塊 (コーナー部、工具 痕流入滓付き、 含鉄)	22.8	17.3	22.4	11900	1	錆化(△)	下手側の側部に大破面が露出している炉底塊または板屋型板形鍛冶滓の半欠品。下面にもシャープな破面が5面以上露出しており、極めて結晶の発達した緻密な滓部が露出する。上面の判定に迷う資料である。従って可能性の強い板の方向で観察記録を製作する。上面全体は半流動状で、外周部から内側に向かって窪みながらも中央部側が不規則に盛り上がった滓部になる。上面中央の窪んだ部分は滓内部の抜けによる陥没痕の可能性もあり。平面形は左右方向に長手の不整半円形気味で、左右の側部は直立気味に立ち上っている。上手側も同様で、下半部では外周部が半周する形で滓の重層を示す破面になっている。従って、側部から見ると内外の重層が理解しやすい。外周部は厚さ3cm弱の緻密な滓層で、内側の滓部とは僅かに隙間が生じている。この部分の滓の生成を想定すると、立ち上がりの急な円弧状の炉壁表面に3cm程の厚さの滓層が張り付いた状態で一旦操業が終了している。次いでこの滓表面に炉壁土を上塗りした上で、後の操業が行われていることになる。炉壁部の補修を想定できるかもしれない。下手側の側部に露出する滓層の表面は本体部分が緻密なのに対して極端に密度が低く全面に中小の木炭痕が目立つ破面になる。左上手側の側部上半には明褐色の炉壁土や炉床土が薄く固着し、上面の一部にスサ入りの炉壁土が二次的に固着する。	1350他
127	第108図	B区	NR1-3 b:黒褐色粘質シルト	板屋型羽口(鍛冶) (先端部~体部、 スマキ造り)	5.7		5.4	445	1	なし	先端部が黒色ガラス質に滓化したスマキ造りの板屋型羽口先端部破片。羽口正面から見て左側部下半から頸部にかけての破片で、内面には通風孔部壁面の一部が残る。肉厚は4.5cm前後を測る。肩部は上方に向かい斜めに溶損し、頸部側には粘土質溶解物が垂れ落ちて溜まっている。体部外面のスマキ痕は乱雑で、左下手方向が入り組んでいる。また、外周部は一部に稜があり、縦断面形は多角形気味。胎土はスサを混じえる粘土質。	1575
128	第108図	B区	NR1-3 c:砂礫層	板屋型板形鍛冶滓 (特大、含鉄、木 炭付き)	9.7	10.9	6.1	716	3	H(○)	上下面と下手側の流出孔部が破面になった板屋型板形鍛冶滓破片。平面形は半円形で、右上手側の外面は立ち上がりの急な割離面になっている。もとの板形鍛冶滓の右上手側の側部中段から下半の破片ではないかと想定される。芯部寄り上半の滓は結晶が発達した密度の高い部分で、外周部から下端部にかけては2cm大以下の木炭を多量に噛み込んでいる。破片ながら外周部の立ち上がりは古代の板形鍛冶滓に比べて急角度といえる。滓部はやや磁着気味。	1349他
129	第108図	B区	NR1-3 c:砂礫層	板形鍛冶滓 (特大、含鉄、木 炭付き)	11.8	19.1	9.4	1668	7	H(○)	滓質はやや異なるが前者と似る外周部や下半部に木炭を多量に噛み込んだ板形鍛冶滓破片。上面は8割方が生きており、浅く窪む半流動状の平坦面になる。下手側の側部から左右の側部にかけてが破面で、下面も大半が破面と推定される。平面形は不整半円形で左上手側の側部が生きており、立ち上がりは急角度。上面を除く滓内部や下面には密に木炭を噛み込み、右側部ではほとんど木炭層に近い。板屋型板形鍛冶滓とすれば右上手側の側部上半破片であろう。	1349他

第3章 調査成果

表48 鉄関連遺物観察表(12)

構成番号	挿図 PL.	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
130	第108図 PL.81	B区	NR1-3 c:砂礫層	板屋型板形鍛冶滓(特大?、含鉄、工具痕流入滓付き)	30.7	21.9	12.1	8100	3	錆化(△)	平面形がひしゃげた不整形ハート形で、下手側の側部下半から流出孔滓様の突出部が斜め下方に伸びている典型的な板屋型板形鍛冶滓。肩部にごく小さな欠けが残る以外は完成品である。上面は中央部に向かい緩やかに窪み、イガイガした部分と平滑な部分が存在する。右側の肩部を中心に礫混じりの土砂が二次的に固着する。下手側を除く側部は板形に立ち上がり、表面には灰黒色基調の炉床土が点々と張り付いている。左側部の上端付近は破面になる。下端部から斜め下方に突出する流出孔滓は細長い塊状で、先端部が収束しているように見える。但し、風化が激しく流出孔断面が途中で細くなっている理由による可能性も残る。滓方向は板形滓本体に対して左下方に傾いている。8kg強の重量を持ち、板屋型板形鍛冶滓としては成長過程を明瞭に指し示す資料である。	1349他
131	第108図	B区	NR1-3 c:砂礫層	流出孔滓?(製錬系?、含鉄)	5.7	9.3	3.6	138	3	H(○)	左側部が破面になった流出孔滓または、流出溝滓の先端部破片。小さいながらも楕状の外観を示し肩部の出入りが目立つ。下面から右側部方向は浅い板形に立ち上がり、やや板形鍛冶滓に似る。表面の酸化土砂に妨害されて不明点が多く、板形鍛冶滓とすれば肩部片の可能性も残る。滓が含鉄気味であるのもやや気になる要素である。	1349他
132	第108図	B区	NR1-3 a:9層・砂礫層	流出溝滓(鍛冶系?)	9.0	8.2	2.9	240	1	なし	左右の側部が破面になった流出孔滓破片。上下面ともに左右方向に向かって盛り上がった形状で、上面にはゆつたりした滓部が重層する。滓質は緻密で部分的に気孔が発達する。下面は炉壁粉の圧痕主体。	1350他
133	第108図	B区	NR1-3 c:砂礫層	含鉄鉄滓(含鉄)	7.5	5.0	7.3	249	3	錆化(△)	側部3面が破面になった含鉄鉄滓破片。表面は破面と酸化土砂に覆われており判断の難しい資料である。破面に露出する滓部は黒褐色で不定形の気孔が目立ち、板形鍛冶滓破片の疑いも残る。その場合には滓の側部寄り破片の可能性があろう。	1349他
134	第142図 PL.81	B区	遺構外	板屋型板形鍛冶滓(特大、流出孔滓付き、木炭付き)	35.2	34.0	19.7	18800	1	なし	2片に割れている18kgを超える板屋型板形鍛冶滓。表面はオニイタ状の二次的な酸化物に覆われている。この酸化物中には小礫が多量に混在しており、自然河床に於ける付着物と見られる。下手側の側部上端に流出孔滓または工具痕流入滓様の突出部が伸びている。滓本体の上面は中央部に向かって僅かに窪んでいる形態で、側部から底面は立ち上りの急な板形になる。ほぼ中央部で短軸方向に向かって2つに割れており、破面には不規則な中小の気孔が目立つ滓部と木炭を噛み込む滓部が層状に重層した形で露出する。下から順次、板形の滓層が積み重なっている状態が明瞭である。下手側の流出孔滓様の突出部は径6cmを超える丸棒状で、2本とも上方に向かって伸びている。そのために工具痕流入滓の疑いも残る。	881他
135	第142図 PL.79	B区	遺構外 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)(薄板状不明、鎌?)	(7.8)△	2.5	0.3	20	3	錆化(△)	最大幅2.5cmを測る薄板状の鉄製品破片。2辺が接合されており、左右の側部はシャープな破面になっている。短軸方向で厚みが異なる。上手側が3mm弱と厚く下手側が対部用に薄くなっていることから、鉄製の破片ではないかと想定される。透過X線像によれば、程度にはムラがあるものの錆化が進んでいることを窺わせる。なお、接合状態が悪くスレも生じている。	1697
136	第141図 PL.79	B区	遺構外	炉壁(製錬)(補修?)	5.1	4.1	2.1	38	1	なし	内面が黒色ガラス質に滓化・溶損して垂れている炉壁小破片。側部から外面は破面で、外面の一部にスサ入りの炉壁土が露出する。側部から見ると炉壁土とガラス質の層が重層している様にも捉えられ、補修壁の疑いを持つ。	881他
137	第141図	B区	遺構外	流出溝滓(製錬系?)	6.8	7.9	3.2	272	1	なし	上下面と下手側の側部が生きている流出溝滓破片。残る側部5面が破面になる。厚さ3cm弱の滓で、上面の半流動状の滓部には細かい木炭痕が残されている。下面は浅い楕状で、土砂中の小礫や木炭痕が混在する。滓質は下半部が緻密。	881他
138	第141図	B区	遺構外	流出孔滓(鍛冶系)	5.1	2.8	1.4	36	1	なし	左側部から下手側の側部の一部が破面になった小単位の流出孔滓破片。左上から垂れて右方向に広がりが気味の形態を示す。側部から下面は不整形な舟底状で、灰褐色基調の炉壁粉や圧痕に覆われた流動する滓の先端部破片である。	881他
139	第141図 PL.79	B区 D8	遺構外 砂層	鉄製品(鍛造品)(棒状不明)	3.3△	0.9	0.8	3	2	錆化(△)	上手側の端部が割れて内部の錆化した中空部が露出する棒状不明品。下手側の端部が細くなって収束し、横断面は円形を示すため鎌や釘ではないものと予想される。	1623
140	第141図	B区 B4 B5	遺構外 黒褐色粘質シルト	鉄製品(鍛造品)(棒状不明)	12.4△	1.0	1.0	34	4	特L(☆)	1cm前後の方形気味の断面形を持つ棒状不明品。端部は両側とも欠けているように見える。但し、錆化の進行と外周部の酸化物の付着が激しく不明点も多い。下手側の端部が僅かに薄くなっているようにも見える。透過X線像によれば内部のメタル部の残存状態が明瞭で、外周部や鍛造痕にはうねりがあるようにも見える。時期的に古墳時代や飛鳥時代など古い鉄製品とは考えにくい。	1443
141	第150図	C区 D8	遺構外 暗褐色土	羽口(鍛冶)(先端部、ガラス質滓付き、緑青付き)				12	1	なし	分析資料No14。 分析資料詳細観察表参照。	1508
142	第150図	C区 D8 D9	遺構外 暗褐色土	板形鍛冶滓(小、含鉄)	3.9	2.5	1.2	20	3	錆化(△)	分析資料No15。 分析資料詳細観察表参照。	1480
143	第150図	C区 E9	遺構外 暗褐色土	板形鍛冶滓(極小、含鉄)	2.8	1.8	1.85	7	3	錆化(△)	左側部に木炭痕と見られる中空部が生じている滓小破片。右寄りの側部から下面は小さいながらも板形で、もとの板形鍛冶滓の肩部を窺わせる。上面上手側には木炭痕あり。出入りの激しい板形鍛冶滓の肩部破片の一部かもしれない。	1598
144	第150図 PL.79	C区 E9	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(薄板状不明、鎌?)	(3.4)△	(3.1)	(0.4)	9	4	錆化(△)	下手側の側部が連続した小破面になった薄板状の不明鉄製品。一見、弥生時代の無頭鎌のような外観を示すが錆化の具合がかなり異なっている。左右の側部から上手側の先端部がいずれも薄くなって収束する形の籠状になる。透過X線像では構成No135の鎌と類似した錆化状態で、鎌等の鉄製品の先端部破片の疑いも残る。但し、背側の厚みは鎌としてはやや不自然。	1598

表49 鉄関連遺物観察表 (13)

構成番号	挿図PL.	地区	出土遺物層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上番号
					長さ	幅	厚さ					
145	第150図 PL.78・79	C区 D8	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(鎌)	4.1	3.5	0.1	7	3	錆化(△)	比較的整った形態を持つ薄板状の無頭三角鎌。外観やX線像上では穿孔部は認められない。やや過度の錆落としのためか、全体的に薄くなっている。また、透過X線像的にも錆化が進み、右側の刃部では本来の厚みを失っている。	1600
146	第150図 巻頭図版5	C区 C8	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(棒状不明品、鎌茎?)	6.1△	0.5	0.4	4	2	錆化(△)	細身の方形断面を持つ棒状不明品破片。上手側の端部は明らかに破面で、下手側ではやや長方形気味の断面形となる。錆化が進み芯部が中空化して、外面の2ヶ所に瘤状の錆彫れが認められる。錆化の程度や断面形から見て構成No.3と類似するため、7世紀代の長頭鎌の茎部破片ではないかと推定される。	980
147	第150図 巻頭図版5	C区 D8	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(棒状不明)	15.0△	0.6	0.4	10	2	錆化(△)	5片に割れている細身の棒状不明品。一旦は、接合されており、透過X線像では長さ15.2cm以上を測る弓状に反った細い棒状を示す。横断面形は長方形で性格は不明。錆化の程度は進んでおり、前者と比較的近い形態を持つ。	1580-5
148	第150図 巻頭図版5	C区 D8 D9	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(刀子)	4.5△	1.1	0.3	3	2	錆化(△)	細身の刀子の刃部から基部にかけての破片。長軸の両端部が破面になっており関の部分是不明である。背側は確認されるが、刃部側は錆化して先端部が脱落してしまっている。茎基部は不明瞭。	1480
149	第150図	C区 D9	遺構外 灰褐色土	鉄製品(鍛造品)(刀子)	3.6△	1.3	0.4	14	2	錆化(△)	右上手側の肩部に関の部分が確認される刀子破片。長軸の両端部が破面になっており、芯部は錆化して中空化が進む。背側が4mm前後と厚く前者に比べてしっかりした刀子である。表面に瘤状の錆彫れが残り、同一ボリ袋中にも2片の錆化物が残されている。	1451
150	第150図	C区 D8	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(刀子?)				4	1	錆化(△)	錆取りが甘く、表面状態がゴツゴツした酸化物に覆われた鉄片状の鉄製品破片。外観的には刀子の破片様で、右側部の破面には極めて薄い鉄製品の端部が顔を出している。但し、透過X線が未撮影のために刀子とまでは判断しきれない。	1580-3
151	第150図 巻頭図版5、PL.78	C区 D8	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(鎌)	15.6	2.5	0.2	25	2	錆化(△)	長さ15.5cmを測る細身の小型鎌。3片に割れて接合が行われている。最大幅は2.4cm程度を測り、右側の基部が上方に短く折り返されている。なお、全体的に研ぎ減りが進んでいるためか、基部から刃部側に3.5cm程入った部分では身幅が1.9cmと狭くなっている。	1580-1
152	第150図	C区 D8	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(環状不明)	3.5△	2.0△	1.0	6	2	錆化(△)	厚さ1.5mm前後を測る環状不明品破片。右側部全体と左側部の7割方に加えて、短軸側の端部が両側とも破面になっている。縦断面形は上手側の肩部が鉤の手状に広がっており、方形または長方形の本部を覆う形態と推定される。用途は不明ながら何らかの刃物か工具の板に装着された鉄製品の可能性が高い。錆化が進み外観はオニイタ状を示す。内側には短軸方向に向く本部の痕跡が確認される。	1580-2
153	第150図 巻頭図版5	C区 D8	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(棒状不明)	8.1△	1.9	0.6	15	3	錆化(△)	長方形の縦断面形を持つ長さは10cm程の棒状不明品。表面は分厚い酸化物に覆われており、錆落としが不完全な状態である。表面には錆彫れが残り、右端の部分では芯部が中空化する。本来の方向は不明で、破面もはっきりしない。断面形から見て釘ではないものと判断される。	1580-4
154	第150図 巻頭図版5	C区 D9	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(工具状不明)	15.1△	1.5	0.7	43	4	特L(☆)	左右の側部が破面になった工具状不明品。縦断面形は長方形で、残る右側は短軸方向で急激に狭められており、工具の板部に似た外観を示す。左側3分の2の部分は長方形の縦断面形を持つ鈍状に成形されている。左右の中間部には明瞭な関が認められず、短軸の両側から押し潰されたような成形がなされている。棒状の未製品というよりも鈍状の工具を疑わせる。透過X線像によれば、基部側はほぼ生きており、本体の部分では鍛造痕とみられるやや乱れた筋目が認められる。	1581
155	第150図 巻頭図版5、PL.78	C区 E10	遺構外 黒褐色土	鉄製品(鍛造品)(有肩鉄斧、木部付き)	6.9	4.4	1.6	95	5	特L(☆)	やや小振りの有肩鉄斧。刃部は3.2cmの長さを持ち、最大幅4.2cmを測る。両側の体部半ばに肩部が5mm程突出する形で成形されている。袋部は左右から折り返され、長さは3.4cmを測る。袋部の内部には木部が遺存し、右上手側の端部では基部から1cm程突出する。刃部先端は使い減りして右側が3mm程短くなっている。表面には錆彫れと細い放射割れが認められる。同一ボリ袋中には保存処理時に取り外された錆彫れが残る。透過X線像によれば刃部先端寄りには錆化が進む。本資料のような形態を持つ有肩鉄斧は、古墳時代中期に相当する半島産の疑いを持つ。	1197
156	第150図 巻頭図版5、PL78	C区 E9	遺構外 暗褐色土	鉄製品(鍛造品)(有肩鉄斧)	9.9	6.3	2.3	203	5	特L(☆)	前者より一回り大きな有肩鉄斧。上手寄りの袋部が左右とも複雑に欠け落ちている。刃部の長さは現状で4.3cm前後を測り、最大幅は6.1cmである。両側の側部には体部から5mm程突出する肩部あり。袋部は左右方向から短く折り返される形で長さは6cm以上を測る。袋部の横断面形は最大3.8cm×1.5cmほどの長方形。本資料も刃部が使い減りして右側が1.3cm程短くなっている。表面は錆彫れの目立つ酸化物に覆われており、保存処理時の錆彫れの欠けも表面には残る。透過X線像によれば刃部先端と袋部の広範囲が錆化しているが、刃部基部側から袋部の芯部にかけてはメタル度が比較的良く残っている。前者とは出土位置が近く使い減りも似ていることから共通した古墳時代中期に属する半島産の鉄製品の疑いを持つ。	1583

第3章 調査成果

表50 縄文時代以降石器・石製品観察表(1)

遺物番号	遺構 区 層位名	取り上げ番号	挿図 PL.	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)	備考
S94	SS8 下層	559	第61図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:1.65 最大幅:1.4 最大厚:0.2	小型で扁平な凹基無茎石鏃。完形。	0.41	
S95	SS8 下層	747	第61図 PL.76	擦石	安山岩	最大長:7.7 最大幅:7.25 最大厚:4.2	やや厚手の円形を呈す擦石。全面よく磨かれる。	341.00	
S96	A区 SK1 埋土中	1722	第81図 PL.76	砥石	流紋岩質凝灰岩	最大長:18.7△ 最大幅:5.6 最大厚:2.6	薄手の長い撥形を呈す砥石。一方端及び裏面一部欠く。両面・両側面よく使用され、湾曲する。	344△	
S97	A区遺構外 H5グリッド 灰褐色土	22	第133図 PL.76	石鏃	黒曜石	最大長:3.25△ 最大幅:2.5△ 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	1.64△	
S98	A区遺構外 G5グリッド 表土	29	第133図 PL.76	石鏃	黒曜石	最大長:3.0 最大幅:2.3△ 最大厚:0.5	黒曜石製やや大型の凹基無茎石鏃。かえり部一方欠く。	2.43△	
S99	A区遺構外 G5グリッド 表土	895	第133図 PL.76	石鏃	黒曜石	最大長:1.65 最大幅:1.25 最大厚:0.28	黒曜石製小型の凹基無茎石鏃。完形。	0.37	
S100	A区遺構外 H6グリッド 表土	14	第133図 PL.76	石鏃	黒曜石	最大長:1.6△ 最大幅:1.3△ 最大厚:0.2	黒曜石製小型の凹基無茎石鏃。かえり部先端一部欠く。	0.32△	
S101	A区遺構外 F5グリッド 灰褐色土	912	第133図 PL.76	石鏃	黒曜石	最大長:1.75△ 最大幅:1.4△ 最大厚:0.35	黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部・かえり部一部欠く。	0.6△	
S102	A区遺構外 F6グリッド 灰褐色混礫粘質土	1467	第133図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:2.2 最大幅:1.9 最大厚:0.3	サヌカイト製扁平な凹基無茎石鏃。完形。	1.40	
S103	A区遺構外 F6グリッド 黒灰色土	39	第133図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:2.5△ 最大幅:1.9 最大厚:0.35	サヌカイト製薄手の凹基無茎石鏃。先端部欠く。	1.56△	
S104	A区遺構外 I9グリッド 黄褐色土	973	第133図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:2.5△ 最大幅:1.65 最大厚:0.45	サヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	1.45	
S105	A区遺構外 J8グリッド 表土	159	第133図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:2.25 最大幅:1.4△ 最大厚:0.25	サヌカイト製扁平で細身の凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.51△	
S106	A区遺構外 H7グリッド 表土	39	第133図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:1.75 最大幅:1.3 最大厚:0.35	サヌカイト製小型の凹基無茎石鏃。完形。	0.80	
S107	A区遺構外 I7グリッド 表土	166	第133図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:2.4△ 最大幅:1.8 最大厚:0.3	サヌカイト製扁平な平基無茎石鏃。先端部、側縁一部欠く。	1.27△	
S108	A区遺構外 I8グリッド 灰褐色混シルト～砂	155	第133図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:2.6 最大幅:1.6 最大厚:0.3	サヌカイト製扁平な平基無茎石鏃。完形。	1.01	
S109	A区遺構外 D4グリッド 灰褐色混粘土	458	第133図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:2.2 最大幅:1.15 最大厚:0.35	サヌカイト製扁平で細長い平基無茎石鏃。完形。	0.72	
S110	調査区一括	1824	第133図 PL.76	削器	サヌカイト	最大長:4.6 最大幅:7.65 最大厚:0.8	不等辺台形を呈す削器。一側縁に刃部をもつ。	35.96	
S111	A区遺構外 F6グリッド 黒灰色土	954	第134図 PL.76	磨製石斧	頁岩	最大長:13.05△ 最大幅:6.45△ 最大厚:2.3	扁平で長い磨製石斧。基部一部・先端部欠く。	303△	
S112	A区遺構外 D4グリッド 表土	917	第133図 PL.76	磨製石斧	結晶片岩	最大長:12.2 最大幅:4.65 最大厚:2.0	ほぼ完形のやや細身の磨製石斧。	178.00	
S113	A区遺構外 I7グリッド 黒褐色混礫土	502	第133図 PL.76	磨製石斧	頁岩	最大長:4.15△ 最大幅:4.9△ 最大厚:0.85△	磨製石斧刃部片。S111の破片の可能性あり。	17.65△	
S114	A区遺構外 H7グリッド 灰褐色土	162	第133図 PL.76	砥石	流紋岩質凝灰岩	最大長:7.4△ 最大幅:3.8 最大厚:2.4	断面方形、撥形を呈す砥石。主な砥面は四面あり、よく使い込まれ湾曲している。	112△	
S115	A区遺構外 H5グリッド 灰褐色土	23	第133図 PL.76	砥石	流紋岩質凝灰岩	最大長:8.95△ 最大幅:4.4△ 最大厚:3.9	厚手の不整形長方形を呈す砥石片。両端・側面を欠く。主な砥面は一面で、線条痕あり。	200△	
S116	A区遺構外 F6グリッド 灰褐色土	227	第133図 PL.76	砥石	細粒花崗岩	最大長:13.2△ 最大幅:6.25 最大厚:5.4	方柱状の砥石。裏面・両端部欠く。主な砥面は2面あり、よく使い込まれる。	559△	
S117	A区遺構外 I9グリッド 灰褐色混礫土	245	第133図 PL.76	砥石	安山岩質凝灰岩	最大長:3.15△ 最大幅:3.35 最大厚:0.7	扁平で長方形を呈す小型の砥石片。主な砥面は二面あり、線条痕あり。	12.3△	
S118	A区遺構外 F5グリッド 灰褐色混礫土	689	第133図 PL.76	硯模製品	泥岩	最大長:3.55△ 最大幅:3.65△ 最大厚:0.65	小型で扁平な硯破片。海に当たる部分を線刻で表現。	14.19△	
S119	A区遺構外 I7グリッド 暗褐色混礫土	527	第133図 PL.76	敲石	玄武岩	最大長:11.85△ 最大幅:5.1 最大厚:3.4	断面三角形を呈す敲石。一方端欠く。一方端に敲打面。	266△	
S120	A区遺構外 I9グリッド 表土	517	第134図	磨石	安山岩	最大長:17.0 最大幅:6.75 最大厚:4.85	長楕円形を呈す棒状の磨石。全面よく磨く。完形。	873.00	
S121	B区遺構外 D7グリッド 黒褐色粘質シルト	1672	第141図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:1.8 最大幅:1.3 最大厚:0.35	サヌカイト製扁平な平基無茎石鏃。側縁一部欠く。	0.85△	
S122	B区遺構外 D7グリッド 黒褐色粘質シルト	1702	第41図 PL.76	石鏃	黒曜石	最大長:2.1△ 最大幅:1.35 最大厚:0.3	黒曜石製細長い凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.79△	
S123	B区遺構外 B4・C5グリッド 黒褐色粘質シルト	1625	第141図 PL.76	砥石	頁岩	最大長:7.5△ 最大幅:2.25 最大厚:1.4	断面方形、棒状を呈す砥石破片。一方端を欠く。主な砥面は三面あり、よく使い込まれている。線条痕あり。	33.49△	

表51 縄文時代以降石器・石製品観察表(2)

遺物番号	遺構 地区 層位名	取り上げ番号	挿図 PL.	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)	備考
S124	C区遺構外 E9グリッド 攪乱土	816	第151図 PL.76	石鏃	黒曜石	最大長:1.65△ 最大幅:1.85 最大厚:0.3	黒曜石製扁平で幅広の凹基無茎石鏃。 先端部欠く。	0.71△	
S125	C区遺構外 DBグリッド 暗褐色土	1599	第151図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:2.1△ 最大幅:1.5△ 最大厚:0.2	サヌカイト製薄手の凹基無茎石鏃。か えり部端部欠く。	0.6△	
S126	C区遺構外 D10グリッド 黄褐色土	832	第151図 PL.76	石鏃	サヌカイト	最大長:3.65 最大幅:2.05 最大厚:0.35	サヌカイト製大型の平基無茎石鏃。完 形。	2.49	
S127	C区遺構外 DBグリッド 暗褐色土	1577	第151図 PL.76	敲石	安山岩	最大長:13.9 最大幅:7.9 最大厚:5.3	長楕円形を呈す敲石。両端及び側面に 敲打痕。完形。	847.00	
S128	C区遺構外 F12グリッド 表土	272	第151図 PL.76	磨石	デイサイト	最大長:8.5 最大幅:5.9 最大厚:3.5	やや扁平で楕円形を呈す磨石。全面研 磨。	682.00	